雜錄 洋鬼より見たる日本觀有り

中央公論

要目

第拾八年第壹號

1月1日發行

THE CENTRAL REVIEW

全部完成　再版發行

米國ジョン、ダブリユバルジエス原著
法學博士　高田早苗
早稻田大學講師　吉田己之助　共譯

早稻田叢書　政治學及比較憲法論

（合本出來正價金貳圓七拾五錢小包料四百匁）

全二冊
背皮上製美本
紙數千二百頁
定價各一圓五十錢
郵稅金十四錢

本書は今代第一流の政治學者として歐米に名聲を轟したるバルジエス博士の大著作ポリチカル、サイエンス、エンド、コンパレーチヴ、コンスチチユショナル、ローを譯述したる者にして筆を國家の起原形躰に起し英米獨佛各國の憲法を比較して民主主義の米佛立憲君主制の英獨各政躰の優劣法制善惡を評論し明快の論理卓拔の識見一讀人をして政治學の要義憲法の法理原則に通曉せしむる名著なり且此書英獨の二學派を折衷して議論公平なれば特に我國の讀者に適す曩に上卷を出版したるが今や全部完成す

米國フランク、ジエー、グウドイ原著
早稻田大學講師　浮田和民譯述

早稻田叢書　比較行政法

全一冊
脊皮上製美本
紙數凡八百頁
正價金二圓
郵稅二十錢

これ前の比較憲法論の姉妹作なり世の行政法を説く者多く獨佛を稱揚すと雖も其實質及精神に至ては英米亦大に長所なくんば非ず斯書は研究至難なる英米の行政法を解説すると極めて明瞭にして又獨佛の制に比較して其長短優劣を明かならしむ斯學開けて以來の名著作といふべし思ふに學者に政治家に行政官吏に各種受驗者に無比の參考たるべし

發行所　東京牛込早稻田　早稻田大學出版部
發賣元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

中央公論

本號目次



お手傳ひ

A WILLING HAND (By Fred Morgan)

中央公論



第十八年
第壹號

世界の大勢と狹義の忠愛

吾皇室が特殊の歴史と美麗の德性とを以て萬國の帝室に比類を絶し給ふは今更吾人の喋々し奉るを要せざる也。唯其歴史を増長大にし、其德性を増發輝し奉るは吾人日本國民の義務にして、又吾人祖先の遺忠を繼承する所以ならざる可らず。

而して直接奉仕の任務を悉くし、能く聖慮の存する所を體す可きものは宮内省の官人にして、彼等にして若し職其人を得ざるが如きことあらば上下懸絶して上旨下意、動もすれば相通ぜざらんとす、是の如きは日本臣民たるもの丶一大不幸たる可きは勿論、圓滿美麗なる吾皇室の尊榮に對し奉り、亦甚だ畏れ多きの至りならずや。

吾人は今日の宮内官吏を指して直ちに職に其人を得ずと云ふものに非ず、然れども此古今未曾有の大變事に乘し、萬里の波濤を拓開し世界に大を稱せんとし給ふ偉絶雄絶なる聖旨を翼賛し奉るに於て、彼等果して遺憾なき識見と手腕とを有するものありや否や、吾皇室が進て舊來の陋習を去り、天地の公道に法り、大々的飛躍を書し給ふの今日に於て、尚且つ舊式を云々し、故格を云々し、其身は十年も二十年も時代の精神に後るゝもの之れなきや否や、皇室は八面玲瓏、一の秘密秘隱を許し給はざるにもかゝはらず、彼等は寧ろ階前萬里、深宮千尺の昔を忍び居らざるや否や、四民平等一視同仁海内赤子の如しと宣へる詔勅に對し、彼等は寧ろ嚴峻なる上下の區廓を構へ、貴族と云ひ、平民と

いふ、差別的迷見に拘泥するに非ざるや否や、吾人實に惑ふ可きもの多し。

彼等動もすれば云ふ皇室は尊嚴なりと、皇室の尊嚴なる日本臣民たるもの誰か知らざらん、然れども其の尊嚴たる決して皇室の御威光に畏怖し奉りて始めて生したるものに非ず、吾國開闢已來、二千五百年の間、子々孫々に遺傳し、血肉に混し、骨髓に刻し、遂に忘る可らざる忠愛の情に發したるものにして、皇室は國民に對して獨り尊嚴無比なるのみならず、國民信仰の標的たり、敬慕の本體たり、國民の皇室に於ける實に一種の宗敎として見るべきものある也、然るに彼等はイカにも六ヶ敷この尊嚴を楯となし、それは不敬に亙るべし、此は尊嚴を汚すべしと、只管皇室と人民とを遠からしめ、人民の皇室に對し奉る畏れ多くも、恰も腫物に觸るゝの感あらしむるものあり。

昨年來の新聞紙の中には陛下の御巡幸に際して見聞したる事實に就て評論したりしもの太だ尠からざりし。彼九州大演習地方に於ける地方官、或は市町村長等の拜觀に關する告示、若しくは警察官などの拜觀人民に對するの所爲、往々にして滑稽に流れたるものありしが、要するに是れ偏地の小吏、若しくは名譽職に在るの徒が事に慣れざるの致す所となさば亦恕すべきもののなきに非ず、然れども宮內省官人なるもの亦た是等の地方吏人等と同樣の意見、否寧ろ地方吏人をして是等の處置を執らしめたりと見るべきものあらんか、吾人は決して至尊陛下の大御意に叶ふたるものと信ず能はざるのみならず、却て是れ聖德の發輝を妨ぐるの擧動なりと云はざる可らざる也。

神戸クロニクルなる英字新聞は同地の市長が歡迎者に發したる訓令を見て、その兒戲的にして干涉に過ぐるを嘲笑したりしが、是の如き事例は今更事新しく吹聽する程の事に非ずして、吾人日本臣民が常に遭逢する事實なるのみならず。其の甚しきものに至ては、一國敎育の中心たるべき仲間に於てすら、單に御通輦を拜觀せんとするものに向ひ、御通輦前六步、御通輦後六步に至る迄頭を低れ、眼を下け、最敬禮を行はしめんとす

るの儀さへ之れあり、果して若し是の如き事實を見るに至らば、是れ臣民をして到底天顔を拜す能はざらしむるものなり、前六步、後六步、頭を低れ眼を下く如何ぞ天顔を拜するを得ん、果して若し是の如き規定にして必要なりとせんか、爰ぞ一步を進て天下の拜觀者をして悉く土下坐を切らせ平身低頭地上に匍匐せしめざる、而して是れ尚ほ足らずは更らに數步を進めて沿道人家の門戸を閉鎖し屛息し御通輦の終るを待たしめざる。

想ふに是れ平民の分際として天顔に咫尺するは誠に畏れ多しとの意味なるべし、然り素より畏れ多し、然れども今日は是れ天皇を拜し奉れば盲目となるべしと云へるの時代に非ざるなり、至尊陛下は四海を赤子とし親しくその疾苦を知ろし召し、人民は畏れ多くも民の父母にて在す陛下に咫尺し、天顔の麗しきを拜し奉り百年の渴仰を滿足す、是の如くして皇室の尊嚴愈其光を增し、陛下の慈仁增其德を加へ給ふに至らん、而して臣民の忠愛心は靄々乎として更に大に發揮するを見ん也。

之を海外文明諸國に見るに、國情の同じからざる一樣に論す可からずと云へども、各國民が其國の元首たる人に對し、相當の敬禮をなし奉るの外に何等の規定あるを聞かざるのみならず、何か儀式的鹵簿を拜觀するに於ても沿道の人民、三階四階五階十階の樓窓に塡溢し、手を拍ちハンカチーフを振り、萬歲を絕唱して敬意を表するの例なるを見る、吾人は今ま更ら吾國をして是の如くならしめんと望むものに非ずと雖も、今や吾國は東洋の文明國とし、世界の日本として、大に舊時の面目を洗滌すべきの時に當り、尙且つ與ふ可くんば支那的、朝鮮的、土下坐的、叩頭平身的禮容を以て民人に强ひ以て皇室の尊嚴を保ち得たりとなす、吾人は實に彼等の時代後れを憫まざる能はざる也。

今上皇后兩陛下が臣民の疾苦を宸襟に懸けさせ給ひ、特に慈仁深く渡らせらるゝは中外に表顯して何人も知らざるものなき所なり、各地の天災地變の爲め下し賜れる金額は比年其高、莫大なるものある可く、又別し

て皇后陛下の思召として赤十字社を始め、公私の各慈善團隊へ下賜あらせらるゝ御手元金も決して尠少ならざるは天下の感泣し措かざる所なり、想ふにかゝる天大の仁慈奉仕其人を得ば恩光及ぶ所蓋し測る可らざるものあらん。

吾人嘗て故英國女皇陛下ダイヤモンドジユベリーの當夜、同國皇太子及び妃兩殿下が倫敦市中の貧民を宮中に召し、殿下自ら主人となり、親しく晩餐を賜りたるを聞き、又昨年同エドワルド七世陛下が其戴冠式を擧行せらるゝに當り、又々同樣の事ありしを讀み、深く同皇室の恩を最下層に垂れ給ふの渥きに感じたり。而して翻て吾宮中に於かせられては如何、御謁見とか御陪食とか云へる國民無上の寵榮を專らにするものはイツも位勳赫灼なる貴族、若しくは官吏、然らずんば國家の元老と稱する一度官吏たりし老朽翁のみにして、無位無冠嘗て政府に緣故なき一平民にして、如何に國家に功勞あり、世界に貢獻する所ありし人物なりとも曾て是等の恩榮に浴するの道なく、皇室と平民とは依然として階前萬里の海山を隔てり、見よ吾國に於て大なる學者にして是の如き恩典を蒙りたるものありや、大なる詩人、大なる文學者、大なる新聞記者にして是の如き恩典を蒙りたるものありや、又大なる實業家、大なる藝術家の類にして是の如き恩典を蒙りたるものありや況んや社會最下層の貧民輩をや、彼等をして時に宮中の盛餐に對し聖恩の無窮に感激せしめんとするが如きは、故格舊例に拘泥する今日の宮內官人輩の決して夢想するだに能はざる所なるべし。

之を遠く海外に求むる迄もなく、現に御歷代聖母の御一人にて在す光明皇后は躬親しく手ら千人の貧者を洗浴し給へりと云へり、畏れ多き例ながら今若し吾皇后陛下にして第二の光明皇后たり給はんとするが如きことあらば、今日の宮內官吏は恐惶狼狽何等の上啓を爲してか之を諫止し奉る可きか、彼等平生の筆法に見て吾人之を察するに苦しまざる也。

吾人常に想ふ吾國の下等貧民は皇室直接の御慈惠を得るに非ずんば活く可らずと、之を文明諸國にせば慈善

は殆ど貴族富豪の專有事業として其慈善力は尤も強大なるを見れども吾國の貴族富豪は一夕萬金を投して酒池肉林の豪華を爭ふものあるも、日々營々として倘口を糊するに難する下等種族を憐愍するを知らず、三井と云ひ岩崎といふの徒すら、斯種の事業に對して未だ大なる犠牲を供したるを聞かず、是れ單に吾國下等種族の不平となす可きのみならず實に吾國全躰の一大不幸といふべき也。然るに今若し吾皇室に於かせられて直接に間接に更に大に慈善の御主意の是等下等民族の上に發洩さるゝことあらんか一視同仁の聖慮更に大に發揮さる可く聖德の廣大を感ずる獨り是等下等民族のみならず天下を擧げて皇運の萬歲を絕叫するに至らん也。さなきだに社會風敎の標準と仰望し奉る皇室に於かせられ已に是の如し、君子の德は風なり、如何で社會慈善の美風を吹撒し來らざらん、吾國慈善奬勵策として蓋し是に過ぎたるものあらざるべし。素より今日に於ても吾皇室の御仁惠は吾人臣民が彼此申し上る迄もなく常にその優渥を感戴し奉る所なりと雖も、隴を得て蜀を望むは下民の情也。其大御意をして特に大に最下級民族の上に浸徹せしめ奉るは今日の宮內省官人の宜しく意を致すべき所ならずや。

貴族にのみ重を措き、平民を輕侮するは十八世紀已前の痼疾なり、而して吾國に在ては倘是の如き謬見の未だ全く消し去らず、特に宮內官人の如き最も此病毒に感染し居るの深きを見る可く、彼等乃ち云ふ貴族は皇室の藩屛なり、直接皇室に左右し奉るべきは貴族あるのみ、貴族にあらす有階者にあらずして一平民たるものゝ皇室に近接し奉るは不敬なり、尊嚴を瀆冒するものなりと、而して終に陛下が特に國民に勅して朕は爾を股肱とすとの宜ひ天下と共に相頼り給はんとする天空海濶の聖旨に思ひ及ばざる也。要するに彼等は全國四千余万の蒼生が奉戴し推尊し日夕忘れ奉るとなき皇室を一部の貴族有勳の徒をして私せしめずんば已まざるもの也、畏れ多くも皇室と人民との間に巨大の溝渠を作爲せずんば已まざるもの也、嗚呼是れ豈に四海の赤子を提けて世界に雄を震はんと期し給ふ今上陛下に

奉仕するものの事ならんや。今や頑冥固陋世界の一名物たる支那の宮室に於てすら英語の流行を見るの時代にあらずや、彼等たるもの將に大に發輝せんとする聖旨を翼賛し奉るの力なくんばせめては之を妨阻し奉るが如き行動なからんことを祈らざる可らず。

終りに吾人は更に民間固陋の國學者、國躰論者の類、若しくは究屈にして進歩の何たるを解せざる多數の教育者輩に向て一言を呈せざる可らざるものあり、彼等の中には徒らに神聖神聖と稱し、世界の物笑となる可き愚論を振り舞はし、以て得たりとなすものあれば、又狹義の忠愛を栖とし、動もすれば不敬といふを以て他を傷けんとするものあり、彼の近年頻々として絶叫せらるゝ不敬事件なるものゝ眞相を見よ、率ね皇室の神聖にも尊嚴にも關係せざる枝末枝葉の事柄を執へ來て喧々し囂々するに非ざるなきか、吾人曾て是の如き徒を罵て僞忠君僞愛國の徒と云へり、彼等の行動たる單に國運の進歩發達を害するに止らず、畏れ多くも隠聞の中引て累を皇室にも及ぼし奉らんとするものあるなり彼等たるもの世界の大勢時代の精神を鑑み彼等の標榜する忠君愛國の四字に對しても猛省する所なからざる可らざる也。

終に臨て尚ほ注意すべきものあり世には皇室と宮内省とを同一視せんとするものあり、其の謬見たる吾人の辨明を待たずして知るべし、吾人が上來論したる畢竟今日の宮内官人の固陋偏僻なる動もすれば私情を以て天大の德光を覆蔽し、却て皇室の御主意なり、御方針なりとせんとするを慨し、聊かその猛省に資せんとしたるのみ、蓋しこれ亦万國に比類なき吾皇室の御德性を増發輝し奉る一動機ともなりなんとの一微衷に過ぎざる也。想ふに讀者當に之を諒とせらるべし。

勤儉貯蓄と風俗改良

左は老伯の談話に依て記したるもの誤謬有らば責記者に有り

伯爵　板垣退助

老生が當初民權自由の說を唱道するに至つた動機は、往年兵を率ひて會津を攻めたる時の感想に胚胎したの

である、當時會津の籠城者は壯烈なる戰をつゞけ人をして感ぜしめたることであるが、此戰をなした人民は只三千の籠城者、則ち藩士の名有る者計りで、他の農工商一般の人民は別に反抗せざるのみか、昨日の敵は今日の味方、多くは我軍の爲めに奔走をした。此時老生は一種の感に打れて思ふには、東北の雄藩と呼ばるゝ會津にして此通りである、今後若し日本と外國との關係生じたる場合に於て果していかゞであらうか、守るものは各藩の士分許りで、他の多數國民が此の如き狀態であればそれこそ一大事である。今此三千の籠城者は平生より樂を共にしたから今又憂を共にする。是非共日本を擧げて四民を平等にし、責任を共にし、苦樂を共にせざるべからずと。これが四民平等民權自由を唱道するに至りたるそも〳〵の動機である。それ故土佐は他の各藩とは異にして、他の壓力を借らず武士より進んで士の常職を解ひたのである、廢刀を斷行したるは誰よりも劍客が第一番であつた。

自分は素より學者でもなんでもなけれど、只從來大勢の向ふところを直覺し、恒に其率先實行者を以て自任して居る。先年來每々云ふ通り、今日の我國は制度の日本、軍政の日本、教育の日本としてやゝ整頓したるが、今一歩風俗上の日本を今日に於て整頓せざれば、到底世界の文明國と共に發達を得ることが出來ぬ。今の有樣では辛ふじて國と國の交りは出來るが、人と人との交はりは出來ぬ。

故に此風俗改良の仕事は老生晩年の事業として飽くまで力を盡さうとするところで、如何なる非難も如何なる障碍も之を排し倒れて後止むの覺悟である。

如何なる方面の病弊も、今の日本では風俗の改良が行はれざれば只其枝末を心配して根本の治療を等閑にすると同一である。其一例を擧ぐれば、近來松方伯始め歐洲歸來の人々や、其他に依て勤儉貯蓄の說が大に唱道さるゝが、これも他の風俗を改善し、社會の制裁力を增すことゝ並行せざれば何の詮無きことゝ信ずる。

勤儉貯蓄は實に必要なることでありて、今日の時弊を救ふの大要件であるが、老生の望むところは之を唱道

する人々が、單に經濟家實業家としての立脚地より其一部分のみを考へずして、人間の幸福社會の福祉と云ふ大躰より考て、一國風俗の根本的療治をも等閑にせざらんことである。現に或る商業會議所では蓄貯奬勵の爲に割增金を歡迎せんとして居る、かゝる下層多數の人民に投機心を增大し、僥倖を思はしむるが如きことをせんより、實際親切に今日の下層多數人民の爲めに考かへてやるつもりならば、マダ／＼爲すべき仕事は澤山有る。現在下層の貧民は已に家を興こすこと、產を起こすことに絕望して、其快樂を積極的に求めずして、只消極的に求めて居るのである。故に身を修め產を成さんとするものは最も少くして、肉躰の慾、口腹の慾を恣まにして、背越しの錢を費はぬと云ふ風習となつて居る、かゝる輩に向て、唯單に其奢りを止めよ衣を節せよ食を節せよと云ふのみにては實に同情無きことにして、それよりは其の消極的の快樂を轉じて希望有る積極的の快樂を求めしむる樣に種々救濟の方法喩へば消費組合の如きものを設けこれを善導せねばならぬ、かくしてこそ玆に彼等の風習を一變するに至るのである、かくしてこそ下層社會風俗の根本的改良にして勤儉貯蓄の實効もその時にいよ／＼顯著であると思ふ。

又今の中流社會に就ても、風俗を改良し、社會の制裁力を強めると云ふ大勢を先づ製造するの必要がある。借金持ちが倉を建てると云ふがごとく、商人などは錢が無ければ猶更信用を繫ぐ爲め其身裝を飾る必要もある、座蒲團一ッ茶菓子一個も之に準ずる、これが今日の社會でこれを奢侈なりとて正面より徒らに攻擊するよりも、交際の或程度までと生活の一通りの費用以外は皆奢りであると思はしむるには、風俗改良の側よりせざれば駄目である。大勢已に成れば自然多數が質素を眞似るに至るものである。上流社會も亦勿論のことにして彼等に先づ風俗改良の實を擧げしめ、馬鹿費ひの錢を慈善事業や公共事業に投ぜしめねばならぬ。其他今日の學生が奢侈なりと云ふもそれを無暗に攻擊したからとて何の役にも立たぬ、婦人の方の知識が進み

かゝる懦弱の男子を喜ばざるに至らば至然に改まるのである。政界の腐敗と云ふも徒らに之を罵るより、先に國民の制裁力を作らば、自然に買收も賄賂も消滅するのである。

之を要するに先づ風俗改良と云ふ點に於て一世の風潮を作り出し、社會善良の制裁力を強むるに非れば、諸種の問題其解決が完全に出來ぬ。我國今日の大事は何よりも風俗改良の一點にあることを老生は堅く之を信ずる。

無籍者の宗教觀

下

徳富猪一郎

門内教徒に對する態度

諸君、此信仰といふものは實に神聖なものであるからして自分の信仰が人の信仰と違つたといつて人の信仰を妨害するやうなことはしたくない、若し此の人々の胸中の安心を言つて見れば十人十色であるでありませう、こゝに列座して御出てになる御方々でも若し正直に自分が何處て安心したといふところを御話しになる日になれば悉く此一つの型から鑄ち出したやうには行きますまい、必ず多少の相違があるであらうと思ふ、併ながら直ちに其相違を持出して喧嘩して果して何の利益があるか、又互に其相違を持出して己の安心は此通りだから貴様の安心は間違つて居ると言つて何の益があるか、他人の信仰を妨害するやうなもので變チキな議論を吐いてさうして人はそれで安心して居るけれ共御前さんは安心は出來ない、人は是で非常に良い水だと思つて飲んで居るけれ共自分はバチルスかベスト菌が這入つて居るといふやうなことを言つて人の信仰を破つて何の利益があるか、私はこゝに於て一つの一般の規則を定めたい、私が定めたと言つては貴君方が御聽きにならなければそれ迄のことでありますが私は貴君方を強制する權限は毛頭持たぬ人間でありますから私の規則は本當の規則である、併ながら若し私が定むるやうな權威に立てば所う云ふことを定めたい、それは何であるかと言へば、自分同志の宗派の中の於ては各々自分の心の中の安心を守つて多少の自分の心の中に違つた者があつてもそれを言つて別に利益が無いといふ考があればさう云ふ議論を言つて一般の妨害を與

えることはしない、と云ふことであります、耶蘇教の方では斯う云ふことを使徒パウロといふ人が申したことがあります、「若し肉を喰つて自分達の兄弟を躓かすることがあれば自分は肉を喰ふことを止める」自分の行ふことで自分の兄弟の躓きとなることは自分はしたくない、といふやうな意味を申したのである、是は實に宗教家の心得べきことである、世の中では動々もすれば自分の新規の發明の議論などゝいふやうなことで其議論が善ければ決して差支もないが唯々其自分の議論を吐いて兎に角斯う云ふ一つの逆つた議論で自分は行かうといふとて色々の論を持出す時になつては十人十色で誰の安心も壞はれて仕舞つてとう／＼立場が無くなるやうになりますからして、其大躰に於て一致する限りは小さな事や何かに付ては詰らない議論は先づ止める方が然る可しと信ずるのである、それならば盲從ちやと言はれるのですが、さう云ふ方に極端に行く譯では無いけれ共が、詰らない取るに足らないやうな小さな議論は成るべく出さない、さうして廣く仲間の協同一致を以て其一致の力で教を世間に弘むるといふことが實に必要であると思ふ

他の宗教に對する態度

諸君モウ私が申上げることはチヨツと是で三分の二を過ぎて居る、三分の一殘つて居るから御聽きを願ひたい、それで他の宗教に對するところの態度も少し申上げて置かなければならない、どうも他の宗門を壞はすといふことは惡い、佛教家が基督教の事を惡く言ふのも惡い、基督教の方から佛教の方を惡く言ふのも惡い佛教家同志で惡く言ふのも惡い、基督教同志で惡く言ふのも惡い兎に角他に對する時には何處までも英語のtoleration、寛大の精神を以て行きたいと思ふ、之に付きましては、貴君方も御聽きになつたでございませうが、一つの話がありまするが、昔土耳其人、亞刺亞比亞人、波斯人、希臘人、斯う云ふ者が寄つて一緒に何か御馳走を喰べたいと申出でた時に土耳其人が申しまするには自分はアザムといふ物が欲しい、亞刺比亞人が申しますのには自分はアチブといふ物が欲しい、波斯人が曰はく自分はアンガーといふ物が欲しい、希臘人が申しまするに自分はスタフ井リオンといふ物が欲しいと言つて互に欲する物を非常に爭うて居る中に給仕が葡萄を盆に捧げて持つて來たら皆が見てア、是が僕の言ふ物であつた、是が僕の言ふ物であつた、是が僕の言ふ物であつたと言つて四人の者が互に手を出

して喰つたといふことがあります、大概の喧嘩は先づ名の喧嘩ですね(笑)浪華の華は伊勢の濱荻ですかな、さう云ふ譯であつて、大概喧嘩しても名義の喧嘩であつて其實物は一つである、それで宗教家も大概は先づ看板の喧嘩だ、宗教家の喧嘩のみならず、政黨の喧嘩の如きは看板ばかりを爭うて居るのでありまする、所がさう云ふことの喧嘩をして居ては困る、詰り宗教家は靈魂の醫者である、社會の人はチヨッと言つて見れば病人である、ところが茲にベルツと橋本さんとが居りて病人の所で摑み合をしたり撲り合ひをしたりしては病人に取つては困るのである(拍手)諸君、それで先づ異敎徒に對しては寛大自分の敎内に對しては協同、斯う云ふことになりまするが社會に對してはどうである、是が餘程考え物である、宗教家には二つの仕事がある。

宗教家の二つの仕事

則ち個人を救ふといふことゝ社會を救ふといふことゝ二つのやり方がある、是はどつちが宜いといふことは措いて兩方を忘れてはならぬ、一人〱に鼠が物を引くやうに、是は喩が極く卑近でありまするが信者を作つて引張り込むことも一つの矢張り救ふ方法であります、又大きな網を作つて社會を又打被せて行くといふことも一つのやり口である、所が個人にばかり念が入る人はそこの御婆さん、そこの御爺さん、そこの病人やそこの色々の困つて居る人や、總てそれらの人々を救うて慰めて行くといふ人は社會を一つ救ふといふてとの念は乏しくなる、又社會を救ふといふ人はナニ一人や二人はどうしても宜いぢやないかといふやうな話になつて來る、併ながら此兩方を私はやらねばいかぬであらうと思ふのである、兩方やろうといふことに付ては殊に個人のことは申す迄もないが社會のことに付ては私は一言申上げたいと思ふことがあります。

それは社會を救ふといふ時に於ては先づ社會を全體として見るのであるから救ふ以上は此病氣に依つて藥を盛らなければならぬから、今では社會の病狀を觀察するといふことが餘程必要である、社會の病狀といふが其病といふ字が餘り特別であれば社會の實情と言つても宜い、現に角世の中が一つの大きな團體であつてそれがどう動いて行きをるか、斯う云ふ風に動いて行きをるか、といふやうな世の中を横に切り縦に切り十文字に切つて此處は斯うなつて居る此處は斯うなつて居ると總て世の中を之を部分にしては解剖し之を全體に

して總縮し丸るで世の中を手の上に載せて見るやうにスッカリ世の中の大勢を呑込んで何處までも世の中を引張つて行くといふことでなくてはいかぬ、若し此世を救ふ宗教家も丸るで世の中の進步に連れて行くことが出來ず、石臼か何かのやうに世の中が進んで行くにあとに振り殘されて引張られて行くやうなことでは實に困るのであります(笑)兎に角此着實とか溫厚とか又は信仰が厚いとかいふ種類の宗教家は動もすれば此社會の目から見れば、石臼のやうな宗教家が多い(拍手)是が困るのでどうしても自分が社會を引張らなければならぬ、社會を救ふところの御醫者さんが病人から藥を盛るれるやうなことではモウ御醫者さんとして立つ資格が無い斯う諦めねばならぬであります(拍手)

我邦の宗教は政治よりも早く平民的に傾けり

諸君、私の申上げることは、略々盡んとして居りまするが實際未だ盡きたのぢや無い(笑)私は一言眞宗のことに付て申し上げたい、惡く云ふのぢや無い矢張り褒める方でありまするが(笑)私も知らないことを詳しく言へば擧足を取られるかも知れぬから先づ大躰を申上げて置きまするが日本の佛敎のことは知らぬけれ共日本の歷史を見て見れば日本の歷史の中に無論佛敎がありまするがどうしても日本の歷史から取去ることは出來ませぬが其中に眞宗の起つた時代といふものは申上げる迄も無く源平の亂後其時分に眞宗が起つてさうして今日まで至つて居るのであるが政治上の進步と宗敎上の進步といふものを見て見れば、我邦の政治上の進步が宗敎上の進步よりも後れて居る、宗敎の平民的に傾いて行つたことは眞宗が初て平民の仲間に宗敎を本當に及ぼしたのでありませうが、それに較べて見れば餘程宗敎の方が平民化したことが早い、兎に角此の政權が藤原家から武門武士に移つてさうして封建時代となつたさうして遂に平民まで移つたのと、又た佛敎が王室からえらい所を越して來て段々やつて來てとう〳〵親鸞上人の時代になつて是れが平民の間に最好く及んだ其の間を較べて見れば、政權が上から斯う落ちて來たものと、それから宗敎の敎化が及んで來たものとParalel line、併行線に引いて見れば宗敎の方が早い、平民主義といふものは宗敎の方に先きに進て政治の方があとから來て居るのである、詰り是から言つて見ればです、貴君方の御宗門は社會にどうして勢力を

得たかと言へば、社會の勢ひに先んじて社會の勢ひを制して來て、人心の需要の向ふところ未だ能く向きもしないけれ共向かんとする時にさう云ふものが段々と起つて來て遂に人心が需要する時にそれに投じたからである、是はどうも必ずしも眞宗の歴史ばかりぢや無い、西洋に於ける宗教の歴史といふものを段々御調べになつて御覧になれば其の通りである、所がですね、先祖は其通り社會を導いて三百年なり六百年なり先きに進んで來て居るのに子孫は又三百年六百年後れては困る、矢張先祖の進んだ如く遺訓を奉じて御出てになるといふ御方に於ては特別の御責任であらうと思ふ、此點は間違へばどうぞあとから御正しを願ひまするが併なから其例は間違つたかは知らぬけれ共其道理は私は万々間違てはないと思ふのであります。

諸君、あなた方も御承知でありませうが羅馬舊教、此カトリックの歴史は面白い、今カトリックの歴史を申上ければ非常に長い、左なきだに長き演説を又た長々しうやるのである、さう云ふことは致しませぬ、唯々一言申上げて置きたい、羅馬教がどうして一時衰微したかガリレオを牢に入れて地球が轉はると言つても羅馬法王はどう云ふとがあつても地球は轉らない、チャンと四角なものである、天が廻はるといふことを是非言はしたのである、羅馬教の衰えた所以は此一例でも分る、世の中の進歩の勢ひに乘じて社會の全般が斯う云ふ風になつて行き居る、所が羅教馬は幾ら盛んであつても幾ら仁王立をしてもそれを喰止めそれを引止めるといふとは出來ない、にも拘らず尚ほ引止め喰止めやうとしたからそこでプロテスタントの Reformation が起つた、ところで流石の羅馬教も今日に於ては目が覺めて非常に今日の羅馬カトリックといふものは勢力を回復して來て居る、御承知でもありませうが羅馬舊教といふものは名こそ舊教であるけれ共其仕事は新教よりもモウチッと活潑にして居るそれで英吉利にも盛んである亞米利加にも盛んである、今日は資本と勞働などゝいふ此新しき問題に付ては誰が一番に進んで解釋を試みたかと言へば、英吉利に於ては實際に此資本家と勞働者間の調停を試みたのは羅馬舊教のカルヂナルマンニング即ち大僧正マンニングといふ人であります、其一事を以て羅馬舊教の人々は今日では盛んである、又此宗教が社會と共に關係しなければならぬといふことは分るのであります、私は諸君に向つて此點に於て御注意を願ひたいと思ひます。

政權に依賴するの愚

諸君愈々話が終りになりますが宗教と政府との關係に付て貴君方の御參考に供したいことがある、兎角此世の中ですね、政府といふものがモウチツと保護して呉れさうなものである、兎角どうも政府の保護が足らない、此問題は貴君方に私が申上げると閑問題のやうに御聽きになつていけない、實は是は閑問題では無い活問題である、此議論は實に山縣内閣も迷惑したのである（拍手）貴君方の宗旨も多少迷惑になつたかも知れない、餘り言ふと具體的になりますからして私は此事は抽象的に申して置かねばならぬ（笑）是は實に考へ物である、宗教家は何處までも政權に依賴して仕事するやうなことでは宗教家は何の爲に立つか殆ど其立つ所以が無い（拍手）言つて見れば宗教家が政府を助けて行き導いて行くといふことは聞えた話であるけれ共宗教家が時の政治家から導かれて手を引かれて行かねば獨りで歩くことが出來ぬといふことは餘程間違つた話である（拍手）何處までも宗教家は自分で自分の位地を高く取つて社會の先導者となり人心の收攬者となり何處までも時の政府を能ふ丈け助けて之を導いて行くといふことでなくてはならぬのに自分の方から頭を低げて何處までも御保護を願ふなどゝいふやうな考では迚も宗教の大なる光を放つことは出來ない、貴君方の御宗教の歷史を御考へになれば南都北嶺總て當時の政權に倚つたところのもので、唯々一つの親鸞上人は何の力と言つて宜いか其力の形容は出來ないけれ共其の力に倚つて今日の眞宗を御作り出しになつたことを御考へになつたならば宗教は決して政權に依賴して出來べきもので無く詰り政權に依賴すれば宗教は寧ろ腐敗することは明白である（拍手）私の申上げたいことはですな未だ數限りが無い、御緣があればモウ一度位は來て申上げたいものでありまするがそれはマア御緣の有無として今日は是て御免を被ります（拍手喝采）

國民性質の惡傾向

幸田露伴

政治若くは經濟など云ふ方面に涉る我が國民の病弊に就いては、各方面の專門家の親切なる高談があるに相違無い、去れば余は少しく其の方面を異にして、我が日本國民の性質の上からこゝに一言しやうと思ふ。則ち余は多年從事して居る仕事の上から、親しく色々な

人に就いて觀察し、また書物の上に見はれた人に就いて考へもし、或ひは又外國人との性質に就いて多少比較も取て見て居たから、その中にいくらか心附いた點を述べようと思ふ。

第一　暗黒の方面に心を止むる厭世思想

我が國民は動もすれば暗黒なる方面にばかり心を止めて、光明赫々たる方面を忘る。即ち世の暗黒面ばかりを見て、光明の方面には頭を向けぬと云ふ傾向があるが、これは我が日本國に取つて不利益なことであらう。我々の方面から云へば、この忌はしい病弊は、我が日本文學の殆んど全躰に渉つて居ると云つても宜い。万葉以前はさうでも無かつたが、その後は何れの時代の文學を見ても、何うもこの可厭な臭ひがして居るやうだ。さて現今の人は何うかと云ふと、矢張この病弊に罹つて居て、正直な質の人、技能を有つて居る人、即ち我が國家の神聖の民たる可き人達の中に於て、特にこの傾きがあるやうに見える。然るに惡い質の人には樂天家（何時も其邊で景氣の好いことばかり云つて居る）が多いが、國民として尊重すべき質朴な人の中には、何うも厭世家が多いやうだ。余が言を疑ふ人は、試に吾が知る人の範圍に於いて、質朴な人と浮游な人との區別を立て丶、その何れの側に樂天的傾向を有する人が多くて、また何れの側に厭世的傾向を有する人の多いかを比較して見たならば、恐らくは疑ひは晴れるであらう。そこで眞の善良なる人間が、樂天的の思想を以て仕事をしたならば、その人が厭世的の觀念を以て仕事をするよりも、大いに好良たる結果を得るであらうと云ふことは、蓋し誰しも點頭く所であらう。

さて厭世の傾きは、動もすれば精神に頓挫を起し、從つて其の事業に退屈し、詩歌的の感情のみを高ぶらせて、實務的の手腕を鈍らせる弊がある。若し實際非運に遭遇したにしろ、光明ある側を見出し勝ちて、暗黒なる側を忘れ勝ちの人なれば、氷雪の中にも春の近付くを感じて、自ら慰むと云ふやうな愉快な光景を生じて、自個の從事せる事業に於て退屈せざるは勿論、却て勇氣を鼓舞して事に當るにも至るであらうが、左樣で無い場合にはスグに、ソレ雨が降つた、風が吹いた位のことにも退屈して、切りに厭嗟不平の聲を發するやうに至る。これ最も國家に取つて損な現象であると思ふ。兎角又善人に限つて、厭世家に成り易い傾きの多いのは、殊に恐しく思ふ所である。

第二　我が國民と排他心

日本人の性とて一概には云へないが、何うも排他心（換言すれば、雅量の乏しい偏狹な）の多いが、これも亦病弊の一ッてある。例へば惡人を惡む――それは惡いことゝては無いが――にも、餘り惡み過ぎると云ふと、その爲に惡人をして、悔悟の念を起す機會をば失はせて仕舞ふ、况して材能の勝れて居る人を嫉むとか、自分の性質に叶はぬ性質の人を忌み嫌ふとか云ふやうな嫉妬心、若くは放恣の念の混ッて居る宜しくない動機から他の人を排斥し、或ひは排擠して、これを容れると云ふことを知らぬと、何程總ての事業に蹉跌を與へるかも知れぬのである。これは少し社會の實相に注意することを怠らぬ人であるならば、いくらでも其の實例を見出し得ることゝである。早い話が人の惡口を書いた物は、人の惡口を書かぬものより多く讀まれ、人を攻撃する議論は人を辨護する議論よりも多く聞かれ、その事の是非曲直眞僞はさて措いて、都て他を排斥し他の價値を損するやうなことを力めたやうなものが、多くの人に歡迎せらるゝのを見てもいかばかり此の惡い傾きが、我が國民の性質の中に大分部を占めて居るかを想像することが出來る。日本中でも、或る縣或る國の人民は、殊に此の性質に富んで居る。また或る縣或る國の人民は、やゝこの惡性質を缺いて居る。但し要するに材能があつて、世の中に立つて何事か遣つて行けると云ふやうな人物が、動もすれば此の惡性質を多く具有して居るには困る、若し國外に陰險不德なる政治家があつて、我が日本國を敵と認めた場合に、我が國民のこの一大欠陷を利用したならば、蓋し怖ろしい大成功を收め得るであらうと思ふ。――現今の伊藤侯若くは山縣侯などゝ云ふ人は、何れも我が國家に大功を建てゝ、その勳業は國外の人さへも認むるに吝ならぬ程で、我が國家も亦た至當なる待遇を與へて、これを尊重してあるのだ。然るに此等の人に向つて、至當なる尊敬を拂ふことよりは、不當なる蔑視を與へたることの方が、我が國民には喜ばれるやうな傾向があるやうだ。これは最も喜ぶ可からざる性質の欠陷より生じ來る現象ではあるまいか。故も無き輕蔑は常に尊敬すべき人々に與へられて、そうして其の不當なる處置は拍手を以て迎へられると云ふのは、何んと苦々しいことゝては無からうか。社會の狀態斯の如くなれば、氣の弱い眞面目な人間が、動もすれば社會の暗い方面ばかりを見て嗟嘆の聲を發し、厭世的の傾向を生ずるに至るのも、また無理ならぬことゝてはあるまいか。若

し自分を貴ぶ如くに他をも貴び、自ら愛する心を推して他をも愛するやうな雅量の乏しく無い人々が多かつたならば、家々の受ける利益は常に大きくて、總べての事業も圓滑に活動し、且又圓滿に成功して行くであらうと思ふが、若し此の排他の心が非常に強ければ、甲の力が乙の力と殺し合ひ、丙の力が丁の力と殺し合ひ、日本國中に幾多の英雄豪傑を出した所で終に鼬ごッこ、鼠ごッこ（所かはれば品かはる、人種が異へば目色も異う。毛色も異へば氣も違ふ。國の病ひも亦色々。さてこゝに氏が、鼬ごッこ、鼠ごッこと話せるは、申すまでも無い、幼な遊びの彼れでして、痛さを互ひに我慢し合ッて、鼬ごッこ、鼠ごッこと云ひながら、子供が互ひに手の甲を爪り合うのである、或は地方では此の遊びを、一が刺いた、二が刺いたとも云ふ、此段一寸念の爲めに記者が一口添へて置く）に終つて、那等の功績も社會に遺さずに終るであらうが、此位國家に取つて不利益なことは無いであらう。さてこの反動として、日本人の性質を觀察すると、世に豪傑などゝ云はれて居る人程が、常に此の惡性質の少くない人が多いのは、誠に可笑い現象ではあるまいか。

（氏の談話に依て記したるもの文責記者にあり）

主獵局と振天府

（宮内大臣に望む）

山縣悌三郎

都下の一新聞は先頃『宮中の改善』と題して宮内省官吏の反省を望み、其冒頭に、

宮中を改善することは、我が　皇室の御威德を加へ奉るに於て頗る必要なり。吾人の茲に宮中と謂ふは申すまでもなく宮内省に限る、其改善すべしといふは宮内省の官吏についていふなり。

とあつたが、余が茲に述べんとする所も勿論之れと同じく、唯宮内大臣に對して聊か微意のあるところを述べんと思ふのである。讀者の誤解せざらんが爲め豫め一言し置く。

さて其一ッは主獵局に就いての事である。主獵局は宮内大臣に屬して狩獵及び獵場に關する事を管理する所で、現今局長一人、主事一人、主獵官十五人あり。無論其職務は狩獵に從事するにあつて、其外に屬、監守鷹匠など明治二十四年の職員錄を見ると四十八人もある。

元來遊獵といふ事は人道の上から見て果して如何なるものにや、禁獵地を設けられて禽獸を保護せらるゝのならば誠に結構な事であり、又昔支那にて佃獵とて天子自ら山野の害獸を驅除せらるゝが如きことは無論わるくはないが、有害なる禽獸を除くにあらずして、無罪可憐なる者に對し、他の狩獵者の決して入り込まざるが爲めに動物より見れば寧ろ避難所ともいはるべき其禁獵地へ不意に主獵官が押しかけられ、安心して居る禽獸を濫殺せらるゝといふことは果して　陛下の仁慈深き大御心にかなふ事であるか。

史を按ずるに昔仁德天皇の條に

　天皇嘗て皇后と共に、高臺にあつて避暑し、每夜菟餓野の鹿鳴を聞き之を愛し給ふ。其聲寥々として悲愴なるを以て常に可憐の情を起し賜ひき。一夜鹿鳴かざりしに、翌日猪名縣の佐伯部、苞苴を献せり。天皇膳夫に令して其何物なるやを問はしめ給ひしかば即ち牡鹿なりと答ふ『何處に獲たりや』と問ふに、『菟餓野に獲つ』と答ふ。天皇皇后に謂つて曰く『朕此頃懷抱する事あり、鹿鳴を聞きて之を慰めたりしに、今鹿を獲るの日と其場所とを以て推考するに、佐伯部が献ずる所の鹿は蓋し朕が愛する所のものなりき。獲る者固より之を知らずと雖、朕心に釋然たらざる所あり。彼をして皇居に近づかしむることを欲せず』

とある。又我が君子國に比すれば所謂『德禽獸に及ぶ』といふことの美譚少かるべき歐洲に於てさへ英國皇室の如きは、かの有名なる動物虐待防止會に對して非常なる同情を寄せられて厚き保護を加へられて居る。

英國の王家動物虐待防止會の創立は一千八百二十四年にて、其時は單に動物虐待防止會といつたのであるが故女皇ヴヰクトリア陛下は一千八百卅五年即ち御即位の二年前から既に同會の保護者(ペトロン)兼終身會員となり給ひ、一千八百四十年、陛下の思召に依り特に此會に「ローヤル」(王のといふ意)の冠字を賜りて「ローヤル、ソサイエチー」と名けしめ給ふた。又女皇陛下は一千八百八十七年、ローヤル・アルベルト、ホールにて開かれたる同會の總會に親臨あらせられ、同會よりは陛下の光榮ある治世第五十年に達したるにつきての祝文を呈し、併せて陛下の仁愛深き保護に對して謝意を表し奉りしに、陛下よりは左の勅答を賜はつたとのことである。

　余が即位以來こゝに五十年に達したるの故を以て

汝等の忠誠なる祝辭を受くるを得たるは余の大に滿足する所なり。

余が臣民に文明の普及する徵候の中、下等動物に對する仁愛の情の增長したるを見ることは余の衷心誠に喜びに堪へざる所なり。如何なる文明も其博愛仁慈の德澤を、かの防禦力なき無告の動物に及ぼさゞる間は決して之れを完全なりといふことを得ず。

本會の盡力により、道德的進步を促し人類の性情を高め、兼ねて余等の周圍にある所の諸動物の幸福を進めたること洵に多し。余は汝等が將來堅く其の尊ぶべき目的を守らんことを信任す。余も亦た永く本會に對して熱心且つ十全なる同情を續けん。

誠に有りがたき御言葉である。女皇陛下は實に同會の爲め一千八百三十五年より一千九百一年崩御に至るまで六十餘年間、終始同情を寄せ給ひ、時には同會に書を贈りて皇子皇女が『動物虐待防止に關する懸賞作文』に賞を得たるの喜びを述べ給ひ、時には親ら同會功牌の製作を監督し給ひたり。今の皇帝陛下も、亦皇太子たりし御時より、皇后陛下と共に、既に同會の保護者となり、現に皇太子殿下をして同會の長の任に當らしめ給ふ。

右はたゞ英國皇室の一例であるが、獨逸に於てもベルリン動物保護會の總裁は故皇太后陛下であつた。

兎に角にも生活の爲めでもなく、又有害なる禽獸を驅除するにあらぬ無益の殺生をなす爲めに、かゝる官職を設け置く事は、仁慈深き大御心に對し奉りて恐れ多いことゝ信ずるがゆゑに一言鄙見を述べて廢官を希望するのである。

又一つは振天府の事である。振天府といふものは皆人の知る如く、宮中吹上の御苑に設けおかれたる、明治二十七八年役の戰利品を藏せらるゝ所である。

抑も初め之を設けられたる御趣意は、征清の役に我忠勇なる將卒が君の爲め國の爲めに奮戰し、有司が身を忘れて國事に盡瘁し、人民も亦奉公の爲め軍資を献じて之を助け奉つた其結果として未曾有の大捷を得た爲め永く宮中に其記念を留め給ふといふ深き御思召から出たものと察し奉るのである。

さて今日は如何なる時代であるかといふに、固よりかゝる各部落の酋長が互に相鬪爭し、捷ちたる者は敵の首を我が牆邊に置て勝利を誇るといふ野蠻時代ではな

い、國と國とが一時は已むを得ず戰を交ふるも、一旦平和克復すれば互に舊怨を捨てゝ更らに一層の親密を加へねばならぬのである。特に清國に對しては我國は東洋の先進國として飽くまで善隣の道を盡し、力めて相互間の感情を融和すべきではないか。然るに普通の戰利品として何ともなしに備へ置くだけならば兎も角、此家を燒き人を殺して獲來りし分捕品を、振天府拜觀なる名の下に、一部の人に限りて拜觀を許して、其人に取つて特別の榮譽を與へらるゝ如き場所とし、公然内外の新聞紙にも掲げらるゝといふことは、仁德四海に洽ねき　聖主の大御心に背き奉る次第にはあらざるか往年巴里の公園に幕末の當時我國より分捕したといふ一個の大砲が陳列してあつたとて、一部の我國人は其撤回を迫らんとまでしたることもあつた。此心を以て彼國人の心を推せば、平和克復の今日善隣の交誼上いさゝか穩かならぬことにはあらざるかと思ふ。勿論戰利品を保存するは戰勝國當然の事でもあり、戰捷記念を國家に留むるも或は亦必要の事であらう。只これを特別に名譽ノ拜觀場所とするのは何の必要が有るか、締盟國の交誼を重んじ給ふ大御心に對し誠に恐れ多きことにはあらずやと思ふのである。

以上の二事、これ余が宮内大臣に對して一言せんとする所の要旨である。大臣は皇室の御威德を加へ奉り仁愛深き大御心をして益々内外に普ねからしむるに直接の關係有る當局者なれば、若し余が意見にして採るべき所あらば、一日も早く此二ッを廢止せられんことを希望す。

（右は社員が氏の談話を筆記し更に氏の校閲を經たるものなり）

正誤　前號「國民の祝日に就て」氏の意見を春秋二季の皇靈祭と神嘗祭の二祭とには國民一般業を休むごとく記せしは誤りなり氏が談話の要旨は此等祭日には國民の業を休むことを止め之に代ふに五節句殊に上巳端午の兒童祭りを以てしたしとの事なりき。

學校と其所在地の風俗

田川大吉郎

○東京に於ける奇怪なる事實
○歐米の實例及び我國の恥辱
○[illegible]窟と其の學校區の規律
○日比谷と其の學校區の風紀
○學校長に政權を與ふべし
○學校區の區長及び警察署長

中央公論記者足下

學校と其所在地との風俗は、私は、大躰に於て其關係影響が甚だ惡い、而して學校の當事者が其事に就て寸毫も苦心して居らぬ、此二點を怪み又憤ふるので有ります。

そこで東京で學校の所在地と申せば、先づ神田が第一次は小石川、女子大學あり、獨逸協會學校あり、學習院、高等師範學校、尋常師範學校、高等女學校、淑女學校井上圓了氏の哲學館に其中學校、甚だ多い、次は芝、次は本郷、次は牛込、次は麴町區、次は麻布區といふ順序に爲ると思ひます、其餘の各區には殆んど之と記すべき程の學校が有りません、學校は有りますけれども大抵小學程度の學校で、中學以上の學校が有りません、中學以上の學校は、今日の處、東京に於ては、先づ以上の各區に限る、限ると申しても過誤なしと信じますが、ところで其風俗は、以上の各區と、以上の各區で無い各區とをくらべて、以上の各區で無い各區の方が稍宜しい、以上の各區を各區にくらべて、學校の一番少い麻布が一番宜しく、學校の一番多い神田が一番惡い、斯ういふ現象傾向があると思ひます、以上の各區で無い各區は、其學校が殆ど無いからといふ原因の外、其内には風俗上、私が立ち入つて觀察するを好まない他の特殊の原因も有りますから、かた〳〵本論の以外に抛却し、偖、以上の各區の風俗を便宜のためザツトなりとも此て論定しますと、右神田を一番惡い惡いどんぞこと致しますれば、それから芝、それから本郷といふ割合に順々に善く爲る、いくらかづゝ善く爲る、又た、麻布を其一番いゝ、いゝ頂上と致しますれは、それから麴町、それから牛込といふ割合に順々に惡く爲る、いくらかづゝ惡く爲る、此割合を推して神田は一番惡く爲り、麻布は一番良く爲る、即ち麻布は此點に於て善い側の頂上に位ゐし、神田は惡い側のどんぞこに位する斯ういふ現象傾向が有ると思ひますだから其當然の結果として、學校の多い所ほど風俗が惡く爲る、學校の少い所ほど風俗が善く爲る、學校は良き風俗を持ち來さずして惡い風俗を持ち來す、良き風俗は學校の盛んなる所に起らずして、學校の盛んなる所には惡い風俗が起ると此く申していゝ、申さねば爲らぬ、勢理がある樣に感じますには、誠に心外の至りです。

但、以上の各區の中で麻布を最良の部に置きましたのには一言の注意を要する、區を單位として論ずれば、私は麻布の風俗を最良と思ひません、麴町や牛込は尚

其の上に在ると思ひます、然し之れには特別の原因が有る學校以外の關係が有る、即ち兵營の關係其れから來る影響の風俗が有る、日本の今日に於て兵營が惡俗の源を爲す、それは殆ど定論の有ることですから、麻布の風俗を考ふるにも、此點はいくらか斟酌を加ふる必要が有る此點の斟酌を加へて、寧ろ此點から來る惡影響を除非して考へると、麻布區の風俗は割合に質純て、麹町牛込のそれにも讓らぬ位地に達するので有ります。

それから小石川を、淸化、濁化、其二つの對向の位地から取り除きましたる理由は、此區は學校區として今創業の地て、隨つて學校の多い割合には、學生の必要を充すべき、若くば其思想を動かすべき學業の種類が未だ與りません、從つて學校生徒の群集に伴ふて起る風俗上の善かれ惡かれ其影響が未だ明かに顯れません不幸か幸か、これが小石川區が以上の觀察の外に除非せらるゝ所以てす。偖學校の多い所の風俗が必らず惡い學校が多くなればなるたけ其風俗が惡くなる、學校が少くなればなるだけ其風俗がいくらかづゝ善く爲る之を疑ひも無き傾向現象としますれば、此に一つの疑問が起る、そも學校とは如何なる處てせう、斯ういふ疑問が起ります。

昔の人は、此學校を治國平天下の道と、並びに修身齊家の道を講授する處と思ひましたが、今の人は、此學校を以て概して科學的知識の講授處と思つて居る、そこて昔の人の考へ是か、今の人の考へ非か、そこに批判が要りますけれど、然し今の人は昔の人よりも其土臺に於て恰好てすから、これは多分今の人の考へがいゝのてありませう、これでも私は學校を以て其時代の最善の人を作る所だと考へて居ります、而して其人は知識は只其一方面の性格て、其外に情が有り、其外に意がある、故に知識一方面の性能を磨くのみては學校の敎育は未だ足らない、學校は其以外に、情の變動を高尙ならしむべく、意の働きを堅質ならしむべく、其學生の品格を修養する必要がある、此點に於て德育を主としたる古風の敎育亦棄つべからずて、私は其傾向の中に大に尊敬して居る點もある、だから今日の我國の如く、學校が益々榮へて其近邊の風儀が益々惡くなる傾向を見るのは、私の怪訝と憤慨に堪へざる所であります。

日本今日の學問は、其組織の系統を歐米の今日の學問に引いて居る、就ては、歐米今日の學校は、日本今日

の學校の如く、其所在地附近の風俗には、頓と構ひ付けない、全然不干渉無制裁やりばなしの風であらうかと聞ひて見ると(私は洋行したことが無いから)そう斗りでも無い、評判のいゝ、ケムブリッヂやオックスフォードは別として、伯林大學や、ミューンヘン大學でも其所在地に一種清高なる風化を及ぼして、其附近の風俗を、善き意味に於て他所と區別せしむべく、言ひ換ゆーば、其地に入りたる者に、自ら他處に異なりたる善風美俗の存することを覺知せしむべく、學校が其中心として權威を揮つて居る、米國の大學は日本人が兎角輕蔑して相手に爲らない、話に爲らない、固より學ぶに足らないとまで見下げ卑しめて居りますけれど然しハーヴァートにせよ、エールにせよ、乃至ワシントンにせよ、コロンビヤにせよ、其處に團として一段の美風がある。穩厚朴茂。他處に見られぬ美風があるカリフォルニヤ一帶は、特に其新開未墾の地として、日本人が輕蔑して居りますが、それでさへ其スタンフォード大學附近の風氣は、其近邊の都市の風氣よりは遙に數等高い所がある、されば其大學の附近に到る者は無心の白丁農夫すらも、自然に其感情を清新にして其氣象を高尙にする、そういふ威嚴そういふ風氣が其中に在るとの話、即ち其中如何に多く莊高、端嚴、端正恭敬の風が行はれて居るかを想ひやらるゝので有ります、其他大學の在る所、此學校區は、大概總てが此の如き風に好き風化を近處に及ぼして、近處の風儀を高くし、淸くし、麗しくし、其地方に入る者に、いづれも先づ此事に著しく感動せしむると聞いて居ります、左すれば、外國の大學は、日本の大學と事かはり、其學生に知識を與ふるの外、其情意の教育にも隨分力を用ゐて居ると思ひます、これは誠にいゝ心がけで、是非共そう無くてはならぬ、そうあつてこそ始めて有効なる大學教育だと思ふことで有ります。

然るに日本では此頃、我國の大學ほど(帝國大學特に東京大學を指して)進步したる大學は世界に比類が少いとて大分鼻を高うして居らるゝそうですが、ナル程知慧一方の機關として大學を見たら、それはそうかも知れませぬ、日本の如く四千五百萬の人口を有し二億萬以上の歳人を有する國で、只一ヶの大學に骨を折つてる國は有りませんから、此だけの國力此だけの國富を持つて居る國が、精出して保護する其大學は、少くとも其組織其設備に於ては、世界に名だゝる善良の進步を示し得べき筈です、左れば其智識供給の資源の設

備に於て、我大學が世界に有數の地歩を占むべきことと現に占めて居ることに就ては、私も人と共に之を嚴しますが、然しながら、我大學は幾何だけ我時代の最善の人を供給し、幾何だけ我社會を強からしめ、清からしめ、高からしむることに貢献したか、其方面から考へると、隨分案外な思ひを致さなくちやならぬ、現に其お膝下の本郷の風氣を御覽なさい、帝國大學あるが爲に、本郷の風氣は幾何だけ高められたか、たとへ高められぬ迄も、其落下の勢を幾何だけ支へられたか、其關係と顯象を考へ來れば、高い聲では言ひたくありませんけれど、私は高慢どころか、何となく氣恥かしく爲る、本郷どころか、下谷の本郷に接したる一部、小石川の本郷に接したる一部に於て、往々如何はしき營業の行はれて居る、其お得意の中心は何人で有りませう帝國大學が其本郷を中心として、下谷小石川にまで及ぼして居る風化は、決して高尚、良善、淨潔とは聞へません。

而して帝國大學の諸氏、特に其當事者を始めとし、其餘の諸學校の當事者は、此事實即ち學校附近の風俗か、年ごとに墮下し行く傾向を見て何と思つて居らるゝので有りませう、通例ならば、之に向つて非常に恐縮する、實は學問の信用勢力の爲めに痛切の恥辱を感ずる、そうして其匡救回復を圖る、謂ふのが、普通の人情で有りませうに、朝野比々、閑として其聲を聞かないのは不思議と謂ふも愚かで有ります、是は果して學問のため學校のため恥を感ずべく汚垢の事では有りますまいか、之を感じて憤慨を發する私が、全く見界の狹い小さいので有りませうか。

そうかも知れませんが、私は私の理解する學問の本領學校の職分に於て、そう思ひ諦めることが出來ませんそれでも私は此說を以て學校當事者の反省靜慮を求むると共に、更に二三の思ひ付を述べて、其注意を仰ぎます。

第一に私は各大學に釣鐘堂を欲しい、今では高等なる學校の屋根に時計臺を設けて、廣く行旅に便ずる、誠に良き風習と思ひますが、更に此思想と習慣を策勵して釣鐘堂を建て、少くとも朝に一度夜に一度朝夜に二度撞き朝は起牀の知らせにし、夜は臥寢の知らせにする、以て學生の出歩きにも此時間を限りとさせ、學生を目あての營業にも此時間を標準として開閉さする、そういふ習慣を作りたい、自然其れ等の習慣が其れ等の規律と爲り、其地方一帶に洽ねく行はるゝことゝ爲

れば、此程ど仕合せな事は無い、下宿の主人などには實に此を以て其學生の起牀を促し、尙其歸宅を促し、睡眠を促す一の約束とさせたい。

第二に私は各大學に於て日曜若くは土曜の中一回修身講話を開かんことを望みます、學生が非常に多數で、到底一室に集めきれんなら、必要に應じて二つにも三つにも分ける、然し成べくなら一室に集める、古參も新入も一所に集める、獨り學生のみで無い、其學生の下宿して居る下宿の主人も家內も、及び近所の住民も皆集める、隨意に集まらせる、此くして大學の、願はくは其當事者が、親しく自ら講話をする、そういふことを致したい、學生と學生の間を親しくするのみならず學生と先生の間、先生と學生と其區民の間を親しくし、遂に學校と學校區との間に、何日かは知らず劉なき交情が起る、それが學生の風儀を取り締り、並に其學校區の風氣を作振し化醇する上に及ぼす影響は少く有りますまい。

第三に私は各大學の當事者に一種の行政權を頒たれんことを政府に願ひます、目的は矢張り以上と同一ですが、例へば本鄉で申せば大學の總長山川健次郎君、芝で申せば慶應義塾の塾頭鎌田榮吉君、牛込で申せば早稻田大學の校長鳩山和夫君の如き人に一種の行政權を委ね、其區の全部少くとも其一部即ち學校附近の住民に對し其營業の種類を制限し、若くば禁止し、若くば其交通、其住居に對してすらも、發言認可不認可の權を有せしむる、そう致したいと思ひます、エライ事を言ふと不思議がる人もありませうが青年は國の望み、所謂育英は天下の大事です、其青年學生を保護するために、此位ゐの權利を其學校長に持たせて、學校長をして其附近の風俗に責任を有せしむることは、決して不思議かるべき程無理過當の事で無いと信じます。

第四には同じく政府(中央地方の)に望みますが、私は此等の學校區、東京市で申せば神田區、本鄉區、小石川區、芝區、牛込區の如き各區の區長に、特に教育上の趣味あり、材力ある人を擧ける、今後此等の區長の選任ある每に、其區長としての材幹の有無を、偏に此方面より考量されんことを望みます、切に言へば、此等の地方の風俗汚隆の責任を、重く各其區長に感ぜしめる、若くば其警察署長に感ぜしめる、斯らいふ思想を養ひたいと思ひます、然し此事は抑も末です、私は第三の事を最も深く望みます。

此の如くにして、學校の當事者が、其地方の風俗に重き責任を感じ、遂には一種の行政權をも左右するに至り、其區長警察署長等と相呼應して、風俗の改善を企てますならば、難しといへども、學校益々盛んにして風俗益々衰へる現今の流風を一洗し、學校の在る所には、自然敦厚清新なる一種の氣風が行はれる樣に致し學制の光輝、學問の面目を放つに、大いなる助けが有るだらうと信じます、少くとも今日の神田や、本郷や芝やに有る稀代の陋風を芟除することが出來やうかと思ひます、出來さずてはならぬと思ひます。

世上には此種風敎上の議論が大分喧しく成りまして、敎育家の間にも往々其議論を見る、其議論は概するに之を以て家庭の風敎不振の原因に歸し、隨つて敎育家としては此問題の關係以外に脱逸して其責任を阻却せらるゝ傾向が有る、即ち此問題に若し學校の責任が有るとすれば、これは小學校時代の事、學校と家庭の連絡を一層緊密にすればそれて足るとの意見らしい、高等の學校に於ては、學生の年齡既に丁年以上少くとも其前後なれば、其心意は極めて活動奔走を要する、之は抑制するを要せぬのみか、又抑制しきれぬが善しといふやうに、青年に向つて辨護し去らる、即ち敎育家の多數の此問題に對する觀念は極めて輕々至つて無雜作で有りますけれど、私は此問題を却つて重く視て居ります所から、實は今日の問題を引き起したる其内容には、學校の先生少くとも其當事者が、學生に向つて適當の注意を怠りたるより來り、重要の原因結果があると信じます、私は、今日の學校當事者は、決して以上の如き輕い挨拶で、此責任より超逸し出べき者と信じません、夫れ自ら蒔いたる者は自ら苅らざるべからず私は、此問題の内容には、學校當事者が自ら反省して匡救すべき重大の責任ありと信じまして、敢て此一篇を草しました。

記者足下、誠に不文て所思の十一をすら盡くさず、吾ながら筆の進みの鈍きに氣を腐らしました、讀者の御迷惑左祉と察し上げます、萬足下の酌諒を仰ぎ、倘其叱正を得れば幸甚此上なしと存じます、敬白

昨今の議院觀

十二月十六日議會停會の夕

花井卓藏

(一)新人物に望を囑すべからず

今日停會の詔勅が降つた、さうすると一隅より停會萬

歳の聲を聞た、併し其萬歳の聲は慄へ聲で、是に和したる拍手の響も何となく淋しく聞へた、元來此度の議會には比較的年少新進の人の多くが出たからして、定めて面白き芝居が出來るであらうと考へる人も多いが、是は大なる間違ひであると思ふ、人も知るが如く、選擧は人物競爭に非ずして、情實競爭若くは金錢競爭にして、此等の渦中に入りて戰ふ人に、立派なる人のあり得べき筈はない、殊に本年の如き激しき歳に於ては先づ可なり是ならばと目星の附く人を見よ、何れも政友會の旗印の下に、進歩黨の旗印の下に、而して情實と金錢との強き後援を有して戰つた人々である、それ等目星の付く人々さへ獨自一個を標榜しての戰ひは少いのであるからして、其他は推して知るべしである、試に世人が物好きに議員名簿に依つて姓名の上に印しを附けて行つて見れば、新舞臺、新人物を以て迎へらるべき感が起るや否や、實にナサケ無き感に打たれざるものは無からうと思ふ。

(二)誰か非立憲行動の筩を作る

政治舞臺に於ての懸引は、總て我輩の如き新參の者には分らぬのであるが、其居る所の位地の變化に由り、意見を勝手に立て得らるゝといふことは、政治的役者の特權らしく思はれる、例へば議會を解散して直ちに内閣總辭職を爲したる實例は伊藤侯に因つて筩を作られたのであるが、今の伊藤侯を戴ける政友會の總ての人は、兩々衝突したる場合に於ける内閣の躰度は、自ら進んで辭表を奉るか、然らざれば斷然議會を解散して信を國民に問ふの外取るべきの途はない、而して解散と辭職兩ながら之を行ふといふが如きは、非立憲的の行動であると嘲つて居るやうであるが、焉ぞ知らん、元來此の如きの非立憲的行動の筩を作りし者は、伊藤侯其人である、然りとすれば、彼を戴ける政友會の人々は、内閣の行動に對し非立憲云々の發言を爲すの權利はないものと信ぜらるゝのである、併しながらソコが政治舞臺の特色で、政治的役者の特權であると言へば、至極調法のものと謂はねばならぬ至極亂暴のものと云はねばならぬ。

(三)最も簡單明白なる問題

今十六日は地租條例改正法律案の院議に上りたる日で議會もナカ〱活氣が有つたが、我輩の見る所に據れば、政府は五箇年の年限を附して增徵の法律を發布し

たるものなれば、其期將に盡きんとする今日に於て、之を繼續するの法律を提出する權利はないのである、よしんば、其の充當すべき財源としては、海軍擴張なんど好題目のあるにもせよ　增徵繼續の案を提出せるは、政府自らが法律の信用を傷け、國家の公約に背戾する者であつて、コムヅカしく論ずるまでの必要もなく、最も簡單明白なる問題であると思ふ、故に今日も定めて明々地の問題なりとして、此案は簡單なる說明を以て直ちに否決せらるべきものであると信じたのである、然るに之をコト〳〵しく長々と演說して、甚しきは問題以外に漲溢して、多々益々辨ずる底の態度を取る演說も隨分あつた、けれども心の底が餘りに見え透きて、人をして此問題の序に直ぐに御土產演說を爲すかの如くに思はしむるは、甚だ遺憾の極である。

(四)肯綮を得ざる質問

本議會も總豫算案の提出當日に於て、又地租條例改正法律案提出の當日に於て、頻に各議員より政府に向つて行政整理、財政整理の程度、結果等を質問するのを聞きましたが、例に依つて例の如く、其肯綮を得ざること頗る夥しく、寧ろ此兩問題に對しては、最も疵持つ足なる政府に向つて何等の痛痒をも與へずして、彼等は寧ろ彼自身に於て認むる罪惡の、議會の爲めに發見せられざりしを喜んで居るであらうと思はるゝ位の感が起るのである、例へば明治三十三年度歲入の賦課徵收及び歲出の使用、並に官有物の處分に於て、豫算又は法律勅令に違背したる事項は、實に歲入に於て六十三件、八万六千二百七十八圓七十一錢九厘、又歲出に於て二百十五件、五百七十万九千四百二十七圓九十錢八厘、官金に於て無償を以て國庫金を輸入したるもの一件、九百七十六万四千三百六十五圓六十八錢五厘、又官有物に於て不當の評價額に依り土地の交換を爲したるもの二件、四十二万五千三百七十三圓六十七錢、此等は決算の上に於て明に政府自身に於て、豫算及び法律勅令に違背したる事項たることを認めて居る問題である、而して政府自身も亦其餘りに事項の多きに驚いて居る所の問題である、然るに此等の點に關し一矢の以て酬ふる者なく、唯紙の上に於て、文字の上に於て、言ひ換ふれば行政整理、財政整理の熟語を捉へて爭を挑んで居るが如き觀がある、故に政府自身に取ては聊かも痛痒を感ぜざるが如き態度に見受けらるゝは、亦已むを得ざる次第である。

（五）日本國の外に陸軍國海軍國有り

我黨の眼よりすれば、海軍擴張を假に歡迎すべきの問題なりとするも、財源を地租に求むる固より不可、然れども多數黨の行政整理、財政整理に出つて遣繰りせられたる財源に之を求めんとするの案は、寧ろ言ふべくして行ふべからざることゝ考へる、忌憚なく言はしめば、我邦の行政各部に通じて能く一千万圓以上の緊縮を爲し得らるべき餘地ありや否やは一つの疑問と思ふ、併ながら之を陸軍整理に求め得ることが出來るならば、海軍擴張の財源位得ることは極めて容易なことであらうと思ふ、人も知る如く、軍事費は實に厖大に失して居るのである、行政費は軍事費の半分にも達せざる、我邦の有樣にして、而して所謂軍事費の重もなるものは陸軍費であつて、之を緊縮し、節約し、略々海軍と均衡を得るの程度に整理をしたならば、地租に頼るを要せず、又一般行政機關の整理に求むるを要せず、海軍擴張の財源は容易に生み出さるゝことであらうと思ふ、併ながら一人の以て陸軍整理に關する意見を提唱する者なきは、在野の名士も軍事の關係に於ては、政治的治外法權の中に置いて居るものと見える、適れの大政治家の手腕も陸海軍には一指をだも染め得ぬものと見える、それ故に私は平生日本には所謂日本國の外に陸軍國、海軍國といふの二國ありて、政治的の意味に於ては日本國、陸軍國、海軍國の聯邦組織の如き感を抱いて居る、である、而して此感の去らざる以上は、到底完全なる立憲政治の目的は達し得られないものと思ふ、切言せば、政治家は各部の行政と戰ふべく、殊に陸海軍の行政機關と戰ふの勇氣と決心なかるべからずといふのである。

△英國婦人

最近の統計に依れば英國夫人の學校教師たるもの十二万三千九百九十五人、畫工千百八十人、彫刻家五十四人、醫者及び藥劑師三万七千九百十人、新聞記者及び著述業四百五十二人、書記其他役所に勤務者二千二百六十七人、これ英國にかける教育を受けたる婦人の國内に於ての重なる職業なり、



海外大勢

歐米優劣論

實業世界の大王カルネギー氏の

左に摘要する所は實業世界の大王カー子ギー氏が蘇格蘭土エヂンバールのアントリユ大學に於て演述し十一月のウオールド、ウオーク紙上に掲載せられたる所にして、輓近に於ける世界實業界の變遷并に趨勢を概評し、斯界に於ける歐米優劣の所因を指摘せんとするものなり。

▲原料の關係　從前にありては世界工業發達の要件は原料よりも寧ろ資本及勢力に在り、后の二者は前者を壓倒したりしと云へとも今や右三要件の關係は一變して、工業地としての優劣は單に適當なる原料を得るの難易如何の問題となれり、例へば紡績工業は英國よりニユー、イングランドに移り、更に原料を逐ふて南方諸州に向ひつゝあり、又た黄麻工業は嘗てダンデーに集中したりと云へども今や印度の原料産地に推移しつゝあるが如し。依て推せば此の點に於ける歐米の優劣は燎然たるべし。

▲製造方法の變化　最近二十年間に起れる工業方法の變化は之れ歐米優劣の第二因なり即ち新なる發明、機械の改良及び新に擴大せられたる需要によりて工業方法は全然一變し、而も其の變化の急速なる大工場の或部分は絶へず改設せられつゝあり、此點に於ても亦た舊諸國即ち歐州は非常に不利の地位にあり、其工業の合資組織なる所に於て殊に然りとす、蓋し各小資本家より所要の資本を集收するの頗る難事たればなり、之に反して米國は恰も清き石盤に文字を書くが如し。

▲米、英、獨及露國　獨逸が工業界に優位を占めんとするの競爭は頗る注目す可きものあり、今日に於ても既に鋼鐵の生産につきては世界の第二位にあり、思ふに次ぎの十年間に於て工業國として英國を凌駕するに至らん。世界重要の工業國は米、英及獨の三國たること勿論なりと云へども此に一の看過す可らざるは露國の將來なり、其潜める莫大の富源、人口の增加、領土の合併に加ふるに着實なる進歩を以てする露國の將來は必ずや大に見る可きものあらん、而も之れ現代のことにあらず又恐らくば吾人が子女の代にてもあらざる可し。則ち今より三代後の事ならん。

▲內國市場の重要　外國市場を壓倒するに最も必要欠ぐ可からざる條件は滿足なる國內需要の存在なり、或る貨物に對し國內需要の十分なるに於ては其貨物に關し遂に外國市場を壓倒することを得ん、輓近經濟社會に於て余の所謂「剩餘の法則（ロー、オブ、サープラス）」なるものは次第に注意を換起しつゝあり、工場の擴張は年々非常なり、其理由は單に生産を增大すれば其生産費は從つて減少すると云ふにあり、而して職工に斷續なく職業を與

へ失職の憂なからしめ以て最良の職工を吸收するは最も緊要のことなり大仕掛の工業にありては一朝經濟界不振の時に際しても一時の損失を忍び外國市場の注文に應ずることを得、蓋し一時直接の損失を受くるも大躰の上に於ては工業中止よりも遙に得策なればなり、此を以て十分なる內國市場を有する國は外國市場に於て直接の利益なく時に或は損失を忍ばざる可らざるも尚他國を壓倒するを得るなり。

▲人口問題　國家の工業的發達の必要條件の第二は人口なり、何んとなれば人口の增加は內國市場を擴大すればなり、而して米國に於ける人口增加の速度は英國に三倍し又獨乙よりも速かなり。

▲未墾の肥土　之れ工業發達の第三の要件にして米國の大に幸福とする所なり、食品生產の增加し得る限りは內國市場の構成要素たる人口は着々として增加す可し、米國の消費は輸入品より次第〳〵に國產品に移りつゝあり、綿の生產の如きは既に英國の輸入額と等しからんとす

▲內外市場の輕重　內國市場の至重至要なることは飽迄念頭を去る可らず、元來貨物の交換は販賣者及び購買者の双方を利するものなれは、內國商業は二重の利益あるものなり、加之內國の產物を以て內國の需要に應ずるに於ては決して外國貨物の來つて競爭し得可きものにあらず、而して今日米國々內の需要は其生產額の九割六分を占め外國に輸出する所は僅に其の四分を出でず、英國に就て之れを見るも國內の需要は其の生產額の五分の四に上れり、然るに世の政治家なるものを見れば徒らに外國市場にのみ注目し此至重至要なる內國市場の開發を却て等閑に附するが如きの傾あるは實に本末を誤るの甚だしきものなり。

▲英國工業界の欠點　英國に於ては雇主及び雇人共に職業のため十分なる注意と精力を盡くさず、蓋し彼等は多く社會の他の階級に進むの方便として之れを輕んずるに似たり、一大欠點と云ふ可し、之れを救治せんには有爲の雇人に其事業の組合株を與ふ可し、事業の成功並に致富の秘訣は營業各部の擔當者をして事業の株を持たしめ共同的に事を行ふにあり今日新舊世界の差違を見るに恰も專門家と素人との如し、勞力の効果は歐州は一般に米國に劣り其歐州中にありて英國は最劣等なり、安價なる生產物を得んと欲せば安價なる勞力よりも寧ろ高價なる勞力と技術的支配及び機械に依らざる可らざるものなり。

▲英國の將來　前述の如き欠點あるに拘らず、彼が如き人口と富と及び商業とを有する英國は將來決して衰頹することなかる可く、加之今后尚ほ暫くは依然として進歩す可し、英國の富、氣候、及び地理上の位地は歐州大陸諸國の遠く及ばざる所にして即ち之れ英國々內市場の健全なる所以なり、且つや其炭坑の豐富なるも亦一大保障たり。

▲英國前途の一大暗雲　英國工業界の一大暗雲とも云ふ可きは礦の漸減に在り、クリーヴランドの礦床は二山を除くの外は今后二十年鐵又は二十五年にして盡滅す可く、カンバーランドの礦床は既に殆枯渇したり夫の造船其他凡ての機關製造は安價なる鐵礦の存するにあらずんば到底盛なるを得ざるや明なり、蓋し此危險は單に英國のみに止らず、合衆國に於ても一等鐵礦は今後六七十年にして消盡す可く、劣等の鐵礦も亦其后卅年を支ふるに過ぎざらんとす、只願望す可きは廣大なる領域中豐富なる礦床の新に發見せられんことに在り、此點に關しては獨乙の礦床は豐富とは云ふ可らざるも而も最も持久的のものなり。

▲結合せる米國と分立せる歐州　米國工業はかく長足の發達をなし今や向ふ所殆んど敵なしと云へとも、其所以は主として政治的組織即ち合衆組織にあり、今歐米兩大陸を對比せんに第一歐州は一の軍團にして九百万の壯年は不生產的兵役に精力を浪費し、合衆國は之れに反して僅かに六万六千の民兵あるのみ、又た歐州は四百十艘の戰艦を裝置

するも米國は僅かに三十ケ艘を備ふるのみ、第二米國は合衆組織の結果として工業の發達に必要なる平和の保障確乎たり、第三、合衆國にありては企業家は全大陸を通じ市場の中心を撰びて自由に此處に起業することを得　歐州の國際間に於けるが如き供給の干渉、排斥的立法又は國民的嫌忌を買ふの恐なし、彼此優否の差果して如何ぞや。

▲歐州諸國の急務　歐州諸國目下の急務は從來の分立主義を捨て政治的并に實業的結合を形成し、舊來各國間に存する種々の障壁を撤去し、全歐一團として殖財の事に從ふにあり、若し此結合にして成るにあらずんば如何に經營慘胆するも中立市場に於て、合衆國と相驅逐せんこと到底望む可くもあらず。

▲余の豫言　現世紀の進行するに從ひ世人が現歐州分立の狀を回想して、昔て獨逸が百有七四の小邦に分立し一のライン河上の商業に於てさへも卅有四の關稅の障壁ありし昔を見るの感を生ずるに至らん。

此の如くして此實業王は歐洲の爲に警むべき苦言を呈し、米國の爲めに慶すべき祝辭を放ちて歐米優劣論を結べり。

西印度賣買問題



日韓英
（和蘭アムステルダム紙所掲）

總に米國と丁抹兩國外交機關の間に締結せられたる丁抹領西印度諸島賣買條約は遂に丁抹上院によりて否認せられたり、元來同條約は議院の協贊を條件として締結せられたるものなれば今上院の否認する所となりたればとて何等國際法上の問題を生ずるが如きことなきは勿論なりと云へとも米國の之れを切望するは單に經濟上の理由にのみよるにあらずして地峽運河の開鑿と共に軍事上至大の要衝たる可きを以てなり而して西班牙の先例もあることなれば微々たる丁抹は遂に腕力によりて同島を奪はるゝことなきやを憂ふるもの少からず例へば巴里のジューナル、デ、デバーの論ずる所を見るに曰く。

丁抹は兩年米西間に如何なることの起りしかを追想し將來同じ運命の自已の頭上に落つることなきや否やに思ひ至らざりしか、又將來必然來る可き災厄の發源地を自ら除去するの寧ろ得策なるを知らざりしか、思ふに彼等は英佛等が同地方に於ける領土を留保するを見て其例に倣へるものならんも之れ大なる迷想なり、蓋し英佛は强國なれば米國も容易に事を構ふることなかる可く、又英佛の側に於ても米國と相結抗することを得んも、丁抹に至つては微力爲すなきのみ若し夫歐洲弱邦の后援の如きは之れを米西戰爭の先例に徵せば望し息

中に過ぐるものあらん。
而して當區地たる西印度住民の意向は如何と云ふに割讓條約の成否は彼等の敢て關せざる所にして、只久しく不定なりし地位の確定したるを見て滿足の意を表することセント、トーマスのテイデンド紙の傳ふる所によりて明なり。

更に米國側の論調を見れば皆同群島の所詮米國の手に落つ可きを期し、賣買條約の否認は之れ只一時の延期に過ぎずとなし、モンロー主義を盾として同群島の他國の有に歸せざらんことを監視し暫く時機を待たんのみと云ふにあり。(ボストン、トランスクリプト)

▲韓半島の現狀(ポンチ說明)　日英同盟以來日本と英國と共に韓國を教導して露國の勢力を防がしめんとしつゝあるところにして、圖中の熊は露を指し背後壁上の顏は支那人を指すなり。

米國內に新獨逸領起らんとす

英國の倫敦「タイムス」を始め「スペクテーター」其他の新聞紙は頻りに獨逸の對米政策が合衆國の危險を醸しつゝあるを說けり、伯林に開かれたる殖民地會議に於てブランドル教授は米國に於て五十万の青年は獨逸語を以て教授を受けつゝあるを報じ附言して、

此事實が如何に重要の關係を有するかは國家文明の根底は其國土にあらず、又其政治組織にもあらずして、思想の媒介者たる我國語に依るものなるを一考すれば、直ちに明瞭とならん、然るに米國に於ける我同胞は生存競爭の必要に迫られて二ケの國語を强ゐられつゝあり。

と說き、獨乙は合衆國に於ける獨乙人の學校を補助し其、獨逸分子と本國との關係を密接ならしめざる可らずと云へり、此事に關し「スペクテーター」は米國駐劄の獨逸公使は本國政府の命により紐育「スターツ、ツアイツング」新聞を買收し其社說を以て非米又は排米思潮の代表として引證せんとするものなりとし大統領及國務卿は大に心痛しつゝありと云ひ更に曰く。

合衆國は吾人の勸告を俟たずして十分警戒する所ある可く、大統領及ヘー、又はルート等の閣員は獨逸の危險なる政策に對して必ずや相當の胸算ある可し云々

と云ひ次ぎに倫敦「タイムス」は論じて曰く。

米國たるもの自國の中心に於て危險なる異分子の團結を作らんとするを見て豈之れを對岸の火災視することを得んや、未だ其形跡多く外面に現はれずと云へども之れを放任せば或はベルン大學のベッテル教授の例に倣ひ獨逸分子の部分を以て、獨逸帝國の智識的領域(インテレクチュアルプロビンス)なりと宣言するに至るなきを保せず、夫の皇弟漫遊の如き、フレデリック大王の銅像の寄贈と、彼此寄合すれば單に一遍の國際禮讓に止らずして、米國に在る獨乙分子をして本國てふ觀念を益々鞏固ならしむる手段たるなからんや、而して將來モンロー主義の範圍に關し米獨間に紛議の生じたる場合に米國の獨逸分子は本國に利益ある解釋に向つて投票することなしとせず云々、

而して佛國の「タン」新聞も亦之れと同様の評論を揭げたり然るに獨逸新聞は之れを以て單に英國新聞の例の中傷に過ぎずと辯せり。

大なる陸戰は其跡を絕たん

將來各國間に起る可き戰爭の舞台は只海上に限らるゝに至らんとは之れ曩に夫のブロック氏の立論せる所なるが、今又英國のバラード大將も亦

同樣の意見を立て晩近各國の陸軍に於ける技術の發達は非常の大軍を以て烏合の小軍を打つ場合を除き大体に於て相伯仲する兩軍の戰場に相對持するに當つてや、双方共に立往生の姿となり、何れよりも手の出し樣なきまでに精巧を極めたれば、飽迄干戈を以つて雌雄を決せんには勢海戰に依るの外なかる可しとなし、結論に於て若しブリック氏の說にして全然正鵠を得たるものとせば大体に於て勢力に大差なき兩軍陸上に相對峙せば互に立往生の外なきを以て、之れに代つて雌雄を決す可き海軍の地位實に重きを加ふるのみならず寧ろ國際葛藤の唯一の裁定者たる可く第二氏の說にして若し多少誇大に失するものとするも、各國は陸戰の與ふる殘酷なる慘禍を恐れ假令陸戰の勝算ある場合と云へども尙海戰を撰ぶに至らんと云ひ、何れにしても海軍の上に立てる英國は大に優勝の地位を占め、從て歐州の國際間に於ける其發言權の大なる可きはブロック氏の言の如しと云へども、列國も亦如上陸海軍の關係的輕重の變遷に從ひ主力を擧げて之れが海軍に用ふ可きを以て若し英國にして國際間に於ける其大なる發言權を永く持續せんと欲せば、海軍の充實は一日も之れを等閑に付す可らずと云へり。

海外雜纂

名士對動物美譚

一　露國文豪チユルゲニーッフ氏

有名なる露國小說家チユルゲニーッフ氏は自家の經歷中より頗る感ずべき出來事を取り出でゝ話したる事あり、此のことは氏の情操を覺醒して之が爲めに其作を以て凡べて深沈溫和の情に充たしめたるものなりといふ。今其いふ所に曰、

チユルゲニーッフの未だ十才なりし頃、其父一日之を携へて鳥うちに出でたる事ありしに、其足もとより一羽の雌の飛び立ちたるがありければ遊戲者の常として心臟どきめく程に喜び勇みつ、氣の引立てるまゝに手あらく銃おつとりて火蓋を切りしに、鳥は羽ばたきして其側に落ち來りたり、かくて命は一ト息づゝに消えて行くに、親鳥の情として死よりもなほ心にかゝるものありと見えよわりたる翼を羽ばたきして、其雛の聚たてゝさわける巣に歸り行き、危さも心には留らざるものゝ如くなりき其時此親鳥は、チユルゲニーッフの斯かる慘き事をしながら、何とも思へらぬを告むるが如きおもゝちして、やがて其頭を垂れてけり、而して死するも尙其死体にてだに雛を庇ひて之を護らんとせるを見、チユルゲニーッフは銃を放ち顏色を變へて父に向ひ。「ー何たる事を仕でかしたものでしよう」といふに父の眼には此小悲劇も悲劇とは見えざりければ「それはお前よく出かした、初めての手際、中々よく出來た、今によい鐵砲うちと成れるだろー」といふを「どうして／＼わたくしは又と生きたものは殺しませぬ。殺すといふのが遊びならそんな遊びは決して致しますまい、わたしに取つては殺すより生かす方が心地がよいですのに、わたしには自分の命を遣る力はありませぬ故他の命を取る事は致しますまい」と爭ひたりといふ

二　米國偉人リンコルン氏

米國の開けしころ、リンコルンの未だ開業辯護士たりし時、其慣例により其巡回地方を馬にて過ぎたることあり其伴なる馬上の一隊も亦た同じく代言人にして共に甲の裁判所より乙の裁判所へ趣かんとする道なりけるが暫々草原を經て山林を過ぎたる頃、とある小さなる森に鳥ともの啾

いおにせるあたりを過ぎりしに一羽の雛ありて巣より落ち路傍に羽ばたきし居たるを見てなほ少しく乗り行ける後、リンコルン不圖歩を止め馬首を翻らして言て曰く「余が爲めに乞ふ暫く待て直ちに伴ふべきに」とされば此一行は歩を止めてリンコルンの爲さんやう如何と見てあるに、彼はかの小鳥の地に落ちて助くる人なく横はれる場所に歸りつ、丁寧に之を取り上げ、靜かに巣に近かき枝に之を置き、かくて歸り來て其伴に從ひたり、其中の一人笑ひながらいふやう「リンコルンどの、何の爲めに自ら煩はしき事を爲し、かゝる細事の爲に何故に吾等を待たせては置きたる」とリンコルンの之に對する答こそ銘肝の價ひあるものにして又此物語の主眼なれ、其答に曰「さればなり、余は之を以て善き事と感じたればなりといふの外なし」と。

ゾラの生涯とトルストイ翁の評言

ゾラが著書の政治上及び道德上の價値に關しては世評區々として一定する所なしと云へとも、兎に角近代の名流にして其目的の高尚なりしは殆んど一人の疑ふものなきに似たり。

小說家に多くの種類ありと云へとも彼が如きは實に稀なり、彼は先天的の新聞探訪者にして社會人生の各方面に亘り探訪の妙を得、而も其探究の結果を個々別々に公にすることをなさず、必ず之れを一の小說に編みて發刊せり、世に彼に劣らざる社會研究者は數多く又た彼よりも遙かに立派なる小說家も多からん、而も未だ一人の彼が如く銳敏且つ熱心に社會的、道德的幷に政治的問題を探究し、之れを趣味ある小說として發表したるものあるを聞かず。

英語の讀者の多くは彼が主として人性の罪惡の方面を筆にしたるを見て其心事を疑はんとするが如しと云へとも、現代小說家の泰斗として又高尙なる學仙人的道德の鼓吹者として目せらるゝ夫のトルストイ翁は彼が事業を賞讚し、彼を目して佛國群小說家中の異彩とせり。

トルストイ翁又曰く、彼が描出せる繪畫は一見不快の念を起さしめ、彼が撮影せる坑夫及び貧民の寫眞も亦居室に掛けて仰ぎ見るに忍びず、然り之れ一度描出せられ撮影せらるれば足る、須らく之を戸の背に掩ひ又は背面にして掛けよ、只吾人の同胞の斯る境遇にあるものあるを忘るゝことなくんば即ち足ると。彼の父はベニス人にして母は希臘人なり、千八百四十年四月二日に生れ、アーヘンに於て育てられたるが七歲の時父を失ひ赤貧に陷り、千八百五十八年再び巴里に移り久しく貧苦を極め二十二歲に至り一書店の書記に雇はるゝことを得て以來專心志す所に勉勵せり。

彼は當初より決して理想家にあらず、只佛國社會の凡ての方面に亘り其眞想を仔細に探究し之れを巧みに小說に編みて公刊せんとする一種高尚なる寫實家なりしなり、然るに後年に至り其思想漸次進化して或は豫言者或は道德家となり、其描出せる社會的及政治的組織に向つて攻擊を初むるに至れり。

夫の有名なるドレフース事件に對する關係は尙世人の記憶に新なる所にして、其彼が人道の爲めに盡せる最後の貢獻となりしは惜みても尙余りあり。

模範工場

企業家及び勞働者の衝突に衝突を重ねたるの結果、双方共に大に悟る所あり、其勞働者側の經驗によりて得たる教訓は既に前號に摘載せる如く

なるが、企業者の側に於ても有効なる勞力の決して懲罰制度によりて得らる可きものにあらざることを覺り、其の先發者の業に已に豫想外の改良を工場に施したるもの少なからず、而して其の實例は英國「評論の評論」及び「ハーパー」紙上に出たり、今イーリー博士の手になれる「ハーパー」紙上の實例を見るにクリーヴランド商業會議所は特に工業委員を設け有給の役員を置き如何なる組織が最も成功したるかを專門に研究せしめ、各企業家をして工業組織の改良に關し隨意に助言を求むることを得せしめたりと云ふ、而して其の改良の方法は大躰に付きて之れを云へば、

第一　職工の健康保全設備
第二　職工の智力增進設備
第三　健全なる娛樂を得せしむる設備
第四　病氣死亡に備ふる貯蓄奬勵

の四點に在り。

健康保全の方法としては光線、空氣及び淸潔法に注意し、洗湯及び洗料を十分に備へ、又流水を備へて飲料に供し、食物の調理を十分に監査し讀書室を設け、又或工場に於ては毎月雜誌を發行して其業務に關する職工の智識を啓發す、投書函は一般に設置せられ、其有益なるものに對しては賞を與ふ、又相助會の設けあり、殊にウエスチングハウス、エーアブレークコムパニーの如きに於ては雇人共同の幸福を助長せんが爲め專任の堪能なる役員を置けり。

以上只其最も著しき點をのみ數へたるに過ぎず其詳細に至りては或は號を更へて譯出することある可し。

煖爐の煙

▲大西洋を往返する郵便船一艘に毎回廿万通の書狀と三百個の新聞を容れたる大包の袋有り

▲龍動にて取扱ふ電報、一日平均四十七万五千通、巴里は十二万通

▲電線延長　世界を通じて現今三百八十万哩

▲千八百六十五年英米間に海底電線を布設したるを以て有名なる汽船大東號は、決して一回丈け此大役を勤めたるに非ず、其後佛米の間及びボンベー、亞丁の間にも海底線布設の任に當れり

▲蘇西運河は完全の成功まで實際の費用は二億四千一百五十万圓なりき

▲同運河の通過税は一船平均八千圓となる

▲同一の風力も地面に於て一哩の速力にて吹く時、空中にては四倍の速さとなるべし

▲雨滴は其大なるものにても直徑一吋の八分一に過ぎず、直徑一吋の二十五分の一の雨滴が空中より落下する速力は一秒に十三呎を通常とす

▲月球より地球に達する光線は其時間一秒と四分の一を要す

▲月球中の最高山は三万五千呎有り、地球の最高峰ヒマラヤのエベレスト峰より六千呎高し

▲太陽の地球に向て與ふる熱は星の總てより來る熱より三千六百万倍にして、其光輝は滿月よりも六十万倍大なりとす

▲噴火山は世界に一千餘あり、活動せるもの三百二十五

▲西半球中 北米には噴火山二十個、中央亞米利加には二十五個、南米には三十七個

▲十九紀 中地震の爲めに死したる世界の人口、約一百万人

▲佛國大統 領の一年間俸給及び交際費四十八万圓、米國大統領は二十二万圓

▲匈牙利の 國會は世界第一の多數代議士有り、其數七百五十一、英國は之に次ぎ六百七十人の代議士有り

▲郵便制度 を實施せし以來、葉書を初めて用ひたるは墺地利が嚆矢にして千八百六十九年に用ゐ始めたり

▲西班牙の 人口過去四十五年間に僅か三百万を増加せるに過ぎず

▲西米戰爭 の爲めに、合衆國政府の雇ひたる人員二十七万四千七百十七人、死亡者の數二千八百零三人

▲愛蘭土は 毎年十万の人口に就て毎年千二百五十四人の海外移住及び出稼人を出だす

▲英蘭土に 於ける最初の禁酒會は一千八百三十年より始まる

▲英語國民 中、第一生徒の多き大學はハーバート大學にて、其數五千五百七十六人、最近の報告に依る

▲英國の領 土は獨逸のそれよりも四十倍有り

▲加奈陀に は三十三万五千人の獨逸人有り

▲柴比利亞 の面積は全地球の九分の一、露を除きたる全歐と北米合衆國を併せて其中に入れて猶餘り有り

▲歐羅巴に て全く海軍力無きはセルビヤと瑞西

▲十万以上 の人口を有せる都會合衆國に三十八、英國に廿六、日耳曼に十五、露西亞に十、佛蘭西に九有り

▲獨逸にて 千八百七十一年には八百十万に付き八十五人の盲目者ありしが、昨年は六十七人に減せり、全く醫學の進歩に依る

▲一昨年中 に印度の中央印度のみにて虎の爲め噛殺されたるもの三百五十七人、豹の爲に死せるもの二百九十五人

▲丁抹には 一千百六十七哩の官線鐵道と、五百二十五哩の私設鐵道有り

▲龍動には 六百万の人口に、一年僅に十八件の虐殺事件有り、北米合衆國は人口八千万に就き一年一万の虐殺有り

▲世界第一 小麥の畑は南米アルゼンタイン共和國に在りGuazoneと呼ぶ伊太利人の所有にて一百平方哩有り

▲六十呎の 高さ有る樫の木は、平均六百万個以上の葉を有す

▲葡萄の實 は一割二分より二割六分の糖分を有す、菓物中最も糖分多きものなり

▲地球上に て氣候の變化最も少き土地をSurinamとす極寒七十七度半極暑七十八度

▲英國のリ バープールより米のニューヨルクまで、大西洋を渡す犬の運賃一頭三十圓より六十圓まで、其運賃多少は犬の大少に依る

▲桑港に於 ける支那街には四個の漢字新聞有り

▲伯林にて 醫者の御者は皆白色の帽を被れり、不時の患者生じたる場合、喧噪の間に醫師を呼ぶに最も便利なり

▲金鑛の地 脈最も廣きは西部濠地利とす、其廣さ三十二万四千四百平方哩

▲加奈陀に 産する鑛物、一昨年一年中に採掘し得たる價、加奈陀の住民一人に就き二十五圓づゝの割合となる

▲英國全都 の家屋を一直線二行に街の形ちとなして並列すれば其長さ一万四千哩となる



洋鬼の日本觀　上

A story of the yankees of the east

ゼラード、フォーク

左は亞米利加の一紳士 GerardForke 氏が日本に遊むで見たるところをオハイオ州の The Chillicothe News Adrertiser に掲げたるもので米人の目に映じたる日本觀である、無遠慮なる奇警の觀察、邦人に採て反省の資料となるもの尠からず、茲に輕妙の原文を鈍拙の譯筆もて讀者に紹介することゝした。

鷲鳥園の騷動見た樣な
横濱の埠頭

曉の星の光が漸く微けくなると共に、濛朧たる曙光は今正に入港する我滊船の舳に達し、段々に其が生々したる色となれば、彼方にかの聖とき日本の主人公たる富士山が、その雪に掩はるゝ絶頂を顯はし來て、やがて朝霧も次第に消去れば純白無垢の圓錐躰は段々と下部に擴がり、一點缺けざる完全の美容を持して、一万三千呎の青空に聳へ、嬌然として吾人を迎へるのである。

しかし船一度埠頭に近づけば、吾人は此美景を嘆賞すべくすこしの時間をも有しない船の推進機がまだ全く運動を止めないのに、早くも幾十百の艀舟は四邊に群り來て、其船頭の何とも判らぬ聲にて罵り叫べるは、恰度不意に惡戯犬に飛込まれた一大鵞鳥園の騷動見た樣なもので、其八釜敷さは迚ても形容され得べきでない、此等の艀舟は中々珍らしき物で、野蠻人の用ゆる獨木舟と、ヴェニスの小舟とを折衷した樣なものである、角形をなせる艫の隅に小さな踏と稱する栓の上に只一本の櫓を置いて、船頭は其傍に立て、ヒーフーと

云ふ掛聲をして優然と漕ぐのであるが、其熟練せることは實に驚くべき程で、万船輻輳の中間を右廻左轉少しも誤らず、少しも狼狽しないのは、感嘆すべきである。

かくて足陸上に上るや否や、吾人は再び喧々囂々聲裡に投ぜられる、短かな上着を着、小さき脚部を露はして活潑に飛び跳りして居る動物は、各々一挺の乳母車を大きくしてハンドルを附けた樣な車――即ち人力車――を曳つぱつて人每に五月蠅く乘車を勸める、で上段の階段に腰を落付け、前のダッシュボールド的の處に足を踏ん張り、ノメリ出すのを防ぐ樣にする、さうすれば曳手と言つても、押手と言つても差支のない所謂車夫はハンドルの中間に自分の身を入れて、不意に夫を持ち上る、其時こそ後にひつくり返りそうに思はるゝので乘人は周章て、何かにつかまる、此時の心地はまあ初めて駱駝に乘つた時の樣なものであらうか。そうして少時走つてる間には落される心配も、乘る時高まつた胸の動悸も消へて來ると、他の人力車に乘てる人の模樣が非常に可笑しく見へて、世に是程妙なものはないと樣に思はれる、そして一二哩も行く間は何かしら行き交ふ人の凡てが自分をばかり見て、己の顏に余程面白ひとでもかいてあるのかと思ふ心配が起る、併し決して左樣ではなく只自分一人の杞憂にすぎないと云ふこともすぐ判明して來る、如此して二三度も此人力車に乘れば、此の車が世界中の車中で一番に手輕で、道を行くに一番愉快で、一番便利なものたることが實際に知られる、日本の車夫はどんな馬よりも余計の里數を行き、物に怖れることもなければ、案内者も要らず。御望の所は何所へなり一度吩附けてさへ置けば、乘人が夢中になつて居る間でも、ちやあんと乘せて行て吳れる、又止まり度い時は少しも絡車で引締める樣な面倒もなく、安全に迅速に止まれる。是が馬車では出來ぬ藝當で、馬よりも人間が重寶なところである。此人力車が五輛も六輛も列なつて行く時、何か道に少しの障害でもあれば最先きのが先づそれを避けて、ホーッと云ふ樣な掛聲をする、夫を次へ次へと恰も鶩鳥の列がする樣にして傳へる。

小兒と老人の極樂園

余の觀察の及ぶ限りにては日本に居る外國人は中々丁寧親切である、或は之は全く自然に出たものでないにした處が、此國へ來たらばすぐ其樣な風に化せらる

に違ひない、日本人は余が見た人民の中で、最も親切で、最も溫厚な國民であるから、人に依ては余と全く反對に言ふ人も又書く人もあるが、此樣なのは大抵日本人の性格風習を全く誤解したもので、日本人を始めから一階下等の人種と見て觀察したものか、又は日本人には全く珍らしい亦全く缺けてる風をしてるとか、奇に思はれる習はしとかを、注意されたか何かしたのを直に侮辱されたのだと早合點した連中の事である、勿論日本にも罪人は少なくないが、かの數多の文明國至る所に見らるゝ泥醉、喧嘩、發行などの樣な者は比較にならぬ程少ない、そして日本は小兒と老人を無上の親切注意を以て好遇する土地である、彼等は道德上又は宗敎上には他の國民から何等の指導敎育をも受ける必要を持たない、かの囲い穴に四角な栓をつめると云ふ樣な杓子定規の考計り持てる連中は、宜しく日本に行て大に啓發する所あるべしである、されども悲哉日本人の宇宙を解せる如くに、此大原理との調和を有せざる彼等には、そんな事をした處で到底役に立つ事は出來まい。

何所の街でも小兒達は群をなして遊んでる、そして何れも可愛らしく、愉快らしく、大方は奇麗さつぱりした風をしてる、余は幾千百の彼等を見たが、嘗て一度も怒つた聲したものを見た事がない、そして此等の小兒は一般に貧民の小兒で、漸々其日〳〵を送つてるのであるから、時には餓に瀕するともあるのである、併も彼等の顏色はだれも〳〵生き〳〵として眼輝き頰は紅である、少し敎育ある人士又は有福な家の小兒は決して此樣な大道に遊び步るいて、公衆に見せる樣なとはないから、知る譯には行かないが、もし此國の小供達の間にも他の國々と全樣に貧富兩階級の差があるとすれば、此國の小兒達は他國の全體から非常なる羨望を受くるであろう、日本を「小兒の樂園」と呼ぶのは實によく的中してるが、全時に「老人の享樂地」と言ふとが出來よう。

清潔好きか汚穢好きか
見分けの付かぬ人民

日本で尤も厭はしきものはと言へば、夫はあらゆる方面から吾人の鼻孔を襲擊し來るかの恐ろしい臭氣である、市街には塵芥等の汚物を捨てるに只一箇の小箱が各家に備へてあるばかりで、夫さへ取集めの頻繁ならざる故でもあらう、芥一杯に滿ちて、異臭を放て居

る、殊に日中排泄物を滿載せる荷車が通行する時の如きは全く呼吸も出來なくなる、然かも其が普通で誰も咎める人もなく怪しむ人もないと云ふに至ては、如何な下等社會でも一日に一回は血温一度下と云ふ恐ろしい熱湯に沐浴して身躰を潔める國民中に、此樣なとがあろうとは中々信じも想像も出來ない事柄ではないか、それでも彼等は個人的には中々清潔で、例令ば蒸暑ひ日に密閉した建物の中で催せる政治上の集會などで、議論聞に意氣大に昂れ〳〵時、白人等の夫に於ての如く汗臭ひとなどは決してない、こんな風なのにも係らず、稍地には遠慮なく否むしろます〳〵盛に汚物を注入滲過せしめて、純粹の飲用水は山の上か丘の邊でゞもなければ無い樣にして居るが、奇麗好きか汚穢好きかサツパリ見分けの付かぬ不思議な人種である。後來此樣な不潔中に人民か段々殖へて住所に困難する樣になり、又片面には衛生思想も普及して繁殖の增大、生活の困窮等が彼等の注意と、考慮を曳くに至つたならば、其次に來る彼等の事業、所作は果して何物であらうか？、是れか歐米人として日本人に對して、注意せねばならぬ要點である、日本人は世界中で、尤も大膽に、尤も智力に富める國民の一たることは深く吾人の記す可きものである、又彼等が精鋭なる戰士であつて、無上の忠君愛國心を有する國民たる事も決して忘るゝ可らざる條件である、偶々彼等の躰格の倭少なる或はスヲブや、ゼルマンや、アングロサクソンの侮を買へど、何も身躰の大小が精神の技量を計る尺度として何等の役に立つべきものではない、むしろ身躰の大なるは比例上彈丸に命中し易ひ筈て、戰時には失敗の原因であるかも知れない、全樣に日本人の腦の重量は身躰との比較上他國民に超越はしても決して劣ることは無いと思ふ。

天氣には砂漠雨天には泥海の東京

東京は約シカゴ程の廣さて、多分人口はモ少し多からう、それは住居はマッチ箱の樣でも、人間の數は中々澤山住んで居るからである。然るに此廣大な市中に「改良」(イムプローブドストリート)道路とては僅に一哩か二哩、夫も車道は砂利を敷き、兩側の人道に石か煉瓦をはめた丈である、其外の街に至ては、天氣次第に泥や砂に埋まつてる、天氣の善ひ日心地よい位の微風があつても、市街は一面に黄くなつて、口と言はず、目と言はず、只砂塵の襲ふに任せて、それは〳〵堪つたものでない、まして夫が少

し強風とでも言はうものなら、殆んどサハラの砂漠で旋風に遭ふのも此樣なものだらうと思はせる、そして又雨天になれば、道か川か判別の出來ぬ位で、婦人などはとても外出する事は出來ない、日本の或新聞紙が、東京市中の商家が此爲に受くる所の損害を一ヶ年二百万圓と計算したと云ふが、多分誇大な言ては無からうと思はれる、近年日本政府ても大に悟る所あつて水道を敷設し、道幅を廣くし、家屋を清潔にするなどに勤めて居るから、追々には改良の實も見へやうが、日本に遊んだ他國人が第一に切望する所は、一日も早く道路を修覆して、砂漠、泥海の苦を免れしめて慾しきとてある。

石を積上げる驚く可き技巧

は宮城の周圍なる中古時代の建築にかゝる防禦壁に於て現はされて居る、それば二百呎の廣さを有する城濠の内側に、高さ三十呎より五十呎に至る石壁て、少しの漆灰を用ひず、只荒く刻める石塊を地壁に沿ふて一列に築上げてあることで、此セメントも何も用ひずして只積み上げた計りで、堅固に石の壁を保存する技術は、到底眞似の出來ぬことである、されば外見上よりは如何にしても只一度に崩れ落ちねばならぬ樣に思はれるけれども、此石壁は建築以來已に三百年以上如何なる地震にも少しも搖ぐことなく、儼として當時の俤を存してるのは豈驚く可きものではないか、而して日本人は無學なる農民に至る迄、よく此建造法を熟知し、山腹の開拓地などは、夫て已に保く難く思はれる圓形の石や、小さな切石を以て、壁を作り之に備へ、少しの修繕をも要せずして、幾多の星霜に堪へて居る。

日本に往て藝者を見ねば埃及へ行てピラッドを見ぬ樣なもの

世界漫遊者の多數の證明によれば、日本へ行て見なくてはならないものはかのゲイシャである、彼等は異口同音にゲイシャの華と美と才とを賞讃して、日本へ行きながら藝者の踊を見ないのは、埃及へ行きながらピラミットを見ないのよりも口惜しいとてあると迄言つて居る、それで余等は京都に行つた時ホテルの番頭に藝者の踊り場への案内を仕て貰つた、それで其處に行つて間もなく、二ダース程の藝者の群がドヤ／＼と入り來つて、後からは又給仕の一組が盆の上に酒の瓶

を乘せて持込んだ、先始めには銘々酒を呑まねばならぬので、次に各々他の人と杯を交換して亦呑む、之は日本の習慣なのである、此樣なとて殆んど夕暮の部分を過ごすのである、併も其國には夕暮なるものに制限がない、此娘連の幾人はギィーターに似た一種の樂器を持て居るが、其はハーディーガーディーより惡るい下等な樂をするもので、只一筋の絃がある樣に見へた、そして彼等は之を小さな象牙の平板て忙がしく撥き其に伴れて虫の聲に似た耳を貫く高い鼻音を出して歌ふ、併し其音にも調にも變化が少なく實にモノトナスのものであるが、案内者は之が日本の音樂だと言つた、そうでもあらう、さて〳〵これで音樂と云はるゝ資格があろうか、夫から踊りが始まつた、其身裝は非常に派手に着飾つて顏は皮膚が見えぬ程厚く白粉で塗り堅めて、それが爲め其顏色は生氣が無くて、全るでセメントの塊の樣に見へる。

彼等は一度も口を開かねば、又顏をしかめるともなかつた、多分白粉の塗り方が厚くて爲るとが出來ないのであろう。又彼等は踊り方と言へば、幾人の踊子が一樣に調子を合はして片手を上げる、下げる、又他の片手を上げる、片足を二时程前に突き出す、引込める、

そして又他の足を仝樣にする、片膝て屈むで又立上がる、又他の膝て仝樣なとをする、半分程クルリと向方へ向く、又直に向き返る、かく余等には實に無意味で乾燥枯淡何等〆意味も面白さもなき所作をかの美麗なる扇を手に持ちながら演じて居る、此の如き同じ所作を再三再四繰り返へして行る、そして長い長い時間を通した、此長い時間我々は床の上て恰も出齣〆裁縫人の樣な姿勢て苦痛を忍んで座つて居ねばならぬ、彼等の踊りとては此外にないのである、余等は演舞が終つた時大に喝采してやつた、併し余等の失望と云ふものは實に大抵ではなかつた、涙の出る程であつた。

さは云へ彼の巴里の亂舞とは事變て、少しも淫猥なことや無作法の風なとは無い、まあ能く言へば優美なものである、かくして余輩は全き失望の中にホテルに歸つた。（以下次號）

黑岩氏の新聞經營談

蓋湖生

▲人も知る如く黑岩氏は「大坂朝日」の村山龍平氏と共に新聞紙社會の兩大關といはるゝ人であるが、此東の

大關といふべき黒岩氏の『万朝報』はいつでも何者かと戰ふて居る、世のすべての醜惡なる者、藩閥政府、貴族、資本家を敵として戰ふて居る。其戰ひの方法が時として過激に失することはありとも、何物をも恐れず憚らず、顧みず躊躇せず、獨立獨行、奮闘して居ることは敵と雖も認めざるを得ないことであらう。

▲此健闘せる新聞紙は如何にして經營されたか、如何にして生長したか、黒岩氏は左の如く語られた。

▲新聞紙に限らず、すべての社會のものは社會の必要に應じて生じて來るので、新聞紙も生長すべきもので、製造せらるべきものでない。現存して居る幾多の新聞紙は皆極めて幼稚の域から生長したので、遂に製造せられたものではない。生長する新聞紙は永續するが、製造さるゝ新聞紙は亡びてしまう。『東京日々新聞』の如きも、其生れた當時は極めて幼稚なもので、木版刷りの半紙片面であつた。それかゝそれに出て居る記事も太政官の布達の他に一二の雜報があるばかりで、余がいまだ餘りに可笑しいから覺えて居ることは、或日の新聞に、群馬縣に於て酌婦が枕探しをしたといふ記事が只一つ掲載されて居たことであつた、東京の新聞にかゝる詰らぬ、しかも地方の事が只一つしか記載されて居らぬといふ事は、今より考ふれば殆ど想像にも上らぬのではあるが、現に大新聞の一と目せられて居る『東京日々新聞』も、此やうな幼稚の域から次第に生長したのである。

▲『時事新報』の如きは初めから立派な新聞紙であつて、生長したものでないやうに思はれる。然し其實福澤先生が久しき前より多くの雜誌的刊行物を出して、準備をされておかれたので、決して一朝にして製造されたのではない。製造された新聞の成功しない證據は『明治日報』『大東新聞』等の例に於て見るべし、此等の新聞紙は政治上の機關として製造せられたのであるから、久しからずして倒れてしまつた。

▲斯くの如くにして新聞紙は生長すべきもので、製造すべきものでない。然らば新聞紙に經營なるものは無いのであるか、余は『万朝報』を起すに當り、既に二三の新聞社を經巡つて新聞社の種々の弱點を見聞して來たから、此等の弱點を自分の社には導き入れまいとの決心を立てた。其弱點のうちで最も重大なものと氣が付いたのは、新聞社が其發行の紙數を増加したいとの考へから、注文さへあれば前金の拂込みのないのにも係はらず、又前金が切れたにも係はらず、新聞紙を發送

したことゝて、これが爲めに多額の貸倒れが出來る。「輸入自由新聞」の如きは廢刊の當時三万圓ばかりの貸倒れがあつた、其他「朝野新聞」「曙新聞」等は皆地方の貸金の爲めに倒れたのである。

▲余は此弱點を知つて居るから、「万朝報」を起すに當り、前金の來ない注文には一切應ぜぬといふことに決めた。一躰東京の新聞紙の一番よく賣れ行く地方は山梨縣、長野縣、新潟縣等であるが、「万朝報」の生れた時に一番多くの注文が來た所は山梨縣であつた。ところが山梨縣は讀者は多いが頗る拂ひの惡るい所であつて、注文の葉書は七百餘通も來たけれど、前金の拂込みのあつたのは其うちで僅に十枚にも足らなかつた。そこで余は前金にあらざれば發達せぬとの旨を返答して、前金を送つて來た注文の他には一枚も送らなかつた。これが爲めに貸倒れになるやうな事は全く無かつたのである。

▲「万朝報」を起してから二三ヶ月を經て、余は會計の帳簿を調べてて見たところ、貸になつて居る讀者が三人程あつた。これは余の規定に反するから、早速紙上に於て前金切れの方兩三名あり、至急御拂込を乞ふとて催促した。すると皆拂込に來たが、或新聞事業に老練なる人が、黒岩のやり方は旨い、兩三名と書いたのはよかつた、多勢の未拂者があるやうに書けば人は注意せぬ、兩三名と書いたから各々自分の事だと氣が付くといつて大そう賞めたそうであるが、余は別にそんな考へを以てやつたのではなかつたのである。

▲これをしも新聞紙の經營といふべきか、然しながら余は當然の事をやつたので、經營でも何でもない。余は頑固に此主義を守つて居て、或月末の如き前金の切れた得意が百軒以上もあつた、其うちには大丈夫貸倒れになる心配のないのもあつて、會計では大に異論があつたけれども、余は斷然發送を中止をした。其うちに高知縣の淺井某といふ多額納税者の名も見えた、余は現に其名を聞いて居つて、決して拂込を怠るやうな人でないことは知つて居たけれど、前金切れの報知と共に發送を中止さした。すると淺井の家では、今までこのやうに催促を受けたことがなかつたのだから、大そう呆れて、自己の家へ催促をよこすとは面白い、一つ驚かしてやれといふので、五六年分の前金を一時に拂込んで來た。今でも淺井の主人は一つ話にして居るそうである。

▲余は「万朝報」を愛すること眞に子の如して、之を育

て上げる事にのみ心を專にした。社に居る時はいふ迄もなく、如何なる場所如何なる時でも、如何にせば『朝報』をよくすることが出來るかとそれのみに心を費して、そして氣の付いた事は一々試みて見た。

▲が、余が絶えず自分のモットーとして守つて居つたのは、何事も一番よくせよといふのであつて、第一に早く報道する、第一に新工夫を思ひ付く、これが余の常に實行を志した事である。それから、若し第一になることが出來ぬとすれば、少くも第二になれ、決して第三位に落ちるなといふのが余の決心であつて、それ故もし他の新聞紙で何かよき工夫を思ひ付くことがあれば、朝報はすぐ其眞似をする、眞似をして少くも第二になるのである。其後他の新聞で『朝報』の眞似をすることが度々あるが、余は自分も眞似をした事があるから、決して之を責めることは出來ぬのである。

▲今まで述べたところの二つの事、これ以上に經營はない。それから余の編輯の方針は何であるか。余は常に思つて居る、新聞紙は恰も牽牛花の如きもので、朝のうちだけ生きて居て夕には死ぬ所の、英語でいへばPerishable死に易い)なものである、新聞紙は午前のうちだけの命で、午後には只の反故紙になつてしまう。魚市場の賣買の活潑なるは生き物を取扱ふからで、もしも之を悠々閑々とやつて居ては品物が腐つてしまう。新聞紙もその通りで、總ての事を報道するに、よしや少しは間違はあつても、出來るだけ早くする、昨日の出來事は今日必ず報道する、これが新聞紙の本領で、余の編輯の方針は新聞紙を死に易いやうにするのである。

▲世間の人は知らぬが新聞紙の裡面には驚くべき發達がある、それは發送部で、こゝには社會の如何なる部分よりも最もよく信用制度が行はれて居る。府下に新聞取扱店が三百餘あつて、其うちに大取次所が數軒ある、此等の大取次所が互に其特約の新聞紙を交換するのであるが、大抵新聞紙の刷り上るのは午後の九時頃であるから、取次所に於て互に其特約の新聞紙を交換して、午後十時發の新橋上野若くは飯田町の最終列車に間に合せるには、僅に三十分間以下の短き時間のうちに荷造りから總てを濟ましてしまはねばならぬ。それで新聞紙の交換をするには、極めて簡短な符牒を以て新聞紙の名を現はし、何新聞は何十枚、何新聞は何百枚と書いた紙片を以て取引するのであるが、信用制度がよく行はれて居るため、其紙片は紙幣同樣の

價値がある。其取扱方の敏速なることはいまだに余の驚く所である。

▲新聞紙を起すに幾何の資本を要するか、これはよく人が質問する所の問題であるが、余は思ふに、現今東京で起すには大凡そ二十万圓は必要であらう。然し前にもいふ通り、余の見る所を以てすれば、新聞紙は自然に生長すべきもので、遽に製造さるべきものでないから、よし二十万圓の資本を投ずるも成功は請け合はれない。『万朝報』を出すに當つて余の手に在つた資本は二千六百圓で、其うち千圓は保證金として警視廳へ納めたから、實際の資本金は千六百圓に過ぎなかつた、これが不足て、猶ほ千圓の借金をしたから、つまり三千六百圓の資本を投じたのである。

▲新聞紙の競爭は激しいもので、今では東京の諸新聞は東京ばかりで競爭して居るのではなく、全國の新聞紙を相手に競爭して居る姿である。東京の諸新聞の勢力範圍は東京、東京近縣、東北地方、幷に西は名古屋以東で、名古屋から西幷びに中國は大坂の新聞紙が勢力を占めて居る。それから今は東京の諸新聞は東北へ延びる餘地がないから、九州に於て同地幷に大坂の新聞紙と競爭しつゝ次第に延びつゝある。

▲余は日清戰爭の終つた頃、馬關へ行て同地に於て新聞紙を起さうとの計畫を立てたことがある。余は思ふた大坂の新聞紙の競爭に應ずるには馬關に於て、一方は東　より、一方は清韓幷臺灣より電報を取寄せて新聞紙を出し、中國幷に九州より大坂新聞紙を退けるに在ると。余は多忙なるため此計畫を實行することを得なかつたが、日本人は西南へと膨脹して居る、新聞紙もこれに從つて西南へと延びねばならぬ、九州は新聞紙競爭の中心となるであらうと豫想して居たが、現今の狀勢は此豫想を現實にして、九州の二三の新聞紙は日々數万枚を發行し、東京大坂の諸新聞紙は次第々々に此地に延びつゝあるのである。

△以上は黑岩氏の談話の大要であるが、余の筆記の不充分なる爲め其言ひ廻はし方の巧妙なる所や、若くは用辭の面白き等を完全に寫すことの出來ぬは遺憾である。それから又聞き誤り書き誤り等の爲めに黑岩氏の眞意を誤り傳へないとも限らぬ、責は一切余に在り、若しかゝる誤りあらば余は黑岩氏並に讀者諸君に向つて深く謝さねばならぬ。

一私人（三）

北條環翠

報效義會長郡司成忠氏

浦鹽斯德から西比利亞鐵道を北へ延長して白令海峽（ベーリング）を墜道で通り拔けやうといふのです。兎に角東西兩大陸の連絡ですからねー、壯んなものですよ、佛蘭西人が二年間かゝつて實測して充分成功を確めたのです。馬關海峽なんか鐵橋だ何だつていつて居るよりは、墜道を堀るのが便利でしよう、そして容易です。それに『そんな話があるやうですが、堀つて行けるものでしようか』なんて其地方の者が日本の北の端に居る千島の漁夫に問ふたから驚きましたねー。』

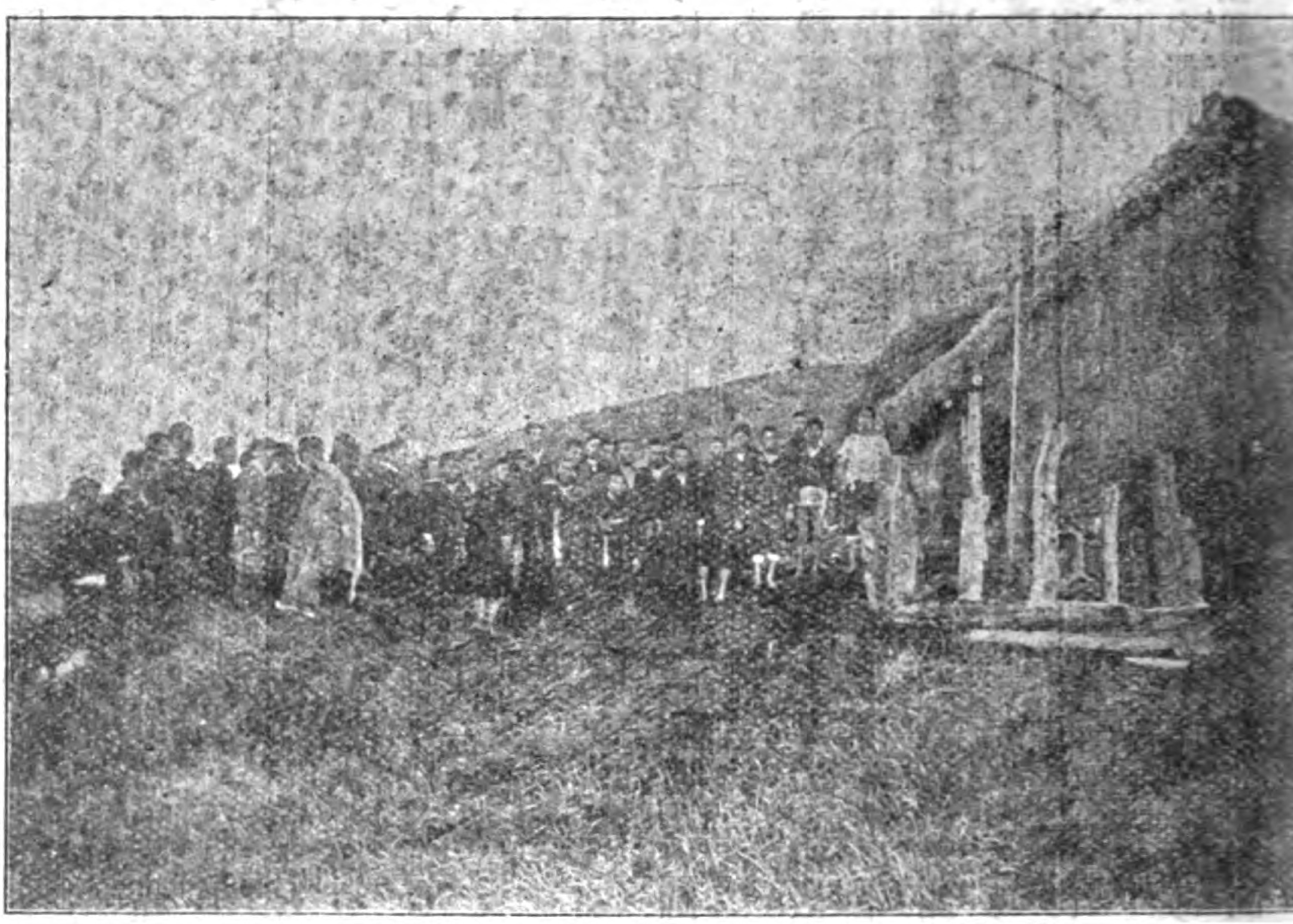
嗚呼千島の漁夫とは報効義會長、海軍大尉郡司成忠氏の自稱である。

自分は子供心に記憶して居る、一陽來復の春尚淺く、梅の蕾もまだ雪に埋もれて居る時に三隻の端艇が海獸の夢を驚かすべく北斗の下に向つた。同時に朔風吹き荒む西比利亞の野を横ぎつて騎馬の一軍將が日本に歸つた、郡司大尉と福島中佐の名は當時田舍の隅々まで響き渡つたのである。然し其何故に船が北に行き馬が西より歸つたかは知らないものもあつた。以來十年を閲した今日に於て東洋の天、殊に北方の一角に妖雲が立ち昇つて居る。既に一ト昔以前に於て今日の雲氣を察したのは、其の人は自ら所謂千島の漁夫であつた。

過去十年間の大尉の苦心、會員の經營は實に海國日本の先驅として痛快を極め悲愴を極めて居る。實に報效義會の事業は海上に於ける日本將來の理想を遺憾なく發揮したものである。

自分が大尉を訪問した日は丁度東北地方へ報效船隊の遊說に出られるといふ前々日で、新調の幻燈映畫を映して見るといはれたから自分は强て長坐して報效義會東京支部の階上で大尉の熱心なる說明を聞く事を得た。

現に風浪に漂ひ氷雪に閉されて、或は飢へ或は凍へた、大尉以下會員が其場に並んで居て、而して其幻燈を見るのは一種感深きものがあつた、大尉は其力あるサビのある幾十年間海で鍊へた喉を通じて張り出づる朗々の音吐て以て一々に說明を試みられるのである。思ふ



孤島の經營

に人々の其當時の境遇と大尉の說明とか或は相違しないかといふ事を其の人々に問ふて見られるのだらうと自分は推した。

船長事務員等其會員及び其內君令息令嬢が一家族の如く、自ら其所謂漁父を擁して熱心に其談を聞いて居る、これ一幅の好畫圖、若し此光景を繪にすれば「海上に於ける冒險事業の成功」とでも題すべきであらうと思ふ。

明治廿六年二月十三日相州白濱を出でゝ漸く占守島に着いたのは八月三十日、內地では納涼臺で浮世譚がはづんで居る時であつた。果して「郡司大尉の一行は何うしただらう」と噂する者があつたかどうか。

其年から翌年へかけて大尉の一行は隈なく島內を探險して、歸つて會員一同妻子と共に引き移つた、住めば都といふ事はありながら都を距つる三千海里の絕海孤島に經營慘憺して漸く風雪の中に衣食住の緖を得た。密獵船を斥くる爲めに戰鬪の準備をした事もある。或は食料延着の爲めに餓死せんとした事もある。

密獵船の難は唯暫時の警戒であつたけれども、餓死の難は餘程大敵であつた。明治三十年の末の事、流水丸といふ船が糧食を積んで來る筈であつた。然るに或日

大尉は島の海岸で三角定中が一つ漂着したのを拾つた、正しく船員の要具である、或は流水丸が不幸難破したのであるまいか、島內全員百餘名が越年の糧は海波の冷たい中に沒したのであるまいかと心ひそかに案じて居たが到底秘しきれない、續々船中の物が流れ着く、遂に老人株の者と謀つて能く〳〵樣子を探つて見に角十日程待つて見て遂に帆の影もなかつた時には一同、落膽は大方ならずで、大尉でさへ思ひ惱んで一時不眠症を起したそうだ。

老幼男女夜を日に繼いで刻苦して越年の計全く成つた時に流水丸が着いた其時は一同歡天喜地所謂雀躍欣舞てあつたそうだ。

其後三十一年十二月三十一日に龍睡丸といふ報效義會の持船が南洋へ鱶捕りに出て、難破して非常に辛苦して乘組全員皆無事に日本へ歸つた事がある。其間の大尉の苦心は到底自分等が餘所に聞いて推測するくらゐの事でない、これは是非別の物語りとして諸者に報じたいと思ふ。

今や郡司大尉は尙一層北門の鑰を固くせんが爲めに報效船隊を造りたいといふ計畫で、熱心に全國を說き廻つて大方船隊も成就する樣になつた。かの東北遊說の前々日に造船の見積書を示して、十万何千何百何十圓と讀み上げつゝ。

「十万圓乞食してこしらへるのは實にエライです、然し私は必ず遣ります、ハヽ、乞食じやない乞錢だな」といつて居られたのが、自分は身にしみて尊い樣な嬉しい樣な、一種の福音に接した樣で今に忘られない、恐らくは自分の鈍い腦裡にも大尉の此言は深く〳〵刻まれて生涯消えないと思ふ。

北方の雲氣果して如何に、異變ありやなしやはさて置いて。

累々たる北海の天產は報效義會あるが爲めに一絲たりとも外人の盜網を許さない。思ふに北海道の陸に屯田兵のある如く、報效義會及び其船隊は海に浮べる屯田(?)兵ではあるまいか、之を私立海軍といつても宜からう。要するに既に、報效丸、占守丸、石川丸の三艘の船もあり、年々万圓以上の獲物を以て、我極北移住の同胞を養ひ、全員擧つて報效の誠を盡して居る、尙此後の成功は報効船隊が成り立つて正に海國日本の維新元勳になるのである。

大尉に關して從來の事業、今日の企圖、將來の目的、報ずべきこと一にして足らず、他日改めて大に紹介するところあるべし

泥坊にやらるゝ記

摩天艪

（一）

極月十六日の夜半、老いたる母の辭厲しくわれを呼ばるゝ聲に驚きさめて、すは事こそとばかり蓐を蹴つて立ち出づれば、西側の中敷居なる障子の明け放たれたる所より、恰も頰かぶりしたる男の逸足出して逃げ行くが見えたり、「去る者は」とてわれは追はざりき。

（二）

流るゝが如き寒月の光を滿身に浴びて、頰被りに尻端折りたる男の生垣を破り分けつゝ落ち行くさま、泥坊にも存外風流なるところはありけらし。左までにあわてふためきて逃げ行くことかはとわれは思へり。

（三）

やがて誰彼起き出でゝ取り調ぶるに、紙入に入れ置きたる十餘金が奪ひ去られたりけり。賊は初め浴室の戸を開きて内に入り蠟燭に火を點じたる後、人の枕もとを彼方此方往來したるものとおぼし、づうづうしさも之まで進めば、以つて生計の資に供すべしと見えたり、泥坊にもわれらに勝れたる所はあり。

（四）

泥坊に金をやられたるほど馬鹿臭きはなし、思ふにわが馬鹿臭きだけ泥坊の身に取りては愉快なるべし、此に於てか知る、世には社會主義なかるべからずと、社會主義といふは畢竟泥坊に奪はれたるものを取り返さんとする主義なればなり。

（五）

翌くる日之を駐在所の警官に屆け出づ、彼れ臨み撿して、わが前夜浴室の戸に掛金を施すことを忘れたるを責む。

之を同衙の友に語る、彼等聞き了りて、金融機關の比較的備はれる大都に住しながら常に現金を手にすることの愚なるを嘲ける、泥坊に遭ふは多くの場合に於て、我にも落度ありとわれは悟れり。

（六）

世にあぶく錢は長もちのせぬものといふ。若し入りたるあぶく錢が長もちのせぬものならば、出てたるあぶく錢も亦せざらん。

さなり、盗まれたる金は、二月三月の中に、いつしか埋め合せられて、また又其の痕をとゞめざるべし、唯

盗める人の泥坊なることに至つては、長へに消ゆべからず。
憫むべからずや。

（七）

金を得んとして金を得ず、乃ち孤劍飄然他の家を襲ひ、多少の危きを冒して若干の黄白を拉し去る、泥坊のなす所は比較的に男らし。終月手を懐にして一事を為さず一物を作らず、將々平として唯先人の「遺勳」に衣食する底の徒の如き如何ぞ泥坊に耻ぢざるべけんや。

（八）

ドロボーといはんは、英語のバーグラーなどいへるに似て其の音甚陽氣なり、「ぬすびと」といはんはシーフに似て其の音頗る振はず。金を取らるゝにしても其の名の陽氣ならんこそよけれ。

（九）

ウイルキーコリンスの著に少なからず教育せられたるわれは、一種の探偵熱を起して如何にもして當の泥坊を見つけ出さんと心を定めつ、乃ち菜畑なる足跡の寸方を計り、椽端におとしたる蠟燭の性質を鑑定し、障子を破れる刄物の刄に小さき傷あるべきことを考定したり、之を村なる専門家に語りしに盗まれたる品に金錢以外のもののなき以上は、如何に力を盡すとも其の甲斐はあるまじといはれて、われは遂に探偵小説の主人公となり損いぬ、事實は小説よりもむづかしきものと見えたり。

▲良妻撰擇法

（ニューヨルク、タットラー誌所載）

- 第一に其娘が朝起の時チヤンと締りのある風かダラシの無い姿かを御覧なさい
- 弟妹や犬猫小鳥に對する取扱振りを注意しなさい
- 飲食物の嗜好を鑑定しなさい
- 洗ぶ方が好きか、塗る方が好きかを見別けなさい
- 歩む方が好きか、乘る方が好きかを見別けなさい
- 讀む小説の種類に注目しなさい
- 教會堂での擧動に氣をお付けなさい
- 同伴して出來る丈け速く歩み娘の呼吸等で健康を鑑定しなさい
- 以上が濟めば娘の父母家族の性質を御覧なさい
- 奇麗てしまりが有つて、實意て達者で、賢くて有福なのを六拍子揃ひの娘と申します

諷壇



へなづち

久良岐

▲新年記者

明けまして先づお目度き卯正月
　お耳出度きと記者の云ふらん

▲政海波瀾

日の本は貧乏神の神代より
　今に變らぬ鎗栗の沙汰

▲官制改革

公共の事業の頭はるの風
　くさしと云はぬ人や無からん

▲女生問題

大方の海老茶袴の綻びは
　誰れか縫ふらん休む時無しに

▲僞善流行

世の中は骨の上に着る皮袋
　只人前を飾るなりけり

▲海軍擴張

海軍は奈良の大佛にさも似たり
　外いかめしく内は金なし

商のいくさの道にうち負けて
　太刀はとぐとも甲斐や無からん

國は日に貧しくなりて男の子人
　から雄健びにから威張する

▲皮相文明

日の本はゑせ文明の猿芝居
　外國の太皷を聞きて喜ぶ

▲灰殻紳士

ハイカラの猪首丈夫しが行けば
　田鶴の行くなす鶩行くなす

▲强迫新聞

日の本は御代冬なれからうべな／＼
　人をもゆする木枯の風

▲新詩懸賞

新躰詩に黄金を懸けて世に問へば
新躰詩人の嬉し泣きする

▲塙擅解嘲

三年まで人のしるさぬ果敢名を
たゞに得んとて世をば罵らじな

▲五日停會

月かけのみつもかくるも降つゞく
五日の雨の後にこそ知れ

▲視學拘引

敎草學の園を喰あらす
黄金の蛆をかりつくさばや

新罪言

藍川

●旭日塵

五彩晨霞映下聚。泱泱一碧似春醪。恩波萬頃望無限。
仰見扶桑旭日高。

●老風塵

相公辛苦蘇經綸、未行滄浪學隱倫。豈是丹心憂社稷。
堪憐白髮老風塵。

●走馬燈

昨日仇讐今友朋。紛紛擾擾奈蒼蠅。朝廷作野君休辨。
笑見人間走馬燈。

●細君怒

狹斜時被美人囚。歳費二千何所留。只怕還家細君怒。
外交唱硬内交柔。

●須注意

治邦何要念瞿曇。海外求師亦美談。太子歸來須注意。
盤空鵬鶚欲圖南。

●懸賞金

書生志氣奈銷沈。得意攫他懸賞金。今日文章歸乞丐。
休言作者燦如林。

●刀圭術

鴟外先生服色工。開春第一現龍宮。梨園亦要刀圭術。
奏否回生起死功。

刺句撥句

曉霜

▼解散風聲

桂折れな解散風の逆吹雪

▼桂對伊藤

藤かつら何れが蔓の親じやゝら



春のとぶき

追羽子

堀内新泉

（一）

「姉さん！宜くッて？進げますよ」
「さあ〳〵、里ちやん、お突きなさい」
姉妹は、綺麗に、着飾ッて、
羽子板、下げて、向合ッて、
今日を、生命と、嬉しげに、
にッこり、笑ッて、立ちました。

（二）

「ちやア、宜くッて、突きますよ」
「はア、宜いことよ、さあ、お突きと！」
かち〳〵、聞える、羽子板の、
おと諸倶に、ちら〳〵と、
羽根が、虚空に、飛びまする。

（三）

負けず、劣らず、やゝ、しばし、
こなた、かなたの、あねいもと、
ところを、かへて、また轉へて、
肩掛に、附けた、鈴のおと、
から、から、から、から駈廻り、
こちらが、突けば、むかふでも、
おとさず、突いて、あそぶうち、
あら！あひにくの、はるがぜよ、
はからず、つよく、吹いたので、
羽根は、むかふの、ほうに飛ぶ。
いもとは、ついに、受けそこね、
「あら！まあ、いやな、風だこと！
姉さん、今のは、御免なさい！」
「はあ、宜いことよ、かぜだもの、
さあ、さあ、最一度、突きませう」
「嬉しいことよ、ありがたう！

それぢや、こん度、おとしたら、
　お尻を、ぶつても、宜いことよ」
「そら！おとしたわ、里ちやんが、
　はやく、お尻を、お出しなさい！」
「あら！まあ、いやだ、おほゝゝゝ、
　こん度は、あなたが、打ッてよ！」
と、いもとは、負けぬ、氣に成つて、
一ッ二ッと、姉さんの、
　方に、むかッて、突きまする。（終）

紙鳶の風箏

（一）

「太郎ちやん、紙鳶を、揚げないか」
「揚げるよ、僕は、原に行て、
　君も、いッしよに、往かないか」

（二）

「往かうか、僕も、彼の原に、
　そうして、君と、この紙鳶を、
　いッしよに、揚げて、遊ばうよ」

（三）

折しも、吹きくる、春風に、
二人は、紙鳶を、高くあげ、
　長閑に、晴れた、はつ春の、
天を、にッこり、仰ぎつゝ、
こく／＼、糸を、引ッ張れば、
　風箏が、ぶん／＼、鳴りまする。

（四）

「どちらが、高いか、見てごらん！」
「ほら！僕のが、高いだろ」
　「ぢや、今度は、此方が、高いだろ」
「ぢや、こん度は、こちらが、高からう」
　「やアい！やアい！」と、競ひつゝ、
　駈けつ、戻りつ、二人して、
切りに、紙鳶を、揚げて居る、
　その足元に、三疋の、
小犬が、飛んで、居りました。（終）

宮の小鴿

齋藤弔花

里遠からぬ宮に、家鴿多く栖ひき。紫金の羽翼、雪の班に彩られぬる、雄なるべし、一羽すぐれて猛く、

能く飛びて里に出て、落穂の田に下り、枯葉しく林に入り、村の子に親しみ、鄙唄覺えぬ、地は金泥の沈みたる光ありて頸に樺の環のめぐらしたる、神が特ての愛この上にありとの印にや、胸ふくよかに、白く乳をつゝむ和毛銀に似たり、赤き嘴もて、彼かいこしの子鴿にや馴れて身をまかしたらん優しの風情、睦ましき彼の世の愛しみ、わか見る眼妬ましく燃ゆらん心地す、樺の環めくらせるは雌なるべし、啼く聲低し。

雄鴿は朝のつとめに虫を拾はんとて、子鴿の群を離れ、社のむくの木の枝と枝とに日の錯りて縞をなせる陰を潜り飛び、羽はたきに落つる楓の朽葉を負ひて、亂小川流るゝ山田に下り、秋くささける堀に立ては、露山のゆらきは、早や秋の深きをしめし、野路の花、眠をやとしぬ。小池ありて水草の花、波のまに〳〵、るかことくに動きつ。わか跡を慕ひ來りし小鴿一羽、彼方の松樹の梢に、羽をふくらして日あたりよきに止まりぬ。

雌鴿は、堂の屋根近き塒舎に、病める小鴿を溫めゐりしが、軒の小鴿、あまた、餓を訴ふるに、病めるにさゝやきてやをら巣を離れつ、徐かに飛びて村に出で、とある家ゝ前方に茂れる樅の樹にいこひ、彼が例時もすなる輕き歌を謠ひはじめぬ。多くの小鴿中には早や庭に下りたるさへあり。

「姉さん、鴿が來てよ。」

さと窓を打開けたりし稚兒は、懷かしけに空を見上げつ、彼雌鴿の姿に、屹と視線を凝らして、慌たゝしく

「姉さんてば、鴿が來てよ、あの食糧を與りましようか。」

洋琴彈く手は、礑乎と熄みて、姉なる人にや、細き聲して、やかて彼女の全身は露はれぬ

「貴方、皆に頒けておやり。さう、ばら〳〵に撒てやり、妾にも一摑み撒かしてよ」

二人は庭の敷石の上に立ち、弟斜めに右手の腕に抱ひたる餌箱をさし出して、姉の掬ふに任せぬ。

雌鴿たる母鴿、最後に下り立ち、群雛の爭ひ餌む間に立ち交りて喜ばしげに斡旋し、いくたひか、乙女と稚兒との貴き立姿にむかひて、謝しぬ。

雌鴿はかくして、朝夕この庭に來り、こゝに、凜々しき稚童が、生々したる姿を見、乙女か巧なる音樂を聽き、心肥え、肉太りて、向ふなる寒空にも怖づべくもあらず、艶ある背腹に、一絲ゝ隙たるなきまでに、

美しく羽毛の生ひたるなり。雌鴿はやがて、歡びに滿たる形して、子鴿の列に交りて、舞ひ、躍り、歌ひて飛び去りぬ。

高き小阜には、織りなせる錦のそれよりも美しく、紅、黄、樺なるに、青葉のさゝ縁、紫の雲、書にせまほしき中に立てる堂甍都雅なる社こそ彼等が住居ならすや。飛び去る彼等のうしろ姿を見送りたるは乙女なりき、弟は獨樂遊すとて、いつの間にか生垣をくゝりて影をかくしぬ。乙女は只物思ふのみ、身動きもせず、

世に幸あるは富める人よといへり。庭の廣きわか家に勝れる、村に或家がある。塀の高さ、植込の多さ、光あるわか家の軒數のに比ふへき幾個の富をあつめて、わか資産の十一に比ふへきや。

花摺衣、裾模樣、碧きは水に、白く散る藤の花瓣綠絹の絲はあまたゝび人の工にかゝりしも覺し、乙鳥の羽の一すじさへ、名ある書師がいくたびか思を凝らせし。それも初夏の一月に、一度のはれを飾るに足りぬ、春たつ朝には、蓬萊の鶴、四海の波の靜なるにつゝまれ、派手に金絲の眩ゆきを織りて、帶の艶、日にてり榮えて、わか行くに村の子耻ぢて路を避けぬ。

かくて稚さは夢の中に醉ひ過ぎて、人の世の風の寒さ知らざりき。人は唇を反らして、幸ある哉とわれを頌へき。

父は驢馬の脊に銀を鏤めたる鞍に跨りたまひ、母上は金を鍛ひ、成せし指輪に尊きダイヤモンドの箝まれるを指したまふ。妾の簪さへ、貧きが吾を養ふに過ぎたりと覺ゆ。

都ならねば、累少く、高きわか門閥に、人は奴隷のことくに、わかいふこと法よりも重しとす、さなり、罪ある人の子。何の因緣、かくまで自由を神には享けし、幸の子といふ、理なからずや。

さなり、わか心は時めき、踊り、たとへは、彼方にかゝる虹のこと、ありや、なしやのほこり、空を染め成すへきや。

わか心は今、この自由より離れんとし、わかほこりは、今、富、榮、智、德の上にあらすなりぬ。

樂しからすや、小鴿！羽翅の行くに、山の妨げ何の苦そ、思ひ燃ゆる、胸の驚き、人の國に干はらず、友はやさしく歌ひ、子は罪なく眠り、終宵月めくりて巣をまもり、花薫りて夢をはつゝむ。

吁母はいませど、われはまことの母にあらす、わか母はかの小鴿、花に群れゆく小山のかげに、久しへに

眠りたまふものを。わが住家は淋しく寂せ、阿り、媚び、人は鴿よりも趣なし。

乙女け羨ましげに彼方の空を見入りしが、はッとわれにかへりし時、身をかへして、急しく書齋に入りぬ。

平和なる御堂の軒に、日高くさしのぼりぬ鴿、脊を並べて眠る。

今乙女が羨み、讃美せしことく御堂は幸福の祠なるや。小鴿は神の愛子なるや。小鴿は憂なく、罪なく、穏やかに、その胸の動悸なく過くへきや。

小鴿一羽、慌しく飛び復りていふ。

「父上は傷きたまへり、獵夫の射丸誤つて羽に觸れつ。父上はあと叫びつゝ、葎にかくれて難をのがれたまひつれど、わが弱き嘴、救ひ得へくもあらす、母上いかにしたまふべき」

かく言へりしなるへし、衆鳥の驚き、形にあらはれぬ。さる悪獵家の射丸、罪なき鴿を傷けしなり。

憂は忽ち、靜かなる山に入りき、鴿久しく里に出てす、年暮るゝまで五十の月日、空しく過ぎぬ。

年革りて、春の光、花より鮮かに、塒舎にさし入る「力」父鴿の復活を祝ふ聲となりて、松の歌おもしろく、里に「君が代」きこゆる朝打群れて、まづ彼の恵深き乙女の窓先に訪つれしに、羽子の音、つゞきて打興ずる笑ひ聲、彼等耳をすまして、聽けど、馴れし人のなつかしきこゑ聞さりき。只例の稺童驅け出で、

「鴿さん、皆達者か。また餌を上げよう」

云ひすてゝ家に入りぬ。椽側にあらはれしは頑丈なる髯ある人なりき、雄鴿の驚きいかなりけむ、眼を睜りて戰きぬ。銃もち歩きし人に似たり射丸の主はかの人にあらざりしか、

知らず、かの乙女はいかにしたまひけむ、あはれ、この人、彼の君の兄ならばいかにせむ。

乾鮭

紅緑選

乾鮭を戸板の霜に並べけり　稲青

乾鮭の片身に年の暮れんとす　丁堂

痩脛の男乾鮭に似たる哉　同

乾鮭の口ゆかめけり榾の烟　同

乾鮭や簾禿びたる臺所　芒生

乾鮭を水に漬くれば生きもせん　同

乾鮭に腹も脊中もなかりけり　同

乾鮭の腹を見らるゝ寒さかな　同
禪寺の乾鮭それは魚板かな　牛歩
鹽斷や乾鮭くはぬ孌　同
乾鮭や主まうけのうとましく　摩天鶻
乾鮭や合點のゆかぬ置きところ　同
乾鮭や人目も草も枯るゝ頃　秋子
乾鮭や鼻たゝきけり玉霰　同
乾鮭に寒鴉枯木と題しけり　同
乾鮭をあぶりて兵書講すなり　柳家
乾鮭や漂母が宿の客は誰れ　同

人

乾鮭の林と申せ酒の池　稻青

地

乾鮭の涙も涕と氷りけり　芒生

天

新宅

乾鮭を吊さん釘の打ちどころ　牛歩

選者吟

乾鮭に呉子胥は首を刎ねつらん
乾鮭に佗びてこそ住め俳諧師
乾鮭の脊に鰲の足纖がん
乾鮭や小町が果てのあなめ〱
乾鮭を買ふて久しやむしり喰

課題　初午（二月十五日まで）
　　　壺燒（二月十五日まで）

新年五首

小森松風

四方の海しづかにあけて沖遠く
小島にのぼる初日おろがむ

○

軍艦にしめかざりして旅立てゝ
初日おろがむますらをのこら

○

釣舟に松かざりして繋ぎたる
あたりしづかによするさゞ波

○

初日影ゑがけるぬしは應擧とや
軸の表裝白茶金襴

○

門松に羽子の止まりておもしろき
歌の調子は今とだえたり

▼議會開院
開けたり桂枯るゝか藤ちるか
▼議院停會
木枯をしばし止めたか袖屏風
▼疑問幼兒
主や誰ぞごむ人形のおき土産
▼ラージ殺
小夜時雨汝に歸る煙草入
▼佛骨醜聲
捨賣りか十三万圓の釋迦の骨
▼寄席改築
お話はいつも古いとはねられて
▼歳旦文士
元旦やしたり顔なる小說家
初刷御覧候へや身共の、ヘンイや一寸なぐり書き

本號の口繪

博士邨井正五郎氏の所藏にして、英國にて有名なる繪畫なり、寫眞銅版にては原畫の如き色彩の妙を顯はすを得ざるを惜むと雖、朴實なる老爺が其孫と共に棒をあやつるの處、藹々たる和氣紙上に溢るゝの思ひ有り。

思潮

今の青年は談話術を知らず

「東京教育時報」　東京市教育會長　江原素六氏

さて唯今御咄し申さんとする言語とは雄辯學修辭學など申す立派のことでは有ませぬ、日常通例に用ゆる言語のことで有ます、先づ其言語につきまして北米の「ワシントン」の申されましたことに、爾の語を充分に發し、又た忙がしげに出す勿れ、秩序正して明白と語るべしといふことが有ます。

カ様のことは全く造作もなきことの樣で有ますが、實は頗る六數有ます今日の青年又は少年輩にして簡單にして能く了解し易く用談を陳ふるもの甚た少く僅かに入組みたる問題を陳ふるときは秩序もなく屢ゝ重復し前後して其要領を得ることが甚た難ひので有ます、殊とに「アノ」「ソノ」「エー」「即ち」など、無益の言葉が非常に多ひので有ります、若し秩序正しく音聲明かに簡潔にして要領を得るときは其人の品性を高貴ならしむるもので有ます。

殊とに社會は日を逐て復雑に赴きますれば口上にあれ、文書にあれ、辭

少くして意の明徹なるを要するので有ます、時として言語の功細によりて大に用務の成敗を左右することも有る位で有ます。

以上陳べましたことは專ら事務的に關することで有ますが、更に直接品性上につきましては「ワシントン」は謂く語る前に先づ考へよ、已れに用なき他人の事を論する勿れ、其席におらざる人の過失を譏れば大なる不義なりといふことが有ます。

先づ考へよとは眞に無限の意味か有ります、吾々は無勘辨なる言語を發して取返しのつかぬことが屢々あります、元來人は自負傲慢の弱點か有ますが、辛ふじて之を押へておりますが、時として言葉に現はれます、しかし幸に先方が大人なれば何の禍も有ませんが、若しも普通の人で有ますならば怨恨の種となるとか有ます。

此位の道德紊亂は當り前なり

「教育時論」　每日新聞社長　島田三郎氏

現時道德の紊亂に就ては世間には色々の議論をするものもあるが、抑も日本今日の道德といふものは、服從主義より、平等主義に遷りたる過渡時代であるから、此の位の紊亂は當り前のことである、從來の道德といふものは、實に服從主義であつて、只何でも號令に從へと強いたものである、君には忠を盡くし親には孝をなせといふのも、之を人々の良心に訴へて、道に從ふ責任上、其の盡くすべき本分を解せしめて、道德上の行爲を奬勵したものではなくて、只譯もなく彼是してはならん、斯うしなければならぬ、臣であるから君に忠を盡すべし、子であるから親に孝をなせよと、只號令的に其の行爲を支配したものであるから、人々道德上の行爲も、道に從ふ責任といふものを解して道德を重んじたものではなく、たゞ號令に從ふ責任を知つて居つたのみである、換言すれば良心の發達といふものが、甚だ幼稚であつて、良心の判斷に依つて道德上の行爲をなしたものではなかつたのである、しかるに今日の道德といふものは從來の服從主義か解けて、平等主義となり、人々自由に良心の判斷に依りて行爲すべきことゝなつた、即ち號令に從ふ責任を重んずるといふことよりも、道に從ふ責任といふものを重んじて行爲すべき時即ち平等主義の今日となつたところが、從來の服從主義に慣れて、たゞ號令に從ふことをのみ知つて居つて、其の良心の判斷に從ひ、道に從ふ責任といふことを解して居らぬ、即ち良心の發達が未熟であるので、急に服從主義の解けた今日、人々良心の判斷に從かひ、道に從ふ責任を解して、行爲することの出來ぬところから、此の紊亂を來したのであつて、是れは已むを得ないことである、一時紐の解けた場合、是れくらゐの紊亂は當然のことゝ思はねばならぬ、人々の良心が發達して來れば、自然道に從ふ責任も解し、各々爲すべく爲すべからざる行爲上の判斷もついて來て明に爲すべき義務責任といふものを解し、自ら道德上の判斷もついて來るがそれが出來るまでに良心が發達して居らぬ場合には、道德上多少の紊亂あるは、免るべからざる事情である。則ち今日世間で八ヶ間敷云ふところの、道德の紊亂なるものは、此免るべからざる過渡の時代に遭遇したものであつて、服從主義が滅して、新たに世人が平等主義に依り、自由に良心に訴へて行動する時が來るならば、自然に消滅して去り、新たなる秩序有る社會となるのであると思ふのである、（中略）故に人々良心の發達を計つて早く完全の域に達し今日の道德界を救ふのが第一である、徒らに當時の服從主義に引戻さんなどゝするは最も甚しい誤である。

日本の將來と國民の品位性格

「三田社交倶樂部にて演說の要點」

子爵 渡邊國武氏

人種の品位性格に大變に優等なるものと劣等なるものとある、一方社會に勢力を得て居るものと下流に在て勢力を得ざるものと二つ並べて比較して見ると眞に正比例てある、國と國とを比較して見ても例へば以太利てあれば以太利の政府伊太利の國民相當のことをなして居る、一歩も其れ以上に昇ることも降ることも出來ぬ、墺太利、獨逸、其他何處に行つても國民の氣風性格の事しかやつて居りませぬ、政治の善惡、法律の正邪、民の貧富、兵の强弱等皆な國民の品位性格の表現する所でそれだけのことより外に決して出來るものでない、私は國家の强弱盛衰は常に國民の品位性格といふことに歸すると思ふ、それ以上の政府も出來なければ、それ以下の政府も出來ぬ、それ以下の法律も出來なければそれ以上の法律も出來ない、如何なる國家學者がどのやうな政治論を吹込んでも國民のキャラクター以上の政治法律も出來なければそれ以下のものも出來ないといふことは明かなことゝ思ひます、吾々も種々考へましたが國家の安危盛衰の原因はどうしても國民の品位性格の上に注意を置かなければならぬ、あとの物は皆なそれの發現する所であるといふことになる、是に最も重きを置かなければならぬ、然らば如何にすれば國民の品位性格が高まるか、是は言ふまでもない教育である、教育といふとは詰り躰格と精神を發育するより外なく、躰格を發育するには澤山滋養を取つて十分運動して血液に化してしまふ、精神を教育するには善良なる書物を讀み善良なる教を聽いて同時に直ちに之を實行して行くといふことで、それが消化せられて初めて學者的にならずして社會の人となることが出來る是より外に國家を救ふ道は無いのである(慶應義塾學報)

郵便貯金割增制度の不可

「實業の日本」 日本銀行理事 森村市左衛門氏

抑も政府が郵便貯金に向て割增金を附加せんとするの目的は勤儉貯蓄の美風を養成せんとするにあるや論を俟たず、故に其の目的に向ては吾人亦滿腹の同情を致する者なり、然りと雖も貯蓄奬勵の方法手段にして割增金を附加せんとするに至ては吾人は未だ其可なるを見ず、蓋し主として左の缺點あるを以てなり。

(一)投機的精神を鼓吹する事

(二)政府の公德に戻る事

(三)貯蓄銀行に大打擊を與ふる事

とし其三點を說明し第二項に付て曰く政府が國民に對して施設すべきは極めて眞面目ならざるべからず、一時の權道に依りて民心を籠絡するが如きは謹し避くべきの事なり、郵便貯金に割增金を附するは則ち一の權道にして眞政府の則るべき正道に非ず、歐州諸國に在ても昔時此制度を採用したることありしが、割增金を得たる者は之を貯蓄したる例は少なく、概して衣食に濫費するを常とせり、惟ふに勞せずして得たる金は費し易く割增金を得るは則ち不時の收入なるを以て、之を無きものと思ふて濫費するは人情の免れざる所、古今東西免るべからざるの實況なり是れ豈に勤儉貯蓄を奬勵するの途ならんや、是を以て歐洲諸國に於ては其弊に鑑みて今や之を全廢せり、然るに我國が此過を繰返さんとするは迂愚の極と謂ふべし。

不生產的人物の製造所は中學校なり

「勞働世界」　衆議院議長　片岡健吉氏

地方の有志家、運動屋、コレは大抵中學校か卒業したなりて學問を止めたものが、都會へ出て何にか小さな學校の一つも卒業したが都會では成功出來ないので田舍へ歸つて居るもので、彼等は少々學問した惡しさ、父兄の業を繼ぎて農となり商となりて、田圃を耕したり、算盤を持つたりするを嫌ふて、たゞゴロ〳〵と遊び廻はりて第一には家產を傾け、次には小理屈を並べて村にありては村の平和を亂し、郡にありては郡の平和を亂し、縣にありては縣の平和を亂し、又代議士選擧の時などは種々の惡事を働きます。て地方の心ある者は彼等を蛇蝎の如く嫌ふて居ります、ドチも何等の理想もなく目的もなく、實に下等な慾望を達する爲めに不幸にして、彼等は口も立ち筆も立ちますから、口と筆とか債ふて種々な事をするのだからタマリません。私等も元は破壞者でありましたのだから、理想あり、高尚な目的あつての破壞者ならば、私等は決して攻擊しませぬ、反て助けます、而し理想も何んにもない、誠に下らぬ破壞者、今の田舍の有志家運動屋は、實に仕方がない、高知縣などでも既に中學校が五つ出來、他の縣にもドンドン中學校が增へて居ります、此等の中學校から出る青年の多數が今の田舍の有志家の樣な、全く不都合な全く不生產的な人物となりますかと思へば誠に心配に堪へられません、ドチか學校を起すならば、中學校などでなく、實用的學校、ソコを出さへすれば生產的人物になれる樣な學校を、ドシ〳〵起したいものであります。

上流家庭の模範

「實科教育」　記者

左は子爵加納久宜氏の實踐談にして實科教育記者に子爵の語りしところなり

私は子供を六人有つてをる、私はこの子女に對して、決して親の威光を以て壓制したり、無理由な言を申したり、虚言したりするようなことは努めて致さぬこと〻してをる、か〻ることに對しては、自分の子女なりと思はず、矢張同等の人であるといふことを忘れぬように注意致す、其故に子女も決して畏縮するようなことは有りませぬ、又多數の子女が有ると、或子供をば愛して、或ものをば愛せぬといふようは自然好惡を生ずるが親の通弊などで此場合に於て一視同仁にするといふことに、最も注意しなければならぬと心掛けてをる、それ故子供等も兄弟相互に、私と同樣の心掛を以て交際をして居ます、そして私が何か子供に働きを賴む場合には、六人中の子供の一人の名を呼んで命ずることは無く、單に子供と呼んで誰でも居合はせたものに命ずる樣にして居ます、又子供達の要する教育上の器具や、玩具や、其他の需用品は六人皆同樣にし、衣服も女は女丈けの差は有るが、品質などは皆一樣にする、其中には木綿の衣服も絹のものも有るは勿論である、食物も彼に與ふるものとこれに與ふるものと、差別の無いように必らず公平を保つ、次に世間では學校に子供を出すには、必ず美服を着せる甚だしきは滊車も二等もしくは一等に乘らするが、私は必ず三等と決め、衣服は筒袖の改良服を着せて學校に出すを規則とす。扨家庭教育を全ふするは私の夫婦、即はち父母として家庭教育の道理に當嵌まる行をして見せなければならぬ、それ故僕婢に對するにも相當の禮を以

てじ世間の如く叱り飛ばすようなことを致したことなし、何か心得違の有る時には丁寧に說き聞かせ其心中に反省して改むるようにして、決して小言をいふが如きことも無きを以て、子供達も亦僕婢を輕侮し、罵詈することとなし（記者曰く、現今子爵家に仕ふる人々は皆十年以上の勤續者にして忠實に働き居るなり）子供の日常の擧動をいへば學校より歸り來るとも、食事の外は菓子を與ふることなきも、夕食後にはそれに續けて、普通の菓子や水菓子の類を與ふることにし、食後には二三十分間隨意の休憩をなさしめ、それより庭園にて運動的唱歌を謡はしめ、毬投げ、鬼遊び「ポートレース」等を三四十分間致さす規則であります、土曜日には午後六時から六人の子供、三名の下婢及私夫妻と隣の子供の學友二三名にて、必らず一回宛演說を致すことに致して早一年以上實行して居ります、此演說會は饒舌の稽古をなさしめる爲めでなくて一人に對してより數人に對して、我か意中をいひ表はして其旨意が適當な言葉、適當な組立てであつたか否といふことを一人終る毎に品評し合ひ、後回再び其批點を繰返さしめぬように注意することをやつて居る、そして二名の男子には前述の「ボートレース」の他、毎晩食後一時間はサンダウ氏の鐵啞鈴て同氏の體操運動を課業としてやらせております、女の子には改良服を着せて、裾は極めて短かくし、靴をはかせてつとめて活潑に運動の出來るようにして有ります。

成功の秘訣に就て

「成功」　海軍少將　肝付兼行氏

嘗て余は彼の有名な桐野利秋に向つて戰爭の秘訣を問ふた事がある、其時彼の答に、戰爭に臨んで、敵に勝つ其秘訣は、双方決戰して、最早怺へきれぬといふ處で、能く怺へるのにある、此怺へられぬ處を怺へた者は、必ず敵を制して成功すると云ふたが、予は總ての事が亦然りと思ふものである、此語を世間万事の上に應用すれば、必ずそれに於ける成功の秘訣となるのである。

では軍人として成功するには何うすれば好いかと云ふに以上の外能く人を御して行く事が必要である、彼の神風黨に殺された種田氏が、初めて少將になつた時、何か心得にもなる事をとて、老西鄕に問ふたとがあつたが。其時西鄕の答には、先づ自分と共に死する者を千人拵へよとの事であつたさうだ、兎に角軍人には之が最も必要な事で、昔時秀吉には此の共に死するといふ士が五百人、家康には八百人あつた、といふ事である、軍人たる者は深く此邊の消息に通じねはならぬとと思ふ

事業を成すには又た意志の力が必要である、天才の必要なは云ふに及ばぬが、鞏固なる意志力は尙ほ以て必要である。意志の鞏固なる者は一生の間には、必ず何事をか成就する、彼の岩谷松平の如きも、何か取處はあらう、即ち意志の強い點は、彼れが今日の成功をした所以て、無一物て東京に出て、あれまでに仕上げたのは、偏に意志の力である、素より岩谷の如きは、其の品性が惡く、決して、人の手本とはならぬ、人物だが此意志の鞏固な點だけは、成功せんとするものゝ學ぶべき價があるも知れぬ。

澁澤の如き人は、品行も善く、凡ての事業に能く成功した方であるが、何うもあゝ云ふ人は、日本の實業界には、誠に稀な人である、又何事か成功しやうとすれば、常に社會に缺けて居る物を見る必要がある。即ち此缺けた處に乘じて、其處に新事業を建てる事が必要である、これ即ち成功の秘訣だ、今は政治家も、軍人も、文學者も必要であるに相違ないか、先づ今日の社會に、最も缺けて居て必要なのは、實業家である、現

今の實業界には、實に人物か寥々てある、他の方面にも固より人才がなくてはならぬが、餘りに人才が多く輩出すれば、却つて多過ぎる事となり、其結果喧嘩を始めるやうになる、而るに實業界は、如何に多く出ても、困らない、多く出れば出る程、益がある、余は操觚人であるが、斯る事は自ら常に感ずるのである。

如何にして浴場を改良すべきか

亀井重麿氏

「私立衛生會雑誌」

斯の如き我國の不潔なる湯中に沐浴するは身體を清淨ならしむるにあらずして寧ろ不潔ならしむるの傾向あり。其狀恰も下水を汲みて温めたるもの丶中に入ると恐らく大差なかるべし、斯る有様なるが故に諸種の病根之れより傳播すること敢て專門家を待たざるも能く想像し得らる丶なり、然れども之れ等入浴裝置を改良して完全に近づかしむるには先づ左の數項の困難に打勝たざるべからず。

一多くの資本を要すること
一現今の浴場より數倍廣き家屋を要すること
一多くの水及燃料を要すること
一湯銭を高からしむること
一入浴者の數を減ずること

之れ今日我國生活程度と習慣とに於て果して實行し得べきやは一の疑問に屬す、故に彼の歐米諸市に行はるゝ如く一個の浴槽にて一人づゝ沐浴せしむるの設置數十室を置きて浴客の更迭する毎に其槽を洗滌し新なる湯を注入して入浴せしむる如き完全なる方法は到底今日に望むべからざるも、漸次此方法に近づかしむる目的にて改良を加ふれば敢て前の各項目に大影響を蒙ることなくして寧ろ清淨爽快の趣味に馴致し自然競爭して益改善し、遂に彼岸に達すべきを信ず、之を以て余は先づ第一次の改良手段として警視廳及び府縣廳が其浴槽浴室の構造及湯の清淨なる度合に就て、相當制限を立てられんことを希望するものなり、制限とは何ぞや、即ち同一の湯中には幾十人以上入浴せしむべからず、其以上は之を排除して湯を新にし入浴せしむること浴槽の形狀大小物質構造及び浴室の構造、空氣抜、明り取り、汚水排除方、掃除方法等に就き或る條件を附し營業せしむるにあり、之れ决して出來得べからざる問題にもあらざるべし、斯の如くして次第に其進歩改善を關渉助長せしむれば、公衆衛生上裨益する處蓋し尠少ならざるべし。

社會教育者たる明治の三傑

松村介石氏

「警世」

社會教育者たる明治の三傑とは誰ぞ、曰く福澤諭吉、曰く板垣退助、曰く新島襄是れ也。福澤氏は歐米を視察し來りて惟へらく、歐米の富強は商工に礎す、若夫れ我國從來の如く、徒らに不生産的の武士を高座に仰いで目を送らば、開國の結果は、遂に殘滅に歸すべしと、於此乎率先して脱刀し、壯んに商工を奬勵し、武士を目して米蟲と呼び、其儕當時武士の據城たる勤王論を攻撃し、楠公の討死を指して、權助の首縊に同じと斷言せり。其の行為の言には服し難きも、能く國家の將來を慮りて、こゝに明治開明の基を開きたるところ感服の外なしと謂ふべし。次に板垣氏は又た惟へらく、我國も已に歐米の文明を學ばんとす、然則從來の如

き卑屈の民を率ひては共に邦家を經營するに足らず、宜しく之をして自由獨立の民たらしむべしと、於此乎、民權論を主張して、一時天下を振動せり、其の如何なる魂膽ありしにもせよ、彼れ自由黨の呼號が、當時如何に政治上の智識を我國民に與へ、我國民をして今日覺束ながらも、立憲政體の民たらしむる至りしかは、爭ふべからざる事實なりとす。然るに又た新島襄氏なるものあり、米國の宗教界に人と爲り、夙に歐米文物の根底を探り、惟へらく、人事は畢竟神魂より來る、若しも此神魂にして養ふところあらずんば、政治も商工も其他何事も健全なる發達を遂げ得ざるや疑ひなし、日本今や歐米を師とし將に開明を圖らんとす、然るに未だこゝに着目するものあらず、請ふ歸りて以て此方面に盡さん哉と於此乎、明治七年米國を發して京都に着し、こゝに同志社を建てゝ、精神的教育の旗幟を豎せり。

貯蓄に保險事業を兼ぬるの必要

「太陽」

代議士　井上角五郎氏

貯蓄を奨勵せんとせば、是非保險事業と兼ぬるを要す、其保險は勿論少額の保險にして、死亡保險、養老保險、殊に各國共に年金證書の賣出を盛んにせり。年金證書の賣出しは下層社會の爲めには最も必要なるものとす。

近頃獨逸に於て如何に保險を奨勵して居るやを取調べたるに、獨逸の保險は悉く官業にして、政府は一切之を監督せり。其保險は三種にして大要は、第一は疾病保險なり。是れは病氣のとき政府より其の病者に治療費を支出する法にして、又收入即ち賃錢を得る能はざるときは、其半額までは政府これを支拂ふの法なり。一ヶ年二千麻克以内の賃銀を受くるものは、其工業に從事すると商業に從事するとを問はず必ず此疾病保險に加入するを要す、官吏にても矢張特別の義務あり。是等の人が保險料として納付せし金高は、毎日賃銀の百分の一半又は百分の二にして、其三分の二は自身之を支拂ひ、三分の一は雇主之を支拂ふ、過日渡邊國武子が、獨逸に滯留せられたる時其宿屋の女中其支拂を怠りし爲めに役所へ召喚せられぬ。何事て喚出されたのかと尋ねたれば、全く疾病保險を怠りし爲めなりしと云ふを見れば、隨分嚴重にこれを實行し居る者の如し。第二は負傷保險なり。是は工業に從事する勞働者、即ち左官とか錠前屋とか鐵道職工とか一年に三千麻克以内の收入あるものは、皆な之れに加入せざるべからず、又た私立會社の役員監査役等と雖へも、危險の多き業に從事するものは、矢張同一にして其保險料は總て雇主より之れを支拂ふ者なり。而して一朝負傷したる場合に於て、例へば身體が役に立たぬときは相當の年金を下賜し、又た當人の死亡したるときは、葬式の費用を支拂ひ及び死亡者の遺族を救助し、其遺族にして死亡者の爲めに生活に困まる場合には遺族に對する年金證書を渡すを法とす。第三は勞働不能及び養老保險にして年老いたる場合、及び病氣とか或は負傷とか其他の事故にて、最早勞働し得ざる場合に、年々若干の年金を支拂ふ保險なり。此保險金は五級に分れ保險金の納高に依りて其年金にも多少相違あり。是は半額を勞働者より支拂ひ半額を雇主より支出し、十六歲以上の男女勞働者は、必ず是に加入するの義務あるものとす、此外一年二千麻克以内の收入ある海員、教師等も亦總て此種の保險に加入せざるべからず。



社會時觀

寥川

詭詐國民は斯の如くして自滅す

前月、吾社は左の如き一投書を受取れり、讀み去り衛生問題として社會問題として、當局者が決して閑却すべき問題ならざるを覺え左に其全文を載す。詭詐又詭前僞論又僞論、此の如きは實に亡國民の特性なり。

白土問題

房州鋸浦にて　上原生

中央公論記者足下　聞く與國の民に信義厚く亡國の民に詭詐多しと。我國民の現狀を顧慮ふもの、感慨果して如何ならん。

此頃、房州鋸ヶ浦に在るの余、風光明眉の此地、亦一大罪惡の泉源を存するに接し、憤慨默止する能はざるものあり。

下宿屋の石灰問題を以て世に警覺を與へし記者は必ず此々余の云はんとすることに就て等閑に附せざるべきを信ず、事は房州産として有名なる白土に關してなり、即ち齒磨粉として、搗粉として知られたる白土(房州砂)の、更らに、より恐る可く、より嘆ず可き、一大罪惡、一大奸策の材料として、使用せられつゝあること是れなり。乞ふ、其の罪惡、奸策の何ものなるかを見られよ。

先づ從來用ひ來りし房州砂の需用より說かん

(一)齒磨粉　としての需用、これ維新前より行はれしところ、害有りと雖左まで尤むべきことに非ずと信ず

(二)搗粉として精米屋に需用最も大なること　これ已に數年前より都下の新聞に依て其害毒を唱へられしところ、都下百万の士女は胃の腑に房州砂を日々嚥下しつゝあり、婦人は糠袋に房州砂を混じて其面

を荒らしつゝあり。

然れどもこれ人の已に知るところ今我輩の云はんとするところは房州砂近年の需用なり、其販路今や一歩を進めて其左の營業者に向て最も多し

(三)砂糖屋　鹽屋に供給莫大なること是なり

日用食料品たる吾人の口にする砂糖食鹽に、近來房州砂の混入無きもの殆んどこれ無しとは豈驚くべからずや、乞ふ試みに歳末贈物の重要品たる砂糖袋に就て之を檢せよ。

(四)重要輸出品たる生糸の取扱商に需用莫大なること是なり。

此微塵の如き白土を生糸に扇ぎ掛けて、其量目を掠むるなり、衛生問題に非ずと雖、誰か社會問題の一として之が非難を否むものぞ。

此等の奸策に供する爲に又其需用の餘り大なるが爲に今や會社組織を以て白土採堀をなし、日に幾百千俵を送り出しつゝあるなり。

彼の搗粉として用ゆる、既に社會の非難を免れざる所、况んや食鹽に混ずるに於てをや。况んや砂糖に加ふるに於てをや。是れを啻に衛生問題より考ふるも、豈に啻に『石灰の腐魚』に於ける比のみならんや。若夫れ生糸に扇ぎ掛けて、其量目を掠めんとするに至つては、啞然言の出づる所を知らざるなり。

以上の事實は、余の正しく、白土採堀所に於ける、會社員の率直なる口より耳にしたる所、當時此の言を聞き終りたる余は、唯惘然として去り、顧みて亦茫然たりき。

我商人の奸策斷じて免す可からず。政府當局者の惰慢、亦決してまぬがる可からず。獨り採堀者や、もと是れ多く咎む可からざるも、之れを社會問題の上より論ぜしめば、余は速にこれが採堀販賣の嚴禁を切望するものなり。何となれば、一日之れを觀過するは、一日罪惡害毒を多大ならしむるものなればなり。

さりながら、世間また説をなすものあらん、白土の販路、今や漸く廣く、其收額亦決して輕視す可きにあらず。掘るに罪なし、用ゆるに科あり。之れが採堀を禁止するは、其所置餘りに酷ならずやと。言聞く可きものなきにあらず、されども是れ、苟も社會の大問題なり。斯かる細末の私情を容るゝの餘地なし。之を例ふれば、塵の浮動を忌みて、室の掃除を怠らんとすると一半のみ。誰れか其愚を用ゐんや。

社會の改善、國病の救濟を以て任じつゝある記者足下、若し幸に貴誌割愛の榮を賜はり、之を社會一般に訴ふるを得ば、是れ豈に獨り余の幸とする所のみならんや。

兵士と傘

記者、去年末神田三崎町に於て彼の小石川の忠靈祠堂に納むると云ふ忠死軍人の遺骨を護送する一隊に出會ひたり、即ち川崎にては電車の車掌をナグリ飛ばし、東京にては佛國公使の馬車に狼藉を加へたる一隊なり。忠死軍人の親戚故舊が洋服、和服、禮服、無禮服、思ひ〳〵の打扮ちにて隨ひ行き、折しも雨の降り出でゝ尻端折りたるもの多きに先導者が奇妙なる服裝せる山伏なりければ、宛然百鬼晝行の觀ありき。

然れどもこれ我邦服裝の不統一より來るものゝ別に笑ふにも足らざれども、一言注意したきは多數軍服をつけたる者が（勿論歸休兵ならんも）悉く傘をさし居りたる事なり、吾人は其見苦しさに思はず顏をそむけたるの一人なりき、かゝる兵士を持てる國民が彼の煙管雨傘を携帶せる支那朝鮮の兵士を笑はんとするは抑も越權の沙汰なり。

而して更に奇妙に感じたるは、この一行が通り行く順路、二階より見物せるものを見れば叱咤勵聲巡査をして悉くこれを引き卸さしめたるの一事なり。忠死軍人の遺骨に相當の敬禮を拂ふべきは都民誰か之を知らざ然れども素是れ陛下の鹵簿に非ず、二階より見物したらん、りとて何の差支へある、形式の忠愛に拘泥するの病は實に我國民の膏盲に入れりと云ふべし。

大なる過渡

停會に次で解散あり、解散に次で總撰擧あるが如きは是れ尋常の行路のみ。

苟も非政黨より政黨に移り、非立憲より立憲に移らんとするが如き大なる過度期に當りて内閣又は民間にナボレオン三世ぐらゐの出でんも亦妙ならずや、非立憲が極度に進むことの速なるだけ、之に正比して立憲的にはねかへるとも速なるなり、クーデタ何の憂ふる所ぞ。

使用法を教へざる貯金の弊

二人の中學生徒、一人にはウルサク貯蓄を奬勵して、毎月十圓の小遣ひ、一厘にても多く貯蓄銀行に預くる

ことのみを心掛けしめ、一人には同じく十圓の小遣ひ、毎月必ずこれを散せしめ、一錢も殘さしめず、但し其費用は帳面に記して誰人にも示し得る樣にせしむ、此の如くして他日社會に出づるの後、前者は此習慣の爲に金を貯へ得、然れども宴會一つにも自分の懷をいためては出席せざる吝嗇漢となり、後者は好んで他人の急を救ひ公共活達の人となる。

これ多年育英の任に當りし人の實驗談なり、徒らに守錢奴となるべきを教えて其金錢の使用法を教へざる今の貯蓄論者は大に注意するところあるべし。

鴨を殺して今日も暮しつ

「九重の大宮人は暇あれや櫻かざしてけふも暮しつ」何ぞそれ優美なる、從年狩獵官の設置せらるゝや、宮内省に硬骨の聞え高かりし高見惑氏戲れて曰く、「九重の大宮人はいとまあれや鴨を殺して今日も暮しつ」と

長谷川泰氏の功罪

全國開業醫の多くは長谷川氏の門に出づ、氏の濟生學舍有るが爲めに我邦の醫界に貢献したるの功勞は實に多大なるものなり、國民は宜しく氏に向て感謝するところあるべきなり。

然れども東都學生の風紀が濟生學舍有るが爲めに腐敗の風潮を助長したるも亦事實なり、一刑事巡査記者に語りて曰く、芳原等に學生の情死其他學生に關する事故有る校名は問はずして分ると、蓋しこの大多數は同舍の學生たるを云ふなり、學校と其所在地の風俗、本號公論欄に揭出せる山川氏の一文は吾人の尤も注目すべきものたるを信ず、形骸の病に對し一世を濟ひたるの氏は更に精神の疾に對し其門下生を警誡するところ無くして可ならんや。

通信社なるものに誨ふ

備ふるあるを恃まずして事なきを恃まんとす、今の所謂通信社の通弊なり、迂に非ずして何ぞや。

此に一事の突如として生するあり、天下の耳目齊しく之に集まらんとす、此時に當りて從容迫らず悠然として報すべきを報じ警むべきを警め、以て天下をして其の向ふべき所を知らしむ、是れ實に通信社の任なり、今の通信社に至つては乃ち然らず、彼等は唯周章し狼狽し四馳し八奔す、其爲す所に順序なし、其のいふ所に秩序を見ず、其のから騒ぎに疲るゝとは其の職にあ

らざる世俗と毫も異なるあることなし。假にやゝ世間の高地位に在る者の死したることありとせよ、彼等は今更のやうに飛びまはりて假に其の家に就いて、其の死狀は如何其傳記は如何、生前傳ふべき逸事はなかりしか、葬送は何日何時何處にせらるゝか等の愚問を重ね來りて悲涙に暮れ居る遺族を苦しめ、忙劇日も足らざる故舊に迫る、一社去ると見れば又一社來り、問ふ所同じく答ふる所同じく人をして殆ど其の煩に困倒せしむ、若し夫れ多くの通信社が通信業の片手に廣告取次業を兼ぬる、人の不幸に際してうるさく通信の材料を求むる其の機に乘じて更に死去葬送の廣告を奪ひ行いて自ら利する所あらんとするが如きに至つては、迂は既に一歩を進めて殘に入れるものといはずんばあらず、嗚呼通信社に見こまれたる死者の遺族は禍なる哉。

以上の如き唯一個の事例に過ぎずと雖も、亦一般に於ける多少の消息を傳ふるものたらずんばあらず、吾人且彼等に訴へん、希くは平生に於て備ふる所あれ。

印形廢止の新風習を作れ

繁文褥禮國の記章として、日本には今猶檢印實印なるものあり、かゝる世界的ならぬ野蠻時代の殘物は、一日も早く廢したきものなり。かゝる形式的にして其手數のみかゝる面倒物は、何の必要有て保存するかと云ふに、只習慣と云ふの外何等の意義無し。これ有るが爲めに商業上の進歩を害すること、事務の敏活を妨ぐること、果して幾許ぞ。僞印、盜印、紛出、印鑑發明、繁雜の人事を加ふること果して幾許ぞ。是非共歐米の如く自記の署名に止め其不便を一掃せんことを望む。

▲十把一束

▲我國の湯屋に就て　日に慣れて居る爲め、別に何とも思はざるも、實際公平に考へて其不潔其不躰裁我國の湯屋の如きものはあらざるべし、朝鮮の學生すら、支那の學生すら、印度の學生すら、最も同化し難きものは此混浴の習慣なりと云ひ居るを以て知るべし、浴場に關する一種の取締りは最も緊要の事たるべし。

▲差紙を廢せよ　區役所風情にして何日何時出頭すべしと區內の公民に差紙を送るは無禮極まる惡風なり、大概の事は區役所より出張するか、書面にて濟む樣にし能く／＼の大事件に非れば呼び立つるとなからしむべし、况んや其事件と云へばイツモ屁の如き些細の事なるに於ておや。

▲ホテルの不足　端西の小國すら外人の爲めに設けたるホテル全國一万七千有り、同じく世界の公園と目さるゝ我國には僅に指を屈し得るに過ぎず、漫遊の外客皆日本に來て錢の捨て樣無きに困却す、完全なる

▲ホテルの不足は觀光者に不快を與ふるの第一たり。

▲世界一の惡通辯國　ホテル其他の案內者通辯が不親切なること、コンミッションを貪ること、我國の如き甚しきところ無しとはこれ又漫遊外客の一齊に道ふところ、觀光者に不快を與ふるの第二なり。

▲幼者禁煙令　昨年一月より五月まで都下喫煙の爲めに處罰されたるもの十五人、器具の沒收百九十三、說諭三百二十七人有り未丁年者の喫煙は最も醜業者に多し。

▲牛馬虐待取締　昨年五月より七月十日までに、東京にて警察の牛馬車荷車に向て注意し又は說諭したるもの七千七百九十八件、處罰二百五人有り、動物虐待防止會設立の影響。

▲懸賞福引流行　新年に懸賞無き新聞は殆んど無く、商家の福引又大流行す、これ果して何の兆ぞ、二六新聞には諸々の懸賞に審査官として理學博士一人法學博士二人さへあり。

教育時觀

女子教育の缺陷

米峰

事が盛になると弊害が起る誠に娑婆の事といふものは、始末におへないものである。

女子教育、どうも非常な勢で繁昌して來て、忽ちの間に大學まで出來てしまつたのは、マア頗る結構なことである。しかし、この急激長足の進歩の跡には、必ず弊害もあるし缺陷もある。若しこの弊害を矯め、この缺陷を補はないと、折角熟した果實の、中から腐れて來て、何の役にもたゝなくならうも知れない。

近時世間の大問題であるところの、女學生墮落云々の事、これはそンなにあわてるには及ばなからうと思ふが、たゞ女子に何等の同情があるでもなければ、女子教育に何等の意見や經驗があるでもないところの、謂はゆる教育ゴロの連中が、この盛んなる機運に乘じて、怪しげなる學校を設立し、漫然女學生を集めて、月謝て己の懐を肥さうといふやうなもの〻多くなつて來たのは、こりやアうつちやッては置けないことであらうと思ふ。或は無いには勝るといふ人があるかも知れないが、夫の男學生の自墮落ものが、神田邊の埒もない私立學校、……學校とはいへない位の……から出るやうに、墮落せる女學生は、必ずかういふ教育ゴロの手に成ッた、學校から出るのであらう。寧ろ無い方が方がよいではあるまいか。

それから、高等の學校も結構だし、女の大學も惡くはないが、吾等は現代の社會で最も多數であるところの、謂はゆる中流の家庭の主婦を養成するといふ點から見て、どうしても今の高等女學校では、滿足が出來ない

のである。と言ッて又、女子大學では高過ぎるし、高等學校では低く過ぎて、共に感心されないことは勿論である。或は男子が大學を卒業して學士になるから、女子も大學を卒業して學士になるのに何の不都合があるか、男子が博士になるのに、女子が博士になつて悪いといふ理窟はどこにあるか、などゝいふやうに切り込ンで來られては、何とも御挨拶の致しやうに困るが、凡そ何事でも、輕重と緩急とを見計ッてやらなければならぬだらうと思ふ、今の社會の要求して居るところは、女の學士よりも女の博士よりも、寧ろ日常有用なる、……殊に中流の家庭の主婦として、切廻はしてゆける程の女子である。ところが、今の高等女學校や、その他の女學校といふものは、果して能く、この要求に應じ得る教育をなしつゝあるであらうか。

吾我の見るところでは、中流の家庭の主婦としては、机に凭れて三十一文字に首をひねる海老茶式部氣質よりも、寧ろその暇で、夫の足袋の穴でもかゞッて置く程の、女房料管を要とするのである。オムレッやフライの調理や饒舌を弄する程のものよりは、寧ろ大根や茄子の煮方に心を用ゐる程のものを要するのである。慈善音樂會に晴れの衣裳を競はうとする程氣の利いた女よりは、寧ろ新聞の記事に同情して、貯金の一部を割いて義捐しやうといふ程眞面目な女を求めるのである、かういふ立場から見た日には、今の高等女學校は、殆どその三分の一は、無用の事に力を盡して居るのであると言ッても差支はない。

吾等のかういふことをいふのは、決して今の高等女學校に反對して、折角萌芽を發した女子教育を、蹂躙しやうといふのではない。たゞ一時の急激長足の進歩に伴ッて來たところの弊害を除き、一はその缺陷を補つて、女子教育といふものを、圓滿に發達させたいと思ふからのことである。

社會の教育

社會の教育といふことには、兩様の意味がある。一は、社會といふものを個人と同じやうに見て、それ全體に向つて教育を施すといふことゝ、一は、各個人が家庭や學校の教育の外に、社會といふものから受けるところの感化影響、即ち個人が社會から受けるところの教育といふ意味である。

まづ六ケしい學問上の詮索は姑くこれをヌキにして、この社會といふものを、一つの個體と見てこれに教育

を施すといふこと、即ち謂はゆる社會教育といふことは、可能なるものであらうか、またそれとも不可能なものであらうか、社會を一個の生物と見る學者もある位で少くとも社會には、個人の精神と異ッたところの一種の精神、――社會精神とか社會心意とかいふものゝ存在するといふことは、識者の多くが承認するところであるのを以て考へて見ると　この精神この心意に對して、教育が施されないといふ理由がないやうに思はれる。既に社會を一個躰として、教育することが出來るとすれば、個人の智愚賢不肖が、主として教育の有無良否に關するものなるが如くに、社會の清濁美醜もまた、主として教育の有無良否によるものであると言ふことが出來るであらう。

個人が縦令家庭や學校で、どれほど完全な教育を受けたにしたところで、若しその立つところの社會が、醜陋溷濁であッた日には、立地にその惡影響惡感化のために、百日の說法何やら一つとなつて仕舞ふてあらう、であるから、一面に於て個人を教育し、個人教育の完成を告げしめるところの社會、その社會を十分に教育するといふことは最も必要なことであらうと思ふ。

吾々個人の上で考へて見るとすぐわかることであるが、教育を受けると智識が進歩する、道德に對する觀念が高尙になる、善惡の判斷が明快になる、これと反對て、夫の善を爲して善と思はず　惡を行ッて惡と知らないといふやうなのは、即ち教育のない野蠻な人間の沙汰である。それと同じやうに　醜陋溷濁な社會は、即ち教育のない野蠻な社會と言はねばならぬ。ところがこゝにかういふ事實がある、それは、社會の上流に位して、天下の政道にたづさはる政治家とか、人生に慰安を與へるといふ天職ある宗教家とか、個人を教育して立派な人間に仕立てるといふ大任ある教育家とかいふ、最も優れた教育を受けた人達の間に、却つて惡いことをするものが多いといふ事なのである。これは一躰どういふ譯であらうか。……こゝだ、即ちこゝである、これといふのも畢竟、腐敗し墮落した社會精神の反射　外ならないのである。折角家庭や學校で、高等な教育を受けながら、社會の腐敗墮落に處する用意もなく、又外界の誘惑に打ち勝つ程の强大なる意志もなく、たゞノホンのホンで、ニューと足踏み込んだが、さて深いは〳〵、なか〳〵以て浮ばれない、結句泥まみれになッて、これもまた人生の一面か、など、妙にナマ悟ッて、遂に鮑魚の臭を沈香の匂ほどに有難

がり、今度は還相回向と出かけて、ます／＼腐敗の度を高めるやうになッたのである。若しこの社會に、多少の敎育が施されて居て、一通り善悪の判斷にもまごつかないといふ程になつて居たならば、縦令家庭や學校の敎育が濟ンだものに向つて、それ以上の敎育を施すことが出來ないにしても、少くとも家庭や學校と並び立つて、個人を腐敗の淵に赴かしめない位のことは、出來るのであらうと信ずるのである。

賄賂を贈つて己の非望を遂げやうとする實業家があれば、これを受けて法を枉げる裁判官がある、大法螺を吹いて正直な印度人を胡麻化し、大金を貪ッて來た紳士があれば、下役の妻を姦した上長官がある、待合に入り浸ッて淫樂せずンば政治家にあらず、教科書肆と結託して懐を肥すことを知らずンば敎育家にあらず、釋迦の骨を擔ぎ廻はッて醜態百出せずンば佛敎家にあらず、新聞といふ利器を提げて人を脅迫せずンば新聞記者にあらず、ア、腐ッたるかな、今の社會！これを敎育しこれを善導して、少し社會らしき社會とするは、抑も誰の責任であらう。政治家も駄目、宗敎家も駄目、敎育家も駄目、新聞記者も駄目、ア、駄目々々。悉く皆駄目である。

若し社會の腐敗を洗滌するの必要がないといへばそれまでゝある、社會の墮落は救濟するの道がないといへばそれまでゝある、社會を敎育するといふことが到底不可能の事であるといふなら、これまた已むを得ない次第である。しかし、苟もさうでない以上は、誰か起つてこの大任に當らなければならないではないか。吾と思はむ人達の、手に唾して奮然蹶起すべき時ではあるまいか。要するに、社會を敎育することは必要である、その可能不可能は、たゞこの任に當るの人を得ると得ざるとにあるのである。

俗間の地理學

いろは生

▲中等學校の地理の敎員は其高下を論せず凡て平均の人物よりも地理に明かなる筈なり、然して其明るきは多く書物の上にて學問せし者なるが如し況や、彼等以外の俗人にはジァバ島をイスパニア領と心得、シベリアをヨーロッパより小しと思ふ者あるは驚くべからず。

▲參謀本部の二万分一の圖を見て此地圖には一面曲線のみ多くして文字讀み難しと歎きたる局長あり、彼

は土地の凹凸を委しく題すべき波狀線なる者を知らざる人といふべし。

▲或人夏日南洋に赴く、某教育先生之を聞きて夏日熱帶に行かば一層暴かるべしと、彼は熱帶に夏冬無きを知らざりし。

▲或教員磁石を見て方角の讀み方を尋ねられ、忽ち行き詰る、此人平日の旅行に地圖を用ふれども磁石を用ひず。

▲某新聞紙にドイツの大醫バーチョー逝くと記せり是れ即ちVirchowにして之を勝手に發音せし者なり。

▲或人余に告げて曰く東京の新聞社すら充分なる地圖を備へ置かずと、是れは七八年前の事なり、今は如何にや。

▲先頃鳥島破裂して新聞紙に驚くべき粗圖を出し、嘗て南アフリカの戰始りて亦た粗大なる地圖を紙上に掲ぐ、之を見て新聞を擯斥せざる限りは家庭に地圖無き人多しと曰けん。

▲余或時嚴冬に河を渉り、同行の人をも河中に入らしめたり、彼等は地理地質の探求を爲す人なり、然るに其驚き名狀すべからず、又た春日の休暇に參拾名程の人（大抵教員）を率ひて箱根に地質の説明を爲せり、前なる一列岩石に踏みて、雨中に傘を用ひし爲め後列の視察を妨ぐ、余即ち命じて曰く「傘をさしては成らぬ」、彼等少しく驚く、彼等一滴の血氣有るべきなり。

▲嗚呼地理學尚は我國の物に非ず、中等學校の教員も多くは古書ノ受け賣り、新聞紙も外國語に暗く、外國人名外國地名の扱ひを善く知らず、家庭に地圖少なく、局長等にも地圖の見方を知らぬ人あり、甚しき家には地理學を以て世界國づくしの暗誦科と爲す人あり。

▲文部省教員檢定試驗に於ける脩身科の受驗者には修身を旨として試驗にも「修身」する者多しと聞く蓋し外見は修身するは易し。

▲同じく地理科の受驗者に地理ブル者甚少く、實地の經驗ブル人稀なり、支那風の學問は文章第一にして、何學を修むるも多くは文章として見るの嫌ひあり、我國俗間の地理學も亦たイギリス語の練習なりと爲す人あり。

▲哀しい哉我國尚は地理學の創造期に屬す、善く地圖を作る人は村役場などにありて、中等學校教官に少し。

●くさぐ

▼新聞記者　誇つて曰はく「新聞記者は、少くとも社會より、一日づゝは進歩して居る。なぜッて君、明日の新聞を今日作り、今日のことを昨日と言つて居るのだもの。」と。僕直に誇り返し　曰はく「雜誌記者は、少くとも社會よりは一ヶ月づゝは進歩して居る。なぜッて君、來月の雜誌を今月作り、今月のことを先月と書くのだもの」と。

▼今の世は　紫式部なくして、海老茶式部あるの世なり。清少納言なくして、濁少納言あるは、また已むを得ざるなり。とはどうだい。

▼金港堂は　昨年から、博文館の敵として起ッたのだが、近來例の賄賂一件が暴露されてから、端なく同業者の怒を買ひ、組合外へほり出されやうとしたところが、博文館主大橋新太郎氏、その調停の任に當り、金港堂のために大に骨を折ッたさうだ。衆議院議員として歳費を辭したより更に一段と美しい。

▼帝國圖書　出版會社といふ教科書トラストは、段々大きくなッて、小教科書屋を併呑するさうだが、それはマアそれとして、さて謂はゆる教科書屋なるものゝ醜陋にも、呆れざるを得ない。名村事件が落着したかと思ふと、又候大疑獄が起ッて來た。今の商人の頭へ、正しい手段で正當にもうけるといふ、ことを沁み込ませるのは、ア、又難いかなである。

▼漢文廢止　の建議が、山川健次郎等の諸氏から、第七高等教育會議に提出されて可決された。さうなくてはならぬことである。

▼誰やらが　「歌を讀む女房などは持たぬもの亭主を尻に敷島の道」と云つたが、女子教育の鼓吹者を以て任ずる人物も今の高等女學校出身の中から妻君を撰り出せと云ふと、皆ンナがしり込みするから可笑しい。

文藝時觀

明治文壇の今後

春湖

●歳序改りぬ、文壇また一歳の春に入れり。文學者の事業は悠久なり、不滅なり、歳序の推移するが如き、文學者の事業より見て、もと何等の關はる所なし、されど、明治文學の地盤やうやく成りて理想的建設期に近くに　歩を進めたるも　として、われ等は三拾六年の新春を祝福せざる能はず。

●歴史の事例に見るに、一時代文明の建設は概ね四十年乃至六十年を費すを常とす。明治の文明は根本より國家組織を更新したるが故に、これが建設に要するの時期も随つて長からざるを得ずといへども、元祿文明の近松、光琳が元和偃武以後、四拾年にして大に現はれ、藤原文明の紫女、信實か桓武遷都後、六拾年にして盛を極めたるを以て見れば、現代文明の最盛時も、また敢て今年以後三四十年を待つを要せざらんか。代表的藝術の出現を見る、恐らくは明治六七拾年の交か。

◉青年を呼ぶの時は、その時代の前途希望を有するの時なり。過去を顧みて物故人豪の生時を追想するに至つて、その時代すでに老ゆるを知る。明治の初め、青年を呼ぶの聲甚だ高く、近時に及んで少しく減じたりといへども、尚ほ我が精神界、就中文藝界に於ては依然として絶えず。これ文藝界の前途希望多きか徴也。かの二十二三年もしくは三拾年前後の文壇を追想して、今日の衰微を説くは、その人すでに時代を觀るの明を失へるを見る。

◉所謂大家先生の屏息を説いて文壇の前途を悲觀するものあり。大家先生何者ぞ　彼等は譬へば鹵湖に先だつの前驅者のみ。警蹕の聲聞えてしかる後はじめて大將軍の出馬あるにあらずや。過去の史事實に見るに、大人豪出づるの前には必ず幾多の小人豪あり。今の大家先生は、即ち大文豪の前の小文豪のみ　小文豪の屏息、何ぞ敢　文壇の前途に累せんや。今の大家先生の屏息を説いて文壇の前途を悲觀するは、先驅者の過ぐるを見て大將軍すでに去れりの歎をなすもの、畢竟愚者の見のみ。

◉今の文壇、二三氏を除きて眞箇に文を觀るの明を有するものなし。近時藤村氏の『わら草履』の如き、大に賞揚するに足る作にして、しかも、進んでこれを揚げたるものなし。藤村氏の能を嫉んで揚ぐるに吝かなるがためか、もしくは左右を顧みて踏躇逡巡するが故か。何ぞ雷同唱和の徒、多くして正當の批判を加ふるものの少なきや。

◉近刊の『日本美術』を見て、余に塩田力藏氏が師岡倉氏を想ふの情甚だ深きを感じたり。塩田氏の篤學は豫て耳にする所なるも、今、『日本美術』を讀んで敬慕の念さらに加はれるを覺ゆ。岡倉氏に對して塩田氏と感を同ふするもの、世、恐らくば余一人のみにあらず。「不是三更長鋏脱　半痕凍月在天心」岡倉氏の漫然看過し玉はざらんを祈る。

『明星』の平木白星氏に答ふ

朗讀の意義まさに諒せり。韻文もし必ず朗吟せざるべからざるものとせば、抒事詩の一部及び戯曲の全部は、いかさまにかこれを朗吟すべきと。いしくも衝かれたりな。抒事詩の一部及び戯曲の全部をもて韻文の中に包容したらんには　げに、この反問起るもことはりなりといへど、余は、余の所謂韻文といふものゝ中には抒事詩は兎も角、戯曲は除き

て加へず、たゞ律呂的なるものをのみ採りて收めたり。普通詩をいふ場合に於ては、抒情詩、抒事詩及び戯曲を以て體を得たりとなせども、余は韻文に於く、この解に從はざりき。詩即韻文にあらざるは、足下も既に識りたまふ所ならん。

總ての長詩形は悉く器を應用せざるべからざるにあらずとや。まことに然り。余といへども絶對に器を應用せざるべからずといふにあらず、さきに、器の用を説くに甚だ力めたるがために、文辭誤つて足下をこゝに至らしめしやを計られざれど、余の眞意は決して絶對論にあらず。西樂に於てオペラにレシタチーブス、コーラスあり、頌歌にアンセエム、オラトリオ等の誦曲あるは、余に於てもまたこれを知れり。何ぞひとり我國の韻文朗讀會に對して、この異例なる絶對説を立てんや。

足下は、疑日の韻文朗讀會に就いて、辨明甚だ勉められたり。しかれども、余は足下の言を聽いて、器を閑却したるを憾むの情は、ます〳〵多きを加へぬ。余が、さきに提供したる三種の疑義は未だ完からざりしといへども、これに對して足下の勞を執られたる辨明もまた聊か盡さざる所あるに似たり。余は三種以外さらに提起すべき新疑義を有す。されど、足下のいふ所を以てすれば、韻文朗讀會は器を疎外したるにあらず、第一回の公演に於ては「曲譜を製する間がなく」して用ふる能はざりしといへど、「會用として」新樂器をまでも製せんとの計畫を抱ける會員ありと聞く。こゝに至つて、器の用を説きたる余の趣意、既に遂げられたるものにして、重ねて言を立つるの要あるを見ず。こゝに於て、この趣意に關する足下と余との交渉は、こゝに一旦局を結び、この交渉に於て解かれざりし疑義は宿題として保存すると共に新疑義をも併せて提起し、來日を待つて足下の示教を仰がんと欲す。

▲文壇屠蘇危言

昨日の鬼

▲恭しく新年の御慶申し上げる、と、大聲に呼ばつて出て行つた跡へ、落ち散つた一葉の名刺、文學者何の某と苗字丈けは判つたが、名前は親が附けてくれたと遊つた匿し名、はて誰方であらう、と、首をひねつて脇を見ると、これ見よがしと被いてある『小天地』の「全國文士一覽表」、六號活字の隅の方へ御丁寧に朱まで引いて、一廉の文學者氣取は、正月丈けに、イヨお目出度い〳〵。

▲お互い原稿が賣れて目出度いな、先づお祝ひの屠蘇を。いや、僕は此儘失敬と致さう。まあ、いゝでないか、何處へか行くのか。何さ、ちよいと芝の方まで。僕もあの近所迄行くから、一所に行かう。いや、僕

は芝まで行かぬ。僕も芝まで行かぬ。僕は芝よりズツと手前だ。僕も芝よりズツと手前だ。僕は直ぐそこの日本橋までだ。僕も本町までだ。やツ、それでは、君も矢張厄文館と紫錭堂へ行くのだな。

▲關取、喜んでくれ、俺も今年から番付に載るやうになつた。それは、えらう日出度うごんす。したが、場所は何處の所でごんすかい。此處へあるのが見えないかれ、關取は眼が惡くなつたと見えるな。眼は惡ふごんせんが俺の方て云ふと貧乏神だて。こう、何をいふ、失敬な、貧乏神てはない文士だぞ。そんなら屁の神てごんすわい。

▲各雜誌の時文は廢止せよと。廢止するとせぬとは、雜誌の方の勝手だが、先づさう云はれる「帝國文學」の方から廢止なされては如何。あんな詰らぬ時文は是非さう願ひたいものだテ。

▲「傍點を附したるは、世評宜しかりし作なり」。鐵幹曰く、「魔詩人」が、あれて世評宜しかりしとは怪しからぬ、しかし、『あらひ髮』のやうなものが、矢張その「世評宜しかりし」傍點を附してあるのを見ると、俺も訴訟狀を書かなくても可いかな。

▲三宅骨軒曰く、誰ても猫を惡口致しやすから、世間に其眼者といふものは居ないと思つて居たら、これ御覽なさい、文學雜誌編輯記者の順序ては、猫を大町桂月や、與謝野鐵幹などの上に置いてがすぜ。此『小天地』といふ雜誌などは、東京のよりも、眼は中々利いて居りやす。フン、賴もしいもんてけすな。

▲オ一二、オ一二、それ精々藥館の廣告は…………、青年會館の門番、首をひねつて、あいつ、何時の間にか韻文朗讀をやつて居やがる。

▲川上の文士優遇、「オセロ」の翻案作者打見水蔭への報酬金大枚一千圓。やれ〳〵俺の倅も狂言作者に仕立てるのであつたものを。

▲批評家は文學者にあらず、だが、俺だけは肩書附きの文學者だぞ、もつと煽はれ〳〵、こら〳〵、何故煽り立てない。

▲文壇の風評見本――(一)あの男は强姦でもやりさうに見える、(二)あの男は强姦をやつたといふ噂がある、(三)あの男は强姦をやつたさうだ、(四)あの男は强姦をやつた、(五)あの男は强姦をやつたに相違ない、(六)僕が確に見た(或は保證する)。

▲「三宅克巳の證揚者いまに至つて漸く出づ、日本鑑賞家の鈍眼驚くに堪えたり」。三宅克巳の證揚すべきなさへ知らぬ者あり、日本鑑賞家の愚蒙慨くに堪えたり。「美妙齊の同情者いまに至つて漸く出づ、日本批評家のノロマ驚くに堪えたり」。美妙齊の同情さへ寄せぬものあり、日本批評家の姑根性驚るに堪えたり。

宗教時觀

雀嶺

外人の見たる日本佛教青年會

夫の万國靑年會のモット氏は米國に歸りて日本基督教靑年會の基礎益々强固にして進步の着々たるを報告したるが、一方に於て「アウトルック」雜誌は第三高等學校敎師グードリッチ氏の通信により、日本佛敎靑年會の之れと相拮抗しつゝあることを記載せり、而して其所載は主として事實の報道に止まるも、左に其大要を摘記せん。

今より凡そ十七八年以前數人の佛教傳道師幷に敎師相謀りて當時既に漸く勢力を得つゝありし日本基督敎青年會に倣ひ、日本佛敎青年會なるものを組織せり、而して其動機は本願寺派の或有力なる僧官に出でたるものゝ如く、蓋し本願寺は日本に於ける佛敎各派中最富裕且最勢力あり、其法主は皇室の支族にして高貴の貴族なり、東西兩本願寺の末寺全國に普く、其歸依者中には最も有力なる知名の政治家、官吏幷に富豪多し、元來此青年會なるものは當初敢て基督敎と戰はんがために起れるものにあらざるも、十年前にプロフェッサー井上氏當時の青年殊に基督敎信者に愛國心の消盡せるを慨し、佛敎信者の愛國心に訴へ大に其活動を鼓吹したるの結果俄に勢力を加ふるに至れりと云々

次ぎに京都に於ける青年會のことを記し、第三高等學校な生中基督教青年會に屬するものは四十五人にして佛教青年會に屬するものは百三十人なりとし其合宿所内部の詳細を報じ、祭壇に一の佛像を安置し、毎日拜禮を行ひ、僧侶又は敎師之れを司ること、彼等の交際は頗るシンシアルにして基督信者をも歡迎すること、土曜日及び大祭日の夕刻大集會を開き禮拜を行ふこと、會員相互不品行の戒及び國家に冷淡なるを嚴責して躬行を力むることゝ及び佛敎の敎理に依て他の未信者に勸誘を力むることゝ等を記し、土曜日の禮拜は從來其例なきを見れば、之れ基督敎に倣ひたるものにして、遠からず日曜禮拜をも初むるに至らんと云ひ、更に輓近に至り圖書閲覧室幷にテニス、コートも設けられ、會員外のものにも入場を許しつゝあるなど、万事凡て共同的にて此點は何人と云へとも尊敬の念を起さゞるを得ずと云へり。

此の如く紹介せられたるもの、全く京都第三高等學校佛敎青年會諸氏實際の活動に依るなるべし、之に比すれば東京に於ける高等學校大學等の青年會は全く眠れる狀態にありと云ふべし。

會館設立の計畫

萬國佛教青年聯合會に於ては、完全なる一個の會館を東京の中心に置き、内國教徒の便は素より、海外同教徒來遊の便を計らんとて其設計に着手せりと云へり。東都に於ける會館問題は二十年來の宿題にして、幾度か之を計畫し幾度か之を中止したる事業なり、其中止したるものは全く事業の中心に立つ人無かりしに依

る、今や萬國青年聯合會其中心となり、會長島地黙雷師自ら經營に任ぜんと云へり、今回は吾人必ず其結果有るべきを信じて疑はず、東都に於て佛教青年の新運動之より大に振はん歟。

亞細亞宗教大會

吾人は曾て日本に於て東洋宗教博物館の設立を首唱したり、吾人は又曾て亞細亞列國宗教者の會合を我國に開かんことを主張したり。

幸ひにして織田岡倉諸氏の去年亞細亞宗教會の開設を計畫せるあり、吾人竊かに多大の希望を囑し其開設の日來らんことを待てり。

然るに何等ナサケ無き結果ぞ、印度に於ても、日本に於ても、其目的の善きに拘はらず、手段の陋なりしより、徒らに人騷がせにして了はらんとす。

吾人又多くを言はす、唯岡倉織田二氏の名譽の爲めに、印度一億人民への申譯の爲めに、我國民としての体面を保つか爲めに、よし小規摸にても是非これが開設を見るに至らんことを、切に二氏に向て之を希ふものなり。

癩病院と宣教師

慈善事業の實行者として吾人國民は十万の佛教僧侶に向て大々の非難を與ふべきと共に、基督教宣教師に向ては心からの感謝を表して可なり、前月の六合雜誌は、坂井義三郎氏に依て我國癩病院の現狀を紹介し、有名なる函根の神山復生病院を詳記せり、中に曰く

醫療を專らとするものゝ外、全く慈善の目的を以て建てられたる癩病院は現在我國に四つある。(一)駿河の神山復生病院、(二)東京目黑の慰廢園、(三)肥後熊本の回春病院、(四)熊本琵琶崎村の癩病院、即ち是である、然るが此四つとも皆な外國宣教師の設立に係るものであることは、日本人の大に面目を失する次第である。

と、此我邦癩病院の嚆矢たる神山復生病院の創業維持等に就ては曰く

此院の創立されたのは、明治二十二年五月で、最初の創立者は佛國の天主教宣教師テストビー氏である、初め氏が此地方に布教して居た際に、信者の一人が癩病に罹つたところが、離隔したる小屋に押込められて殘刻なる處遇を受けたのを見て深く感じて、全く惻隱の情より本院を創設したが、資金なくして始めたものだから、維持の困難なる爲めに非常に苦心

をして、遂に病を發して歿した。次にゲヂン氏が來つてテストビー氏の美はしい遺志を繼いだが、是亦た維持の苦心の爲めに病を得て、今は香港に療養中である。其次の宣敎師ビグルース氏も亦た同しく病を發して歸國した。現今の院主ベルトラン氏は四代目として九年前に來朝して此難局に當り、苦心經營を盡くして、現今の盛況に立ち至つた。幾人かの慈悲深き宣敎師等の心血を濺かれたる此慈善的大事業は洵に尊敬すへき者と云はねばならぬ。

その維持の方法は專ら內外慈善家の寄付に依るのであるが、今ま創立以來の寄付金年額を擧ぐれば

明治廿二年	二二〇〇圓
仝　廿五年	四三〇〇圓
仝　三十年	四八七〇〇圓
仝三十四年	六五三〇圓

此內本邦人の寄付は極めて少額で、年壹千圓に充たないそうで、主もに外國慈善家の寄付に係るのだそうである。異邦の人の爲めに慈腸を絞ぼり俠骨を立つる外人の博愛を感ずると共に、不憫なる同胞の爲に我國の金滿家等の猛省を促さざるを得ない。一ケ月の經費は凡そ平均四五百圓を要するそうである。

收容人數は昨年末の調べに依れば男五十七人女二十六人である。是等は全然全院の給與に浴して居るのである。患者一人に對する一日の食費は拾四錢で、一人一日の藥價九錢の割合だそうである。

何ぞそれ其事業の高尙なる、我國は世界に於て最も癩病多き國と稱し、今や醫學社會其他に於て其救治法を講じつゝあるの時なり、徒らに佛骨に騷ぐ宗敎家は顧みて慚死するところ無きや。

▲一月だより

△本願寺と新平民　本派本願寺にては前月門末へ一諭達を出だし、新平民抔の名稱を以て同胞中相卑むの擧動無き樣申渡し候、誠に宗教政治の本部として必要なる說諭と在せられ候

△整理方針決定す　東本願寺財政紊亂事件も去月十六日に至りやふやく井上伯澁澤伯等の斡旋にて整理方針相立ち候由、芽出度事と存じ候

△東陽圓月師の寂　本派本願寺の碩學たりし同師は前月示寂致され候

△佛教文藝の新刊　名の如き新刊雜誌東京にて本月より發刊せらるべしとの事に候

△藤井宣正氏の書　前月編輯局へ參り候分左に大要を揭載致し候、氏は九月英京を去て、今印度に學術的探遊中に御坐候

前略先日附近の象島へ參り全二日を例の大洞殿及他の三洞に費やし申候、スケツチの出來さるに閉口、代用の寫眞は頗る怪しき限りと可申、候、Vishnu の化身とする [illegible] の冠の何やら大日如來の寶冠に似た

ろなと無限の趣味を感し候、少々都合有之目下は Bombay Branch of R. Asiatic Society の圖書館にて富樓那尊者の遺跡なる Sopārā の古物(五重の寶函等)Elura 等の右側に就き取調且石摺など致し、又不躰裁なるスケッケを作り居り候、右は大方は結了致候故 Victoria & Albert Museum に存する北方 Lahore 邊より持來れる古刻の一山を類別研究(?)に明日より取掛り可申候、明後日は例の富樓那の遺跡へ參る筈、印度語を知らす英語に熟せす、隨て生の舌の富樓那然たらさるは殘念と存　候、昨日亞細亞協會の古物(石片のみ)中に於て花崗石の横二尺餘堅九寸位の斷片に「別有天」と題するものを發見致候、其右に「庚子六月」の四字あり左に「ロロ芳」の三字あり今日布切に取り候もロロの二字は遂に讀み得す、又出處も確たらす殘念に奉存候、字体は先宋元の間と存候「別有天」と洞殿—何か關係可有之、其刻は頗る見事に御座候、何れ細報は追て可申上候、黑死病の本家に居るも燈盞元暗しと存候彼の火葬場に夜々旃檀薪の炎々たるに彼の内には一人二人はあるならんと察するのみに御座候、廿日頃より少々遠征可仕都合に御座候、乍去途中には滊車あり、河口慧君の旅行なとゝは全く別物に御座候、尤も半死の生なれは冒險は全く出來かたく候、死ては少々自分の都合が宜からず候、但コブラと豹位に遇ふことは覺悟の事に御座候

涼しさはコヽアの森に寺一つ

悟り顔や芭蕉の陰に僧の立つ

右は滯錫蘭の間にうなり候れごとと御笑ひ被下度候、契友諸位へ千萬宜布

三十五年十一月十二日夜

印度孟買にて　愛　楳　生

楓　堂　兄



雜評

妖星夜話

小妖星

▲或人大日本のつもりにてダイ(Die)インヂヤと呼ぶ、印度人嘆して曰く、實に大日本なり實にダイインヂヤなり、と。

▲エンマと云ふ亞米利加の美人も來れば、ドブロクスキーと云ふヲロシヤの紳士も來る、人の名は外國人に採て非常の滑稽となることあり、往年暹維の貴族ダムロング氏歐州に漫遊するや、各英字新聞はプリンス Dumb Wrong と書けり。

▲支那に妻君のことを半身上と呼ぶ、英語にベターハーフなる語有り、奇合。

▲軍艦の水夫、其他卜等なる東洋各港の外人は、佛

致をプヂズムなどゝ云ふことを知らず、皆大佛と云ふ、日本に來るものは鎌倉に來らざるものなく、寫眞、案内書皆大佛を物珍らしく紹介せるが爲めなり、邦人が香港新嘉坡邉りて「お前の宗旨はダイブツか」と問はるゝこと屢なり。

▲動物虐待防止會、其名の長きが爲め往々動物虐待會と呼ぶを耳にす。

▲奇妙なる命名は我國の賣藥に最も多し、頃者新聞に掲げたるを見るに曰く特効有る注射藥淋液と、危險千萬なる藥なる哉。

▲探幽春臺など云ふ日本の大家も支那の學者は聞て其名に噴飯せざるなしと聞く、往年柳原前光氏も多少類似の一失敗談有り氏は其姓より因んで柳青々と號し、手紙などに署名し居りたりしが、其支那に全權公使たりし時彼れの大官へ私信に柳青々の號を用ひしより端し無く彼等仲間へ好笑柄を與へたり、支那で柳青々とは日本で云へは「小鈴」とか「しめ子」とか云ふ最も普通なる藝者の名なればなり。

▲人有り來て青將門下の三動物を説く、誰かと聞けば中西牛郎内藤虎次郎加藤熊一郎と、曾て肥塚龍も彼か食客たりしこと有り。

學界瑣言

小觀記者

●己に早稻田大學の發表あり明治法律學校も亦大學組織たらんとすと云へり、此種の大學が頻々として勃興し官學に對抗するは國家の爲め慶せざる可らず、但し其組織や少くとも帝國大學の或る分科に對抗し得るものならざる可らず、爾らずんば一私立學校の畢るのみならず官學をして增跋扈せしむるの具とならん實力なくして徒らに大學と稱するは猶を朝鮮の帝國を稱するか如し識者の笑を買ふに過きざらん。

●吾國の官立大學は文官養成所にあらずんば教員供給所なり、希くは私立大學をして此弊より免れしめん。

●官立大學は教員を供給するに熱心なり、玆に於て高等師範など、軋轢起る、高等師範は教員養成の爲に立てられたるものなり、其出身者は正當に中等教員たるべきものなり、然るに大學出身者が全國の中學に跋扈せんとするは不道理なり。

●教授は一種の技藝なり、高等師範に於て教授法の八ヶ間敷所以なり、而るに教授法の何たるを知らさる大學出身者か直に教鞭を執らんとす危險の至なり。

●今日に於て各地の中學にストライキなどを見る、原因或は是等にあらんか。

●さばれ大學にて盛に中等教員を養成し得ば特に高等師範を措くの必要なからん、又高師を措くの必要あらは大學をして教員養成所たらしむるを止むべし。

●高師卒業生ならざるものは假令ひ學士にても一應教員撿定試驗を受けしむべし、是の如くせば高等師範の存在を明かにし且つ大學をして非難より脱せしむべし。

●又十餘年の高等教育を受け學士と云はるゝものが中等教育に一生碌々たる何等の意氣地なしぞ。

●學問の蘊奥を究め國家に貢献せんとする程の意氣あるものは宜しく大學に入るべし、始めより中學教員にても爲らんとするものは高師にて澤山なり、勞少くして効却て多し。

●高等師範に入るものは卒ね尋常師範よりす、而して師範學校は人物を規則詰にし、活潑なる青年の元氣を消耗し、意氣地なき軟漢とするものなり、是高師の徒の大學の徒と立て常に光彩を失する所以なり。

●高師をして吾教育界に一頭地を脱せしめんとせば宜しく尋師の教育法よりして根本的改良を加へざる可らず。

●人爲的壓制教育を用ひず、天然的自由教育を採用すべし。

●中等教員ほど人物を腐らすものはあらず、高等の教育に從事せば多少研究の機會あり、學問上昇の見込あれども中等教育に於ては毎日毎日同樣の事を何返となく繰り廻へすを仕事となす、是でも相應にくたぶるゝを以て家に歸て更に他の研究に從事する程の餘勇なし、彼か學問も人物も上達せざるのみならず段々下降し去る素より其所なり。

●田舍にて二年も三年も教員校長などに從事し小金でも溜め居る友人に接して見よ、都門の風塵に狂奔し、足らず〳〵に震へ居る我等に比し果して何れかエラキか。

●私立大學の出身は成丈け活潑有用の業務を撰て高飛すべし、中學教員などの希望ならば入學せざるが利益なり。

●學士と稱する號はもはや田舍向きの外、名刺にも印刷せざる樣なれり、然るに吾國の學生猶學問の爲に學問せず、何々學士、何々卒業といふが爲に學問す。

●吾國民は學問を問はずして肩書を問ふ、實力を撿せ

ずして虚名を見る。

●吾國の教育家の多數は卒ね愚物なり、帝國教育會とも云はるゝものが決議したりと云へる「生徒敬禮法」の如き實に抱腹の料たり。

●是の如き教育家は得て不敬不敬と唱へ他を賣國奴などと嘲るものなり。

●吾國大學、帝國大學は獨乙流にして慶應義塾は亞米利加流なり、而して專門學校は英國流と云ふべし、三大學、各取捨する所あるは勿論なれども其基脚する所略是の如し、官立大學は官吏養成を主とし、慶應義塾は實業家の養成を主とし、早稻田は政治家の養成を主とす。

●慶應義塾が純然たる亞米利加的大實業家を出し、早稻田が英國流の大政治家を生ずるの日は抑も何の日ぞ。

●實業家に慶應義塾出身多しと稱せらる、然れども其重なるものは纔かに籍を義塾に列したりと云ふ程ものにして眞の卒業生と云ふものは地位尚太だ卑く、殆んど實業家と云ふ可らざるものあり。早稻田出身の政治家といふものも亦是と同樣なり。

●教育の力や大なり、大隈伯勢力の一半は專門學校に負ふものなり、故福澤翁にして慶應義塾なかりせば翁は惡くすれば福地源一郎、よくするも西周神田孝平などの類にして畢りたらん。

●慶應義塾は今後實業專門となるべし、政治主義を執て官學と抗爭するものは、早稻田なるべし、早稻田出身者は先天的非官閥也。

處世難

零翁

△此頃成功と云ふ文字が大壯歡迎される、これで時代がます〱世智辛くなりつゝあることが分かる。

△今の世で持て囃さるゝ金持も、お役人も、成功者が少くて僥倖者が多い、目的の爲めに手段を撰ばなんだ前科者計りてある。

△それらの人々の傳記や事業を成功者として持囃やして呉れては、一代風教の爲めに由々敷結果が起る、翁が理想の成功者とは、何も飛び離れた變はり者を云ふのでない、世界的常識を具へて、着實に一本立ちて世渡りする人物を指すのである。

△其成功に就て、此頃英國の一雜誌を見たら、左の圖が見付かつた、盲目滅法に成功成功とあせりて一歩

も進み得ぬ男の爲め警誡として玆に轉載する。

△圖は人間一世、イクラ學問が有つても、伎藝が有ても、實地に適用する材能が欠けて居つては終始苦い目に逢ふことを示したもので、後の方の男は伎藝の大袋を脊負ひながら活用の才が小さ袋である爲め、汗水垂らしてウン〳〵と覺束無き行路難を辿り、前の男は伎藝こそ小なれ、飛ぶ計りの事務の材幹が有る爲め、黄金滿腹、シガーを薫らしながらサッサと成功線内へ入り込んで來る、何と面白い圖では無いか。

△學士や卒業生の肩書を脊負ひ乍らウン〳〵唸りて居る男は見て大に啓發するところが無くてはならぬ。



△知人の悴に先年文科を出て翁の許へ地方中學の教師になるのも屑の屑て餘り下さらぬから、何か實業界に口を探がして呉れと頼んで來た、柄にも無きと、は思ひしも、或商會へ引き合せたるに、文科の人は眞平だと斷つて來た、憐むべし彼れは今猶汗水垂らして伎藝の大袋に困つて居る。

文壇流行案内

低襟生

文壇昨今の流行左の如し。三井呉服店流に行けば、一々値段を附くる筈なれども賣出しの際は高い事と誰でも知つて居れば、相場附は

称す。

一鵜の鳥流・學校で吞み込んだ通りをソックリ其儘吐出す流なり。これは、駈け出しの文學士や學校出のホヤ〳〵批評家に多し。此流義は種々ある丈けに新米の似合はぬ一寸ひねつた事をいふ故、素人讀者は一時煙に捲かれ、名のある人の獨りで考へ出した說より有難がれども、種が盡きて節が落つれば元の木阿彌、世間知らずの生意氣に先號へ喰つて掛つた罰は的面、長良川より深い文壇のドン底へ落ち込んで、あゝ浮ばれねえ〳〵。

一取次ぎ流　舶來ばやりの今の文壇を當て込んで一山あてる流義なり。是は神田邊にうろついて居る語學校の落第生に多し。此流義に根抵のある學問はした事がなく、唯少し計り横文字が讀めるので、ピンヘットか、サンライスか、成るべくは人の氣のつかぬものを引張て來て、得意氣に觸れ廻る事にて、珍柄好みの文壇なれば、どこかの批評家に紛れ當つて、天才位に持ちあげられるやも知れず。併し其盲目評に乘せられて餘り天才風を吹かし過ぐれば、終には盲目千人以外の識者一人に化の皮をヒン剝かれて、二度と顏出しのならぬやうになるなり。何處やらの雜誌では、此原稿を二束三文に買ひ込む由。

一知つたか風　是は書物を讀むに及ばず、外國雜誌のノートとタルク計りを引き出して、誰は昨日欠伸をした、彼は今朝顏を洗つたと文字の上で讀んだ事をさも〳〵實見したやうに報道する事なり。新聞の飜譯掛より樂な仕事にて誰でも出來るものなれど、こんな店が未だ文壇に開業してなかりしより、品物の善惡に關はらず隨分はやる由なり。併し、余りはやる所より此頃追々眞似をするのが殖えたるやうなれば、店立を喰はされぬ用心をして、俺はえらい文學者樣だぞ、と、人を眼下に見くださず、精一杯愛嬌を賣つて置くがよかるべし。

一尻馬流　是は人の尻馬に打ち乘つて、他人の褌かつぎをする流義なり。此流義は、學問もなければ素養も入らず、鑑識といふものが鵜の毛程もなければ、自分で品物の善惡を判斷する事が出來ず、人の書いたものによつて、自分で判斷したやうに世間へ見せかけるなり。併し、今の文壇は盲目千人、内輪賞めと相手けなしの外なければ、此流義は、詰り其手先に使はれ居ると同樣にて正當な批評はなき評なり。物の判つた人が一笑に附して相手にせざるも尤千万の次第なり。併し、此

流義は東京よりも地方で受けるとの噂あり。

讀者の文壇

東京の湯屋　下

田以杏村

△芝口一丁目に、隅田川といふ湯屋がある、斯んな所で隅田川と名乘るのは似合はしくない。

△芝濱松町の百足湯、同じく露月町の五色湯、小石川關口水道町の弘法湯、淺草松清町の生馬湯、同じく柴崎町の硝子湯などは、あるが中にも異つた名で、そのいはれを聞いて見たくも思ふ。

△石鹸や垢すりなどを、能く摺替られたり盗まれたりするものは、男湯よりも女湯の方に多い。

△手拭は大抵浴槽の中まで持つて入るから、間違つたり紛失したりする事は少ないが、潔癖の人は之を浴槽の中に入れるを厭ひ、留桶に投込んで置くので、自然古いのと取替へられることもある。

△湯屋の貸手拭ほど、垢染みて臭くて、無氣味なのはない。中には此貸手拭で、三厘ぐらゐの損料を取る家もあるが、多くは無料で客の需ふまゝに貸與へる。

△此貸手拭は皆な客が忘れて行つたもので、別に貸すために新らしいのを下す譯ではない。勿論、女湯の方には稀であるが、男湯の方では、置忘れになる手拭や石鹸が、一ヶ月に十本三個を下らぬから、其内、奇麗さうなのを家内のものが所用として、雑巾にも惜しくないのを客に貸すのである。

△もと／＼薄汚ない貸手拭であるから、これを使ふほどの人も、多くは粗忽で、使ふうちこそ能く揉出もするが、上り際には碌々絞りもしないで、其儘返して行く。

△盤臺に座つた者も其通り、何うでも構はぬ品物だから、水が垂れやうが、埃が附いて居やうが、一切素知らぬ顔で、次第に汚なくなるのを三人五人と貸す。こんな始末だから、借りて却て迷惑するのは此手拭である。

△尤、懇意な客などが、ひよつと忘れて來て借りる場合には、幾本かある中から、成るべく奇麗さうなのを撰出して貸すやうであるか、通り一遍や、餘り難有くもない客だと、成るべく汚ないのを撰出して貸すので、此權利は客が一應承諾を經べき盤臺に坐つた者の掌中にある。

△湯屋が委托されて販賣してゐる一錢銅貨大の石鹸

は、何處でも五厘と極つて、剰錢の代りに之を貰つて使ふものもある。

△此五厘の石鹼は、品も佳くないばかりでなく、一浴に必らず一個を要するところから、考の細かい女などは、損德の上と體裁の點から割出して、決して再び斯んなものに金を拂はぬやうになつたが、男の方には、まだ〳〵少なからず使用されてゐる。

△殊更、職人などには此風が多い。突かけ草履て、手拭を肩にかけると威勢も好いが、石鹼箱を持つては、何だか映りが惡いところから、三錢投出して、剰錢を石鹼に代へるのて。

△地方へ行くと、流しの八厘（概ね五厘より八厘の間て）さへ出せば、三助が氣を利かして石鹼（勿論安物）を貸すのもあるが、東京にはこれがないので、浴槽の中に居ながら、おい石鹼を一ッ奥んねえ、出てから錢を拂ふよ、と思付いて怒鳴るのも珍らしくない。

△江戸子や、東京子がる人は、此小さい石鹼を態々半分ぐらゐ使ひ殘して置いて行く。これは單に當人が氣前を見せるだけて、いくら半分殘つて居るからと云つて、他の者には手も出されず、三助なども唯見過して仕舞ふのて、遂には流されるより外にない。

△尤も性の惡い、しみたれた人などは、人を覘つて、濡手で泡（石鹼の）の掴取りと洒落れるのもあるし、心の利いた三助は、早く之を片寄せて置いて、時刻見すまし、自分の使ひ料に沒收して仕舞ふのもある。

△一體に東京の人は、熱い湯に入るのを自慢の一つに數へてゐる、まだ這ひ歩く時分から、熱い湯に入れらて育つ爲てもあらうが、其辛抱の强さは、貧苦に堪へるよりも一層甚だしくて然も平氣を粧ふてゐる。

△浴槽によつて種々だが、下から絶えず湯の沸いて出るのは、何時も熱加減て、又、工場などから湯を引いたのは、うめるのは水ばかりでなく、牛溫いと云へば火を焚く代りに湯を送る。

△風呂の釜は、鐵、眞鍮、銅の類て、火の行く先には穴が十八もあり、鐵て四五十圓、銅で三四百にも上るから、湯屋も中々資本を要するので、近所の工場などて流して仕舞ふ湯を、鐵管で引いて送るのが殖えて來たと

△中には鹽からいのもあり、つる〳〵するのもあつて、一たび滊罐に用ゐた湯だけに、若干か濁つてゐるが、斯うした湯屋では、何れも湯錢や湯札を安くするので、却つて客が多く、資本の割には儲けが薄くない。

△芝浦の鑛泉などは、特別、上等、普通と階級を分け

てある。而して浴槽は二つになつて、一は高温、一は低温で、どちらでもお好み次第としてある。

△之を眞似てか但しは否か、浴槽を中央から仕切つて、一方は熱く、他は微温くした湯屋が、各區にぽつり／＼見えて來た。

△藥湯は毎日入れかふるので、一夜でも止めておくと、色が黒くなる。素人が、これは甚く臭いから止めて置いたのだらう、など丶云ふのは、能く此理由を知らぬからで。

△藥湯も好いが、此處を定得意としてゐるのは、腫物の出來た人や、瘡毒に悩む人や、何れも病を有つたのが多くを占めて居るから、無病のものは、此等の人と一緒に沐浴するのは心地よくないので、自然と足が遠ざかるのである。

△それやこれやで、潔癖の、少し都合でも可い人は、藥湯ばかりでなく、白湯に行くことをも好まないで、内へ風呂を備へつける。それを田舎者ばかりだと笑つたのは往時で、今では江戸子に内風呂へ入るのが多くなつた。

△下足番さへ置くのがあるのに、山の手や場末の湯屋へ行くと、脱いだ下駄を直さうともせぬのがある。

△山の手で一寸した湯屋は、小石川櫻木町の瀧の湯で、後に目白臺、前には江戸川の流を控えて、夏などは一層涼味を覺える。況して男湯の方は、江戸川に面してゐて、浴槽は小さいが、白湯あり鹽湯あり藥湯あり、どれでも好なのへ入れるのだから、此位思切つて雑多な、思切つて見晴しの好い湯屋は、下町にも又とないと云つても差支あるまい。

△海水浴などは別として、普通の湯屋で最も廣く最も大きな構は、三崎町の寶湯ぐらゐなものだらう。

△此外にもあるだらうが、自分の知つた限りで、最も湯錢の低廉なのは、深川猿江裏と、小石川松枝町にある湯屋で一錢五厘、湯札は深川のが一圓に百二十枚。

△淺草廣小路のそばに、蛇骨湯と云ふのがある、何の譯でかゝる名を付けたのか分らぬか、聞てあまり心持ちの善ひ名ではない。

△駒込曙町の湯屋に、町名に因むで曙湯といふのがある。見れば寧ろ奇麗な方ではないが、何となく意氣らしく聞える。

△こんな事を書きたてれば限もないが、課題に湯屋があるのを幸、どれ此邊で御免を蒙つて一風呂温たまらう。

男性排撃　下

（有美先生の女性排撃に抗す）

落葉女

△有美先生女は滑稽を解せずと罵り玉へど、そは餘りに御情なき御辭なり、男様のお串戯に相槌打つて見玉へ、ちさとのり氣になりて相格をくづし玉ふか、然らざればあれはおきやんなりと侮り玉ふにあらずや。

△愛に姦淫罪を犯したる結果、罪の子を胎みたる證據の擧つたと假定せられよ、先きに手を出すのはいつも男と極まつて居れど、世間に恥を晒らすは女ならずや。

△男を大別して結婚前の男と結婚後の男との二種とす。一つは熱情湧くが如く意久地なきまで女に媚び、他は冷淡水の如く、果ては壓制專横昔日の影を止めず、全然別人の如し嗟乎。

△自分の放蕩のために莫大の金を費す男は家にありては必ず吝嗇なるものなり。

△男を尻に敷くとて女を惡様に云ひなせど、敷るゝ位の男は必ず意久地なくて、好人物て、用に立たゝぬ故、勢止むを得ず嬶天下ならざるを得ざるなり、豈自ら好む者ならんや、豈自ら好む者ならんや。

△關西男子は色黒くニキビあり、小才がきいて、輕薄て、一寸女の好きそうなことを云へど、其實情を餌にして手巾一枚でも女を欺まして奪ひ取らんとする狡猾者多し。

△男は申込をして即答を得ざれば忽ち疑ひ忽ち怒り、自烈或はリアクションを起して後を向く。男の如く疊換をする積りならばいざ知らず、苟くも偕老をちぎらんとするもの豈熟慮なくして可ならんや、故にもし之ならばと思ふ男にても可成答へを遲延し、可成長く氣を揉ませ、迷はせ、狂はせ所謂熱くもなく冷たくもなき微温度に仕向けて、少しく彼が我儘と性急とを愚弄してやるも一種の興ならずや、其内には彼も冷へかゝりてソロ／＼本根を吐くべければ。

△男は情熱激烈の如くなれ共、猶は女の如くしかく深刻ならず、今少し熱し今少し狂つて欲しいといつも物足らぬ心地せらる。

△當今指を第一に屈へらるゝ詩人○○も其絶頂に達せざる内に最早（其作も年も）人生の半ばを過去らんとしつゝあり、誠に九仞の功を一簣にかくの恨みなき能はず、故に或人評すらく○○の狂人にならなかつたのは幸福なれ共亦狂ひ方の足りなかつた所が詩人として最

も惜むべき欠點なりと。
△男は女を撰ぶに容貌の醜美を以てすれ共女は只其眞實の如何に由る也。
△餘り吾儘勝手なることを爲す男には一度分娩の苦を味はしめ其澁面を笑つてやり度心地す、只一度
△ショウペンハウエル戀愛の原理を論ずる中に、男子の戀は其性質不定にて、女子は不動なるもの故、男に向つて一婦の制を強ゆるは人工的のものなり、故に婦人の姦通は男子に比して最も許すべからざる大罪惡なりと論斷せり、之を讀む世の浮氣男子如何に乘氣になりて情界を横行闊歩するに至るかを想像すれば悚然として怖れざるを得ざるなり。
△男は沈默憂欝の女子を最も厭ふ、氣さくて、氣輕て、お尻の輕いのが至極悦に入り玉ふが如し。
△たとひ名は正義に借るも戰爭は一種の兒戯に均し胸には幾多の勳章をぶらさげ、目もまばゆき迄て金モールもて飾り立、而も得々揚然たる軍人を見る毎に、實に失笑を禁する能はず。
△或男妻欲しさに他人の子を借來り、なぞをかけて曰く、「僕も此樣な子があつたら如何斗り嬉しきことならん」と兩親其意を推して直ちに嫁を迎へ呉れしとなん。
△男子妻なければ万事不自由て困るとこばし、有れば即ち妻子が邪魔て事業が捗々しく進行せずと苦除をのたまふ、さらば御用の節はヒョッこり出來り、御用の無い時丈飲まず食はずして引込んで居れは御氣に召すにや。
△男子の戀は實際よりもより多くを云ひ、より多く書きて現はせど、女は熱情内に燃えてもだえ苦しむも生涯緘默に終ること往々之あるなり。

煤拂ひ

頬冠生

△内村鑑三先生、亡國の歎を發し日夕悲調を絶たず、大隈伯評して曰く「彼れは泣て飯を食ふものなり、飯の中には自ら涙も混じつゝあるなり」と
△東京市中賄賂を取らさる小學校の教師は殆んと稀なりといふ、麹町區の如きは比々悉く然り、富家權門の子女に對すると中流以下に對するとは全然其待遇を殊にす、音樂學校の如きは收賄の弊風著るしきものなりと傳ふるものあり
△女學生の生意氣を唱ふるものは愚の極なり、十年以前男子と雖も英語交りの談をなせば生意氣なりといひたりし、蓋し他の無學者と調和せざればなり、今の父

母なるものは多く無學、父は中學校を卒業せず母は高等小學校に至らざるもの最も多し、之れ等の中にある女學生の言語が異彩を放つもの宜ならずとせんや

△風俗壞亂呼はゝりをするが故に、風紀益々紊亂す、新聞の三面記事が終りに臨んで實に心得違ひの男女といふべしと戒めた積りにて書けども元來書く趣意は人の好奇心を煽らんため、讀者、胸に潜める淫念を促進して其の興味を添えんためにあらずや

△女學校の運動會を見る、身の丈に餘る綾羅の袖、秋風に吹かれて美言はん方なし、而も是れ咄々怪事、是れ運動會にあらずして綾羅展覧會なり、余彼等が長袖を絶て馬糞牛糞を包み謹んで校長に献ぜんとす

△最高の女學校、女子教育の摸範とはならず却つて質素の風を破らんとす、國賊といはざるべからず、高田の辻に立て女子大學生の歸るを見るに、其の別るゝに臨んでの語「アノ人によろしく」「誰に」「兄さんに」「アナタの兄さんにもよろしく」「お樂しみ」「アバヨ」是れ全く藝娼妓の言に異ならず

△鳩山春子夫人と並び唱せられて交際社界に有名なる某夫人あり、頃日某雜誌に女子の貞操を說く、焉んぞ知らん此の婦人こそ八年以前に其の良人を失ひ其の姑を虐げて遺産を奪ひ、孤閨屢ゝ醜聞を漏らして三面記事の厄介となり、今の良人の老耄と富有に乘じて再嫁せるものならんとは

△某書肆某書を出版して某新聞記者に書を送りて曰く此書の批評に願はくは「風俗壞亂の點も少なからざれども」の一語を加へよと

△女の自轉車奇ならず女の醫者奇ならず女の小說家奇ならず奇なるは女の學問なり、何の爲めに學問するや曰く嫁入の仕度なり、何の爲めに嫁入するや曰く子孫を蕃殖するためなり、然らば寧ろ女學校の看板を撤して人間蕃殖口入所と掲くるに及かず

△學問は神聖なるものなり、手段にあらず、肩書にあらず、要する所は人格を養ふにあり、今の學士博士の徒亦たこれを解せず學問を以て糊口の道なりとす、是れ學問の神聖を汚すもの

△二三年以前帝國大學の學生某、其の狎妓某と共に相抱て多摩川の上流に情死す、某や高等の學を修めたるもの、妓や花柳の粹を味ひしもの、而して水は清冽玉の如きもの、三美一躰となりて此にアーメンとなる、日本開闢以來此の如く美なるものあらず

△大隈伯頻りに伊藤侯夫人の賢を稱す、伊藤侯頻り

に大隈夫人の實を稱す、互ひに夫人を稱揚するは蓋し良人の功名を削らんが爲めなり更らに一歩を進むれば良人の不能を表彰するものなり、此故に稱揚は却つて罵詈を意味す

△憲政黨內閣の時鳩山春子夫人其の良人の大臣とならざるを憤り七日良人の室に至らず、尾崎氏等政友會に入るや春子亦た良人に勸めて政友會に赴かしめんとし事破れて止む、鳩山氏の盛名を成さしめたるものは春子氏なるも鳩山氏をして薄志弱行の汚名を蒙らしめなるものも春子氏なり、昨夜一車夫おでんやの前を過ぎり曰く「マアササさう嗚ァに芋でも食はした方が樂しみだ」

短文

我國の湯屋に就て

▲薬唄の練習場、都々一の稽古場、新內淨瑠理軍談の口ハ寄席たる奇觀あるは我國の浴場なり。

溫泉場と湯女、湯女と浴客、單に此二句の中に實に蜜の如き甘き意味を寓するものは吾國の浴場なり。病氣の次に保養、保養の次に湯治、湯治の次に洒と女、而して最後に花柳病、これ吾國浴場の賜なり。

善ひ哉吾國の浴場、蓋し天下無比。（愛鬼生）

▲こんな問題が出ては日頃日本天狗の我輩も一番閉口す、こいつだけは是非に撤回が願ひたいが、すでに後れたりとすれば、必敗の文障に死者狂の贊成說を演へよう、ハイカラの諸君鎌すこしそこらをひらき給ふべし、とつぱしりやかとり申さむ。抑も我國浴場の利益と云つば、一には一體の風呂よく數百人を浴せしむるか故に、湯賃の安きこと世界無比なり、僅々二錢か厘なほ高しと云ふにあらすや、蓋し國家の經濟を助くるなからす、二には浴場の設備簡易なるか故に、至るところ風呂屋ありて、細民貧书生に至るまで、よく肌に垢なきを保つを得、蓋し國民の健康に資する所極めて多し、三には（すこしこれから六つかしいよ）我國の浴場には混浴の風俗怪しまれざるが故に、赤裸々の境、貴なく賤なく官なく民なし、尻よく鼻にぶつつかりて何事も無く、足時に首を蹴るも失敬の一言少しの滯りを見ず、這般の樂天地また何の處にかある、これ我國浴場の德なり、四には所謂曲線の配合裸體畫のモデルは、肥瘦長短老幼を問はすこれを每日浴場に見るを得、惜しい哉男女室を異にしてこの兩者を併せ觀るを得ざるは痛恨の至りなから、さりとて中々に得難き便利なり、これまた我國浴場の德にあらすや。五には、裸體畫を觀んとて、わざ〳〵上野の白馬會を訪はずとも、日常之になれたるが故に、そんなに斯樣の畫なんとに、びつくりせぬまでには、進んだか退いたか、ともかく國民の識見が近付いて居る樣なり、これまた誰れやらの主義よりせば、我國浴場の賜また大ならずや。六には風呂に還入りなからも板間かせぎに着物やられぬ用心を要するか故に、浴客すべて目敏く氣銳なり、而して紛失物ありとも湯屋の責任にあらず、かくて左程の苦情も無きこれまた我國湯屋の德なり。浴場の二階にはそれ何やらの何やらを緊れ、よく浴客の氣を散するあり入浴の第二讀會もまた珍ならすとせず、またこれ我國浴場の德なり。この勢て拾つて行けば、十德は愚か百德を

も千態なも數へつべし、何者の阿呆か我國浴場の非をならさんとする、イヤこの位の處で止すとせう風呂の中の何とやらアパアパ、、、、、、、、パ（三助生）

▲韓國では居留人民間に湯屋が澤山ある、併し韓人には入浴を許さない、若し入浴を許せば浴槽中で小便をして湯が一種の臭氣を放つ、それで入浴者は神州清潔の民計りとして居る（仁川の一愛讀者）

▲大晦日の晩に浴屋へ行くのは實に愉快極まるものである、一年中の垢と苦と煩惱を洗ひ落した樣で、其儘寢て元日の朝起きると何んだか生れ替はつた樣である。（元日子）

▲我國の共同浴湯は日本人の欠點を遺憾なく發露したものである。潔癖で少くとも三日に一度は必ず入浴する。顏や手足の垢は能くおとして髮を洗ふ者は割合に少ない、鼻の穴から耳の穴を掃除するのは斬髮床でする事に定めて居る。浴場でタンを吐き、不淨を垂れ流す。日本人の潔癖は殆ど衞生的といふよりも外面を飾る爲めてある、或は殆ど無意味てある、矛盾てある。（洋瓣子）

▲露西亞風呂、土耳古風呂、蒸氣風呂、電氣風呂、其を云へば數限りも無ひが、先づ通常歐米風の風呂と日本の風呂を比較して見よう

日本	歐米
一、浴槽は木に限る	一、大多數は大理石
一、縱に長くして座棺の如し	一、橫に長くして寢棺の如し
一、長くて一週一度は必ず入浴す	一、一個月一度位の者多し
一、混浴にて湯を交換することなし	一、湯は一人一度に限る
一、垢を以て垢を洗ふ	一、湯を以て垢を洗ふ
一、醜體を多人數の中で暴露して顧みず	一、家人と雖入浴中侵入するを得ず
一、共和的なり熱冷一に多數に依て決せざるべからず	一、專制風なり冷を欲すれば冷熱を望まば熱自己の隨意

（芝、白金生）

▲若し他の場所ならば他人數の前でかゝる全身暴露をなせば自殺でもし兼ねまじき女性が、獨り湯屋でのみ平氣の平左なるは合點の行かぬ事の極みてある（波嶺）

▲日本人が入浴を好むは毛織物を着ざるが故なり、衣服を洗はざるが故なり、木綿は身體より蒸發する水蒸氣を吸ひ込みて垢を推積し、又皮膚より分泌する脂肪が浸染して冷かに且軟らかに甚だ心地惡しきを以て湯に入るなり、されどこれ其本末を誤れるものにして、水分を包み脂肪に浸みたる衣服を洗はざれば全く其心地惡しきを忘るゝ能はざるべし、一時入浴後の心地良きは血溫以上の熱湯に浴して皮膚を温むるを以て、暫く垢着き脂じみたる衣服の冷たさを忘るゝのみ。毎、湯に入られば心持が惡いといふは其故にて、皮膚の蒸發と分泌は常に絕えざるを以て愈々益々心地惡しくなるなり。況んや日本人は悉く神經質なるをや。西洋人が水分を反發し脂肪が浸み難き然も空氣の流通よき毛織物を用ひ、猶一週間毎に其シャツを着替ふるはこれ日毎に入浴を要せざる所以なり。日本人の入浴は觸覺の不快より起る、衞生を思ふにあらざるなり。（竹の子）

▲僕は何となく話しに聞く男女混浴時代の湯屋か羨ましい、何となれば良妻撰擇中の僕は赤裸々ホントーの見合ひが出來るから（の田）

▲「朝ッ八の夕てん」と云ってね、朝風呂に八文さへ拂へば夕方は口へて、煮へくり返へる樣な湯にザンブリ浴びて、仕事に出て、夕方又仕事の汗を流したのでゲス、今ぢや一度で二錢五厘湯屋にさへ餘たまには行き切りやせん、とは隣の親方が僕に話した言てある（磐山）

▲十年前、井上妖怪博士か歐州で、日本人が襯衣を洗濯する度數歐州人より少しと、彼國人より言はれ、襯衣の洗濯と身躰の洗濯とどちらが大事か、一週間に一返襯衣を洗ふて一個月に一回より入浴せぬ國民と、毎日入浴して襯衣を一ヶ月洗はぬとぞちらが清潔かと、大氣焔を吐ひたと話されたが、實際小便で洗ふ様な混浴の實況を彼國人に見せたらかゝる怪氣焔も吐かれまい（ち、か、）

▲西洋には一生入浴を試みられない人物が多く居るそうだが、其不潔さ加減如何ばかりであろう、蓋し之れは入浴料が高かすぎるから、一般に行はれないゆゑであろうと思ふ、僕ば無理に西洋の浴場に擬して、色々改良しないでも、我國の浴場は此まゝにしておいて、只だ營業者と浴客とへ、モーチツト清潔といふ事を注意してもらへば、それでよろしいと思ふ、入浴が容易にできて、富人も貧人も一般に之を行はれるやうにしておく事は、却つて衞生上得策であろうと思ふ、男と男、女と女との混浴は少しも不都合はない、僕は只だ浴客が他人の妨害をせぬこと、浴湯は不潔のものゆゑ、之を耳、目、口等へ無やみに入れぬとゝを注意してもらいたいのである、立派な紳士にして　子供等に浴湯を飮ませ、薬の如く考へて居る人物も、僕は度々目擊する、ナント衞生上危險ではなからうか、紳士すら斯の如し、無智の山神連に於ては、其爲すところ誠に察すべしてある、斯う云ふ馬鹿な事の外、日本の湯屋は世界一便利である平民的浴場に適して居ると思ふ、徒らに改良を西洋に擬する勿れである（浴民）

▲何とやらは何とやらに問へて、浴場のこと去りて之を三助に問ふて可なり、『中央公論』何者なれば我聲讀者を以て彼れ三助一輩の徒となす、無禮是より大なるは無しだ、オヽそれ〳〵思はずも浴場幾千一言を以て之を覆ふべき辭句が出た、即ち今の結句「無禮是より大なるは無し」の一言だ、先づ天下無禮公許の最なるもの、（權助生）

▲「左側を步行（あるく）すべし」と注意する日本の警視廳が、人力車夫の年齡制限を設くる日本の警視廳が、寄席の改良を命じたる日本の警視廳が、跣步を禁じたる日本の警視廳が、裸躰を公衆に見せざる日本の警視廳が何故に女湯に男の三助を禁ぜざるか。（新風俗生）

▲僕が湯屋に行つて不快に感ずるのは全身に文身（イレズミ）したる男、ヨードホルムノ臭、大聲でくだらぬ歌をうたう奴、鏡ノ前に立ちて髮など解きつけ切りに自惚れて居る奴等（琶湖舟）

▲女湯に於ける芝居の評判、男湯に於ける女郎買ののろけ（仝）

▲湯屋は或點に於て公平なり、身分の如何に關せず、貧富の差別なく、位階の高下を論せず、智愚の隔てなく、同じ湯錢を拂ふて仝し湯に浴せしむればなり（仝）

▲一枚の裸體畫にもやかましく騷き立てる當局者、ちと湯屋に於ける裸體を取りしまつては如何（仝）

▲京都の浴湯は東京よりも餘程立ち勝つて居る。蒸氣湯の設けなどがあつて土耳古的である。（T　S　生）

▲浴湯で歌など歌ふものは江戸ッ子に限る。（仝）

課題
我國の警官に就いて（一月十五日まで）
我國の文學者に就て（二月十五日まで）

新刊紹介

▲精神講話　清澤滿之氏著

東京本鄉四丁目五　文明堂發賣

現今の青年か精神上に何か新らしいものを得ようとして居る事は今更い

ふ迄もない。而して其所謂新信仰なるもの丶一は精神主義で其泰斗が清澤氏であるといふ事は是亦知らぬものはない。本書は流石に其中心たる人の所説だから遺憾なく精神主義なるものを聞く事が出來る。兎も角、一册に纏まつて居るから大に便利である、若し夫れ安心立命の問題に逆着して居るものは是非共本書を讀まればならぬ。本書が新らしき命と光を與ふる事に於て讀者を利益する事は固より保證して置く。（價三拾錢郵税四錢）

▲實業の帝國　小池靖一氏抄譯

東京麹町區有樂町三の一　實業の日本社

カーチギー翁の原著で頗は簡かなものである。殊に翁が自家の經驗を以て青年事業家を訓へたもので、實業の大に振はざるべからざる今日に於て本書を抄譯して將來の實業家に之を示したのは吾人大に譯者の勞を多とする所である。殊に「下級の地位より始めよ」から、以下投機を斥け、借金を戒め、勤儉を勸め、而して富の使用法を說き切實にして利益ある辭章を撰んである。譯語も明快で難澁の句なく、近來の好讀物である　四版。（定價三拾五錢郵税六錢）

▲國民道德の涵養　湯本武比古氏著

東京神田小川町九　開發社發行

著者が大日本實行會の山梨支部に於ける講演の筆記である。大意は勅語の御趣意を今一層實效的に廣めたいといふので、公德の點に重きを置いて說いてある。要するに之れによつて現今に於ける修身教科の欠點を補ふでもらいたい。（定價五錢）

▲畜類のまこゝろ　本田増次郎氏著

東京神田小川町九　開發社發行

題名の如く動物の眞情を書いたもので、無告の動物でもこれ程の情があるかと思ふと知らず〳〵淚がこぼれる。事實は皆西洋の譯だけれども、敢て東西の別はあるまい。況して由來動物に對する同情の厚い日本人は必ず本書を歡迎すべき義務がある。（定價五錢）

▲人の罪　田口掬汀氏著

日本橋區本町三、　金港堂書籍株式會社發行

此前『アカツキ』に於て「別れ路」を世に示した掬汀氏の作品で、量に於ても質に於ても前者よりも打勝つて居る事は事實である。然し猶「新生活」と題する後篇が出るのださうだから充分に批判する事が出來ないけれども此篇のみを以て見ると「別れ路」は情に克つ苦を叙しこれは情に敗けた苦を叙したものだ。寧ろ早く後篇の新生活を見たい樣な氣がする。

筋は今樣の御家騷動とでもいふべく。家令と高利貸とが盜印して主家を苦しめるので、息子と令孃が友人の瀧澤健雄　惡家令の甥　に事情を打開けて事を賴んだ、健雄は令孃との戀の爲めに僞造證書を盜んで入獄するといふのである。戀の競爭者辯護士富士川潔を出し、義を尊ぶ實弁先生を出したのはよい。けれど副主人公たる令孃の妙子が殊に相方の戀が成り立つて居たとすれば今少しく厚く、情を持たせたいやうだ。苟も高等教育を受けたものが法律上の罪を犯すには今少し强き動機と煩悶とを要する。随て主人公に對する讀者の同情が薄い樣だ。然し老男爵の殿樣氣質、息子の貴公子氣質共に遺憾なし。入獄後の事は寧ろ後篇に讓つた方がよい。兎に角事件が得意のこんがらかつた筋だから讀者を引くだけの力もあり、叙景の筆も見るべきものがあるから、三十五年掉尾の大作と

いはないまでも新年の讀物として佳作といふべく、作者が新進作家として世に立つべき力量も充分である。（無名子批）（定價參拾錢）

▲三論玄義講話錄　前田慧雲氏述

京都、油小路御前通り上ル　興教書院發行

氏が獨特の宗教新解釋法に依りて講說せられたるものにして、三論宗の歷史と時代思想との關係、馬鳴龍樹等と原始念佛門、唯物論唯心論、有神論等に關する疑問及び眞俗二諦彌陀實在等の活問題を捕へて正確に之れを論したり、要するに近來出色の研究といふべし。

（全一册正價金參拾錢郵稅四錢）

▲三博士講演集

本鄕四丁目五番地　文明堂發行

近來此種のもの其類少なからずと雖、皆博士の名を以て羊頭を掛け狗肉を賣らんとするものなり、獨り本書は材料を精撰し、体裁も整頓し校訂も嚴密にして比較的完全なるものなり、殊に其肖像を揭げ自傳をも添へたるは聊か力めたりといふべし。就中南條博士の「佛教文學」は五十頁に亘る長廣告にして博士の眞價値を見るに足る。（定價三拾錢郵稅六錢）

▲明治の令孃　闊如來氏著

神田表神保町　東京堂發兌

著者序して曰く「この一卷はことしの春、著者が讀賣新聞へ寄り新參の節、手土產の積りにて認めたるものに候、毒になるか藥になるか之れは讀む方々の心の持やう一つと存候」と、三十九人の肖像口繪鮮明、且つ叙述皆光明方面のみなれば讀者を樂ましむること多し、但し過賞過褒と思はるる點尠からず（三拾錢）

▲富村邸のクリスマス　深澤由次郎氏譯

神田表神保町　太平洋館發行

英の小說家アンソニーツロロープのトムソンホールのクリマスを譯したるもの、譯述輕妙、原文の奇を失はず、附するに詳註を以てせり、原文と對照して讀まば英文學に志有る初學者に採て利益多からん（十八錢）

▲哀調　小島文八氏著

神田佐久間町　白鳩社發行

佛蘭西の文豪シヤトウブリアンの傑作ル子を翻したるもの、譯者は「山彥」派の青年文士にして隱然同派の主柄を握る小島洒生氏、原作ル子は泰西の詞海に新潮を導きたるロマンチシズムの泉源として我國今や新ロマンチシズムの一派起らんとするの時、移して紹介したるの勞や多とするに足る　文辭亦幽艷醇雅にして誦するに堪えたり。作者及び其著作目錄等を添へたるは譯者の用意注れるを見るべし（弐拾錢）

▲濱子　草村北星氏著

日本橋區本町　金港堂發行

早稻田出身の文士草村北星氏の處女作也、濱子といふ婦人の悲慘なる生涯を描きたるものにして一篇三百頁に近き長篇の小說なり、卷頭に著者の藝術觀を揭げ終に人生に於ける善美兩活動に於ける價値と題する論文を添えたり、精細なる批評は文藝欄記者に讓り茲に唯其發見を紹介す

（五十錢）

▲新小說（第七年第十二卷）

春陽堂發行

多くの文藝小說に於て文藝俱樂部はあまりに雜駁に失し新文藝はあまりに單調に失す、卑俗に流れず高尙に走らず、趣味津々として誦す可きは新小說なり、本卷前田曙山の「水の流、」嵯峨の舍主人の「浮世風」等五篇を收む、島村抱月の「滑歐文談」後藤宙外の「歲を送る」伊原靑々園の「壯士芝居の作者」等皆得易からざる好文字なり、新年印刷には春葉、鏡花、風葉、宙外等の小說あり附錄として紅葉の續々金色夜叉を出すべしと云ふ定めて刮目の料たるべきか。（定價壹册金二十五錢）

▲霜枯

本郷森川町一番地　育成會發行

毎號題號を改めて出すのである。趣味もあり活氣もあり、そして體裁もよい。編輯者の苦心は確かに紙上に現はれて居て何となく嬉しい。「人爲的平和の利用」「倫理と宗教と二要鍵」等讀むべきもの少なからず、一種風かはりの、然も喜ぶべき特色のある雜誌として、吾人は愛讀して居る。（定價拾五錢）

叢報

●布哇の人口　布哇の千九百年に於ける全人口は十五萬四十一人にして千八百九十年の六萬四千十一人に比すれば七割一分餘の增加なり人口種別左の如し

支那人	二萬五千七百六十七人
日本人	六萬一千百十一人
葡加牙人	二萬八千八百十九人
布哇人	二萬九千七百九十九人
半布哇人	七千八百五十七人

白人種は千八百九十年には全人口の六割七分なりしもの千九百年には四割三分に減少せり是れ支那人及び日本人の移住多きに由る

●昨年の布哇移民一萬五千人　昨年一月一日の香港丸より昨十二月九日出帆のコプチック號便迄を通算し橫濱より送り出したる布哇移民の總數は一萬四千六百二十一人なり尙ほ前月十七日及び二十四日の二回分凡そ六百人以上あるを以て合計一萬五千以上の多數に上るべしと云ふ

●全國醫師藥劑師總數　醫師總數　三萬二千二百九十人

醫學士及別科卒業	千二百七十七人
醫學專門學校及高等學校	二千百五人
府縣立專門學校卒業	二千二百十八人
內務省試驗及第者	六千八百八十人
同舊試驗及第者	二千三百三人
外國醫學校卒業者	五十人
奉職履歷	九百二十五人
從來免狀	一萬四千四百七人
同子弟	二千七百二十八人
限地開業	三百九十七人
藥劑師總數	二千五百十五人
大學	百九人
高等學校及專門學校	百四十二人

內務省試驗及第者	五百四十三人
同藥試驗及第者	千七百十人
外國學校卒業	十一人

因に記す　醫師の舊帳簿には四萬九百餘名とありしが今回の調査により約八千餘名を減じ藥劑師の舊帳簿も同じく三千三百六十二人なりしによりは是も亦八百四十七名を減せり又醫師の中にに齒科醫百三十二名を含み居れりと。

●代議士住所區別　衆議院事務局に於て調査したる各代議士の住所を各區に別ては左の如し

京橋區	七十六人	麻布區	二十人	四谷區	四人
芝區	七十一人	牛込區	十人	淺草區	一人
麹町區	五十八人	小石川區	十人	豐多摩郡	二人
神田區	四十四人	本郷區	十人	荏原郡	二人
日本橋區	三十一人	下谷區	八人	深川なし	
赤坂區	二十三人	本所區	五人		

合計　三百七十五人（秋田縣一人缺員）

而して一戸を構へ居るもの百六十人旅館或は親戚知己の許に居るもの二百十人なり

●英國の火葬法律　英國政府は昨年議會の協贊を經て法律上（「クレメーション、アクト」）火葬を公認することとなり本年千九百三年四月一日より之を實施すと云ふ、此律に據れば火葬は埋葬と併び行はれて公然たる屍體取扱方法と認められ今同國の各地方は之に適應する準備（火葬場設置等）をなしつゝありと、而して該法律に於ては嚴重の規定を設け火葬を行ふに就き不實の申立をなせるものは二ヶ年の重禁錮に處せられ、犯罪を掩はんが爲め故意に虚僞の申立をなして火葬を行ひたるものは五年の重禁錮に處せらるゝの制裁を附せり。

●西伯利亞鐵道と歐亞郵便　西伯利亞鐵道完成の上は東洋歐洲間の郵便物通路として最短時間の重要線路たる事勿論なるより、我遞信省と露國遞信省との間には目下其連絡點を浦潮にすべきか旅順に取るへきかに就き照會中なり、歐洲諸國にても佛獨二國は treat來の同情よりするも無論西伯利亞通過に異議なかるべし而して海上に有力なる航通を有する英國も亦郵便物速達の便宜上より西伯利亞鐵道を郵便線として利用するの意向あり現に清國より英國宛の信書は海路に依る時は四十四日を費すに反し陸路を取る時は二十四日乃至二十六日間にして到着するの事實ありと云へば將來郵便物の輸送は全く西伯利亞鐵道を使用するに至るべし

●太平洋海底電線　測量探査は米國海軍省の管理の下に既に終了し敷設の順序は布哇よりミッドウェイ島を經てガアムに至り一は馬尼剌に敷設する計畫にして本年七月一日前に敷設工事を了り二十九分の短時間より少き時間を以て世界の各方面に通信し得る見込なりと

●日遲協會　大谷嘉兵衛、大谷光演、戸水寛人、朝比奈知泉、江原素六、小栗富次郎、神鞭知常等の諸氏は日遲協會なるものを設立せり其計畫の大要左の如しと云ふ、

一日遲協會は兩國の通商貿易に從事するものに對し特殊の便宜を圖る事

一日遲協會は兩國人士の社交を敦睦ならしむる爲め各要地に社交　樂部を設くる事

一日遲協會は兩國間に於ける宗教上の連鎖的發達を期する爲め春秋二期を以て宗教連合大會を開く事

一日遲協會は遲羅學生の日本來遊者に對し懇切に斡旋の勞を執るべき事

●米國の豐作　米國本年の玉蜀黍豫想收穫高は二十五億四千二百

五十一萬六千ブッセルにして昨年の實收額に比すれば十億二百萬ブッセルの増加に當り實に古今未曾有の大豐作なれば獨り農家の幸福なるのみならず之れが爲め鐵道の收入を増加し穀品及牛豚其他食料品輸出貿易の増大を來し直接又は間接に米國一般經濟社界に潤澤を及ぼすこと莫大なるべしといふ

●浦鹽行移民の手數料　移民會社の布哇移民の取扱手數料は一人に付廿圓なるが浦鹽斯德行移民の取扱料は一人に付金十三圓携帶家族は年齡十五年以下は一人に付七圓十二年未滿は無料と定めたり

●暹羅の海軍擴張　暹羅の海上防備力は極めて微弱にして總噸數八千噸に足らず、而も其軍艦は多く商船形に造られ居るを以て戰鬪力の點頗る危險なれば今後約五個年の繼續事業にて左の如く擴張する由

二等裝甲巡洋艦三隻　（外國注文製造）
三等裝甲巡洋艦二隻　（英國より購買）
二等砲艦四隻　（外國注文製造）
驅逐艦六隻　（同上）
水雷艇十隻　（同上）

●露國皇族の保險料　露國皇后は此程二百五十万圓の保險契約を結びたるが同皇后の長女は五百万圓皇帝は八百万圓皇弟ヘンリー親王は百八十万圓の保險を附しある由なり

●日本赤十字社長　去月二十二日の同社常議員會に於て伯爵松方正義氏と決定し先づ伯を理事に選擧したる上、更に互選の結果社長候補者として上奏手續中なり

●徵兵令の年齡計算法　年齡を計算するには月を以てせず日を以てすることゝなりたるに付陸軍省にては明治三十六年以後に於て徵兵令第二十五條前段（一月中に差出すべき滿二十歲屆）に依り屆出づべき者及其徵集せらるべき者の出生年月日は左の通りとする旨告示せり

	徵兵令第十五條に依り屆出づべき者	徵集せらるべき者
明治卅六年	自明治十六年二月一日生 至明治十七年一月一日生	自明治十六年一月一日生 至明治十六年十一月一日生
明治卅七年	自明治十七年一月一日生 至明治十八年一月二日生	自明治十六年十二月二日生 至明治十七年十二月一日生

明治三十八年以後は明治三十七年に準ずるものとす

●移民服裝に關する示達　神奈川縣廳は布哇行移民の服裝に關し各移民會社へ左の如く示達せり

近來布哇行我移民の服裝其他體に失し往々外人の嘲笑を招き候趣聞及候處此頃同地行移民を搭載せる汽船コレア號航路の都合に依り桑港へ迂回し同港に碇泊したるに同港土民は彼等服裝の不體裁なるのみならず男女共に肉體を現はし恬として恥ざるを見痛く驚愕したる趣今回其向より公報有之候處服裝の如きは細事に屬する儀なれども其餘り醜態に失する如きは多少國の體面にも相關し候儀に付向後移民の渡航に際しては服裝等一層注意を加へ男女夫々普通の風俗をなす様注意すべし

●國旗の歌優等者　文部省に於て昨年三月中懸賞募集したる「國旗の歌」に對し應募せし歌詞總數五百十二首に及びしが審査の結果牛込區白銀町三十五番地石原和三郎氏の分を最優等と認め賞金八十圓を同人に交付したり

明治三拾五年

公論日誌

其一

公論日誌　自十一月廿一日 至十二月十日

▲社會

十一月廿一日　▲今日の會合は　△鑛毒調査會后一時より政友會本部にて　△工場法案審査委員會后二時より東京商業會議所にて　△婦人出獄人保護所設立の費用の一部に充つる爲め今日より二日間早稻田大隈邸にて園遊會等にて候　▲千葉縣大川村尋常小學にて御眞影紛失云々にて捜索中との電報有之候　▲今晩御成道にて金側時計五十餘個を盜み持ちさる賊捕はれ候　▲本日より官線と關西線との連絡驛改正され候

廿二日　▲横濱に臨時競馬有之候　▲大日本體育會寄附大演藝會は今廿二日より明治座にて開かれ候　▲尙今日午后委托金費消、惡少年の空家にての焚火、腐窒扶斯、植木職の盜賊捕縛有之候　▲今晩本所區緑町に小火有之候　▲尙本日は二の酉にて御坐候　當日警察事故を擧げ候へば、迷子屆九六。同保護。一一〇。遺失七、拾得三、掏摸被害四。同犯五。醉漢三七七、老幼保護一〇四五、車止制止五〇〇、指道五四九五。喧嘩五五。放尿一〇七。危險防止七〇〇。跣足四三。醜體露出一五八。人力車夫說諭八五六にて候

廿三日　▲接骨病院慈善演藝會今明兩日午前九時より神田錦輝館にて開かれ候、▲今曉本所にて六十二才の老翁炭酸瓦斯に窒息して死亡致し候　▲本日横濱の地藏坂に女殺の未遂有之候、事は借金の催促嚴しきを遺恨に思ひての由かくて犯人は其坐に自殺を遂げ申候

地藏坂や千九百圓の人殺し

廿四日　▲畜牛肺病檢査員卒業式四ヶ原農事試驗所場にて　▲尙又常國古蹟取調會評議員會后三時より日本橋倶樂部にて開かれ候　▲今日横濱停車場にて近衞の兵士赤羽の切符を買はんとて斷はられたる驛の不親切なりとて拔劍したる騷ぎ有之候、傲慢なる兵士の馬鹿意張り不埒なる鐵道官吏の不親切相對して何と評すべく候やらん疑はれ候

二十五日　▲東洋倶樂部懇話會后四時より華族會館にて開かれ候　▲今日の電報に申來候松本に貰子殺有之秋田縣に土木に關して疑獄起り技師縣吏等拘引致されたる由に候▲本日警視廳にて大浦總監より勸工場に於ける非常口の物品堆積、火災豫防器、牛乳搾取業者の牛乳容器の清潔取締等に關し各警察署に說示有之候

二十六日　▲日本貿易協會商談會后五時開會有之候　▲本日北清事變中の個人損害拂渡四件交付せられ候　▲本日上海經由の倫電に曰はく英國航海者は年毎の調査によれば同國水夫の人員英人の海員七一九五の減少にて前回よりは、餘程の減少を來たせし由にて候　▲尙本日午后高松の電報は前代議士群馬縣農工銀行重役新井毫氏の入水を傳へ候原因不明播磨沖にて船中よりの事にて候へば死體も不明の由に候　▲今夜本所にて賭博最中巡査に踏み込まれ便所に逃げ込み腰下半身黄金佛となりたる者有之候捕はれて井戸端に洗はるる時又裸體にて逃げ出したる由に候　▲新橋五業組合臨時總會にて身元保證金全廢其他のことを議し候

二十七日　▲中央衞生會后一時內務省にて開かれ候　▲本日美術家川崎千虎氏名古屋にて腦溢血にて死去されし由電報に候

●

空屋の斬發……泥棒もいびきかゝすば知れまじな

もちにげ……もちにげや庄吉今年十九才

女の萬引……雛の夜に羽織萬引は女なり

白痴の迷子……深川に我名も知らず夜はふけぬ
傳通院、椽下……精舍老けて泥棒椽の下に住む

▲本日は品川の千躰荒神大祭にて候　▲今夕下谷にて女の剽盗有之候「寒き夜を女白浪の恐れ哉」

廿八日　△製鐵事業調査會前九時首相官邸にて　△同志會臨時總會后六時より日本橋坂本町東京醫會本部にて　△社會問題研究會后六時青年會舘にて開かれ候　▲本日朝鮮京城發の電報にて李容善は李容翊彈劾の上奏をなしたりと傳へ候　▲本日狂言師として有名なる山本東死去致し候、鉄道に忠なる彼は死する前、家人の食べたきもの聞きたるに、千秋樂や万歳など申したる由に候、宗論、姥ヶ酒等は彼の得意に候

廿九日　▲佛國同盟罷工の影響：港としてのマルセールの存在を危險にし且つ地中海に於ける佛國艦隊を危くすべしとの懼ありと倫電は傳へ候

三十日　▲本日高松發の電報は同香川縣會の大紛擾を傳へ候　▲今夜七時廿分頃下谷仲徒士町にて巡査の强盜に斬られたるが有之候　▲例に依て例の如く何の奇もなくして十一月も暮れ申候　▲本日千葉縣政友會大會懇親會席上に双方のさわぎ有りたるよし何處も醜き風のみ吹きすさび候

十二月一日　▲あゝ明治三十五年も最早最終の月と相成候扨て此最終の月の最初の日に如何なる出來事か候ひしなさけなきことに候へども例の通りの暗黒面なる左の二件を第一と申すべく候

工女虐待者の拘引(機織の打たれて泣ける霜夜かな)
日本橋の三人斬(までしばし豆腐にあらず主の腕)

第一は浦和の出來事にて次は豆腐屋の雇人主人を斬りたるにて候

▲尚今日后一時深川に痴情よりの自殺者有之候、尚其外慘事多く候へども畧し申すべく候　▲今夜新大橋の婦人投身こは南葛飾の某寺院の梵妻にて年は廿二才幸ひ生命は助かり候

何事ぞ佛をすてゝ投身とは

二日　▲日はく藝妓屋のピストル强盜

泥棒は車を召して盗み哉

▲日はく本所の工女斬り

名のれ／＼戀の恨みか泥棒か

▲日はく品川沖の颶風

鯊釣の綫はつりえて風をつり

三日　▲當世の人情(娼妓を欺く惡漢も有之候)間抜な泥棒(娘に捕へられたる泥棒も有之候)熨斗餅窃盜(盗み物は餅のみには候はず年の末なり追々に泥もふゑ可申候)品川の迷兒(人生の終末に迷はざる者幾人か候)已上は例の新報の題目にて候　▲本日前貴族院議員根岸武香氏死去致され候

四日　▲本日米公使バック氏千葉縣新濱御料地にて鴨獵の御催しに參列の際獵ちながら仆れて其まゝ長逝致され候　▲今夜十時奉公先の朋輩と小せり合ひしたる腹立まぎれに小石川關口の大瀧に投身したる美人有之候候名は稲救ひ上げられ候

小夜時雨小せり合ひより投身哉

五日　▲本日の會合は東京婦人矯風會演說會后六時青年會舘にて　▲聖書の友大會演說會后二時より同上にての二つにて候　▲本日前十時宇都宮發にて黑磯町大火八十戸燒失の電報有之候　▲尚本日農産品評會褒賞授與式の由足利よりこれ亦電報に候　▲午后五時ごろにて米

澤初雪の電報も有之候　▲本日は地方の電報に出來事多く二三件申上ぐべきは新潟縣會の紛擾と大阪の賣兒の卅五人殺と水戸の五人斬とにて候　▲尙今曉淡島に火事燒死一人有之候

六日　▲本日の會二三申すべく候第一は樞密院書記官細川部者送別會后五時赤坂八百勘にて次は警察協會講話會后一時より警察監獄學校にて其次は大日本婦人衛生會后一時東京女學館にて更々に其次は東京婦人矯風會大會前十時銀座會館にて其外社會主義演說會等にて御座候

▲本日の出來事は（一）朝鮮使の婦人死體着變へ漂着（二）栃木泥棒の捕縛（三）赤坂にて小僧の大火傷（四）支那人の一万二千圓盜まれしとの訴へ（五）新橋藝妓の逃亡（六）家内の風波で家を飛び出したる女房の說諭願（七）酒狂の喧嘩吹きかけ等にて候　▲本日衆議院にて議長副議長候補選擧有之候　▲本日相模灘にて難破船有之五名溺死致し候

七日　▲樞密顧問官赤十字社長佐野常民伯中風症の處本日死去致され候

▲本日發電報に曰はく「佛國議會は紛亂を極めたり」「弘前市大雪」「松本暴風雨」「新任駐日米公使は過般日本に來遊せし所管官事務員パーレット氏なるべし」已上の如くにて候　▲本日日本鐵道線にて三ヶ所に礫死二と負傷一と有之候

　師走七日何の出參りぞ鐵道路▲今曉芝にて自動電話を宿にしたる者有之巡査に御目玉頂戴拘引致され候
　もし〳〵もし私の宿は何番人

八日　▲（一）滋賀船渠會社臨時總會（地學協會にて）（二）福田會慈愛部發會式（前九時麻布笄町長谷寺にて）（三）東京市公民會晩餐會（后二時より日本橋濱町明田にて）（四）全國漁業有志大會（向ふ六日間赤坂溜池三會堂にて）已上は本日の會合にて御座候　▲本日遲羅皇太子奉迎の爲め來朝せし同國の武官等入京致し候　▲（一）殺客謀殺事件の終審の結果無罪と決定（木更津より）（二）縣會議員の拘引（千葉より）（三）新潟縣休會后又々紛擾（新潟より）已上電報にて候

九日　▲本日電報次の如くに候（一）露國軍艦極東に向ふ（倫敦發）（二）北海道鐵道會社開業式（函館發）（三）縣會にて知事不信任決議（大分發）（四）韓國より警備艦注文（神戸發）（五）漁業者縣廳に押寄す（六）信濃川分水工事建議反對案縣會にて可決（新潟發）　▲本日前十時議會開院式行はれ候

其他の雜件不相變にて別に面白き事も無之候

十日　▲又もや佛國に大々的同盟罷工即ち同國馬耳塞の船渠人夫は坑夫の同盟罷工に加はり如何なる國籍の船舶たるを問はず石炭積卸を拒み居る由電報有之候

▲政治

十一月二十一日　▲政友會財政研究會、中井喜太郎氏出席して日韓銀行設立談をなせり　▲憲政本黨行政部調査會調査事項に付き協議

二十二日　▲伊藤侯は夫人及鮫島氏令伴伊勢參宮の爲め出發、京都に至山侯と會見すべしと傳へらる　▲陸軍士官學校卒業式、華頂宮殿下臨御、卒業生總數六百七十名外に清國留學生廿五名あり

二十三日　▲代議士江間俊一氏收賄罪嫌疑を以て靜岡にて拘引せらる
▲貴族院議員子爵內藤政共氏は病氣の末逝去せり

二十四日　▲北淸事件從軍記章第一回授與人員三千五百八十八人　▲桂首相病愈へて熊本出發歸京の途に就く　▲駐獨公使井上勝之助氏歸朝す　▲增租繼續反對同盟會は事務所開始其他を全國へ通牒せり

二十五日 ▲伊藤侯京都に出て山縣侯と會見、談話は凡て秘密にされる ▲政友會代議士懇親會紅葉館に開催歩調一致の實漸く堅からんとす

二十六日 ▲山階宮菊麿王殿下には島津公爵令姉常子と結婚せられたり ▲伊侯と會見の結果山侯は神戸に赴きて桂首相と會見懇談さるあり

二十八日 ▲天皇陛下には陸軍大學校卒業式に行幸あらせられたり、而し仝校より遞幸の途參謀本部へ臨幸あり各武官へ御陪食仰付らる ▲製鐵所調査委員總會當局者と委員間に劇論ありしと云ふ ▲桂首相歸京せり ▲遣英軍艦淺間、高砂は無事横須賀に飯着せり

二十九日 ▲各大臣は首相官邸に參集し首相不在中、政務に付協議せり ▲陸軍中將土屋光春氏以下陸海軍武官千四百余名は定期叙勳せらる

三十日 ▲伊侯は松方伯を其邸に訪て二大問題に付長時間秘密協議をなせり ▲伊侯は政友會總務委員を自邸に招き重要問題に付協議せり

十二月一日 ▲伊侯は首相邸にて首相海相内相藏相等と會し二大問題に付四時間程其意見を開陳せり ▲政友會總務委員は伊侯邸參集協議の結果として二大問題に付秘密會を開けり ▲政友會北信八州大會を開き行政刷新財政整理前決二大問題非決をなせり

二日 ▲内閣會議各大臣參集長時間協議する所あり問題は依例如例なり ▲政友會總務委員は本部に會して大會準備の決議をなし、終て伊侯を訪ふて種々協議する所ありたり▲憲政本黨政務調査各部委員總會を開き主義宣言書及黨則改正案可決▲貴族院六派交渉委員も會を開き時事に付き秘密協議をなせり ▲天皇陛下には日本美術協會へ行幸被遊れ、皇后陛下には濱離宮へ行啓被遊れたり

三日 ▲陸軍中將関澤精氏は旭日大綬章を授けられたり ▲藤侯隈伯は加藤高明氏邸の晩餐會に臨み會見せり▲桂首相は藤侯を其邸に訪ひ侯の提議に對する内閣の意嚮を開陳せりと傳へらる、而して其后首相は自邸に飯り農相藏相と長時間協議せり ▲政友會協議會開催席上末松男の時事に對する決心演説あり ▲貴族院團體木曜會にては財政問題に付協議し松尾理財局長出席説明す

四日 ▲政友會大會々者四百余名政府反對方針決議等を可決し次に伊藤總裁の一時間半に亘る大演説あり、午後懇親會を帝國ホテルに催す ▲憲政本黨も仝く大會を催ふし會者亦彼と定議し宣言書及黨則改正等を可決し、終て大隈總理は激烈なる政府攻擊演説をなせり ▲土木會議内務省に開催一週日位にて結了すべし ▲貴族院議員根武香氏逝く

五日 ▲后藤新平氏以下台灣總督府專賣局員は阿片制度に關する功勞により各々叙勳せられたり ▲兒玉台灣總督出京せり ▲臨時閣議首相官邸に開かれ議會提出議案に付種々協議する所あり ▲政友會代議士總會、院内總理全幹事及部長理事選定并に調査部規定の決定等あり院内總理には松田尾崎大岡三氏を推選せり ▲憲政本黨も亦代議士總會を催ふし大石氏を院内總理に推し正副議長候補者は政友會推薦の通り片岡元田兩氏を推すに決定せり ▲帝國黨大會々者六十余名宣言書及黨則改正決議あり佐々友房氏は政府贊成演説をなせり ▲目黒貞治氏は代議士資格消滅大審院にて決 ▲華族倶樂部組合を催ふし二大問題に付き討議 ▲研究會も仝様 ▲二條正麿氏は特旨を以て華族に列せられ男爵を授けられたり

六日 ▲政友會院外者有志協議會を開き大會決議を承認實行するに可決

七日 ▲赤十字社長佐野常民伯は急性肺炎に罹り逝去せり年八十一病危篤の旨天聽に達するや殊に位一級を進め旭日大綬を授けられたり

八日 ▲内務省土木會議は五大河川改修を可決し道路法案は委員に附托 ▲政友會臨時政務調査委員會を開き調査方針分擔の決議をなせり

無料宿泊所廣告

目的

茲に吾等無料宿泊所を設け木賃宿にも宿する能はざる無告の窮民を宿泊せしめ併せて其種類性質により養育院感化院孤兒院慈惠病院等に入院の手續を取り職を得ざるものには就業の手續を取り依るべき所なきもの之が爲には同情を以て其加擔者となりて種々の勞を取り成るべく未然に慘狀より救助するの方法を取らんとすこれ蓋し窮民其者を窮苦より救ふのみならず社會の罪惡と損失とを豫防する點に於て蓋し効益尠少ならざるを信ずればなり

經過

明治三十四年四月創立より昨年四月に亘れる滿一ヶ年間に於ける成蹟表左の如し

養育院へ入院の手續を運びやりたる者	三十八人	業務を與へたるもの	八十一人
共濟慈善會へ送りたるもの	一人	東京感化院へ送りたるもの	一人
福田會へ送りたるもの	四人	警察署へ引渡したるもの	二人
宿泊のみせしめたるもの	二千八百九十四人	計	三千〇二十一人

一 本所の事務は當分の内淺草區松清町三十九番地大草惠實方小石川區大塚辻町十九番地安達憲忠方に於て取扱ふ

規約

一 本所は左の數項を實行するを以て目的とす

住所なく宿泊すべき金錢を所持せず露宿せざる可らざるの悲境にあるものを止宿せしむること、貧兒孤兒迷兒又は扶養者なき病者等を養育院又は孤兒院施療所等に入院せしむるもの、手續を取計ふ事

無職業者を工業會社又は土工等の適當なる場所に紹介し業務に就かしむる事

一 本所にて止宿せしむるものは左の種類のものとす

地方より來りて宿泊を許すべき費用なく一時困難するもの

路頭に迷へる老幼男女、路頭に病める者、正業なくして困難する者

一 左の者は宿泊を許さず、金錢を所持する者又は飲酒したる者、本所の紹介に依て職業に就くも怠惰にして再び業務を離れ困難する者

一 本所に於ては身分帳を調製し宿泊人の住所氏名職業年齡困難に陷たる原因本所が紹介したる場所等成る可く詳細に記入し賛助員に報告するものとす

東京市淺草區松葉町二十九番地

無料宿泊所